

2015-16年度に向けて

地区研修・協議会
District Training Assembly
報告書



世界へのプレゼントになろう

地区研修・協議会ホストクラブ
第2分区 鎌ヶ谷ロータリークラブ

国際ロータリー 第2790地区
櫻木英一郎ガバナーエレクト事務所

〒260-0042 千葉市中央区椿森 3-1-1-301

TEL: 043-307-2790

FAX: 043-307-2791

E-mail: 15-16gov@rid2790.jp



アパホテル&リゾート東京ベイ幕張
2015年4月29日(水)

2015-16年度 RI テーマ

Be a gift to the world

世界へのプレゼントになろう

基本理念	Ideal of Service	1912年(大正1)	E.L. スキール
第一標語	Service Above Self	1911年(明治44)	F. コリンズ 当初は not 1920・大正9頃 aboveに
第二標語	One Profits Most Who Serves Best	1910年(明治43)	A.F. シェルドン 当初は He 2004・平成16 Theyに 2013・平成25 Oneに

ロータリーの目的

2012年(平成24)日本語訳を綱領から目的に改定 条文の訳も改定

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

目 次

目 次	1
プログラム	4
歓迎の言葉　ホストクラブ・鎌ヶ谷RC会長　高橋　徹	5
ガ　バ　ナ　ー　挨　拶　　　　　　　宇佐見　透	6
次期地区研修リーダー挨拶　　　　　山田　修平	7
地区研修・協議会開催にあたり　　　櫻木　英一郎	8
地区研修・協議会 受賞者一覧	11
会 長 部 会	15
幹 事 部 会	23
管理運営部会	27
会員増強部会	41
IT広報公共イメージ部会	45
フェローシップ部会	50
奉仕プロジェクト部会	57
青少年奉仕部会	77
ロータリー財団部会	87
米山記念奨学会部会	93

全体会議



司会
次期地区幹事長 梶原 等



ホストクラブ歓迎の言葉
鎌ヶ谷 RC 会長 高橋 徹



地区研修・協議会開催のご挨拶
ガバナー 宇佐見 透



地区研修・協議会によせて
次期地区研修リーダー 山田 修平



次年度 RI 会長方針・地区運営方針
ガバナーエレクト 櫻木 英一郎



ガバナーノミニー挨拶
ガバナーノミニー 青木 貞雄



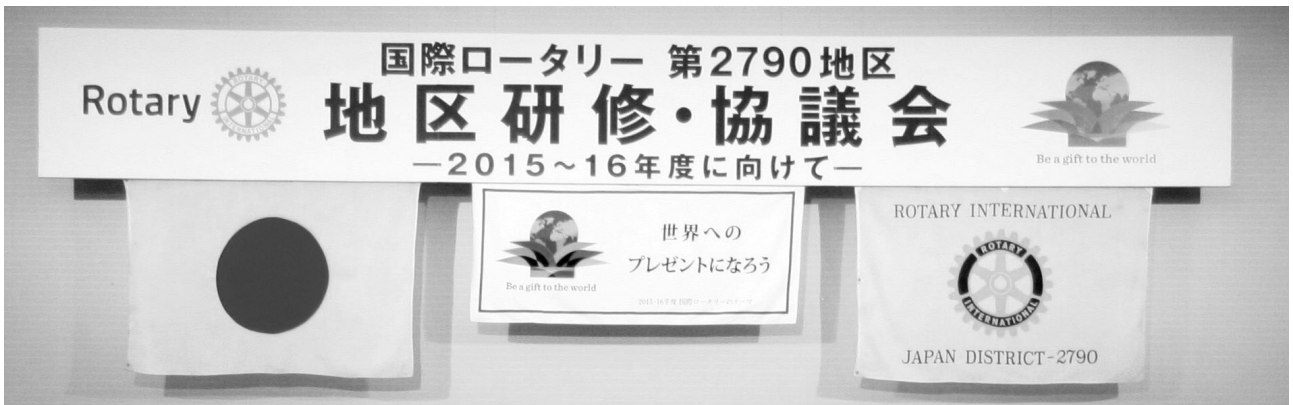
次期ホストクラブ挨拶
松戸北 RC 会長エレクト 小澤 盛明



地区大会の案内
次期地区大会委員長 大木 康司



地区大会記念ゴルフ大会のご案内
ゴルフ大会実行委員長 名取 始



地区研修・協議会表彰
地区幹事長 始平堂 玄昌



プログラム

9:00 登録開始

第一部 本会議

		司会：次期地区幹事長	梶原 等
10:00	点 鐘	ガバナーエレクト	櫻木 英一郎
	国歌斉唱		
	ロータリーソング「奉仕の理想」		
	ホストクラブ歓迎の言葉	鎌ヶ谷RC会長	高橋 徹
10:10	地区研修・協議会開催のご挨拶	ガバナー	宇佐見 透
10:20	地区研修・協議会によせて	次期地区研修リーダー	山田 修平
10:40	次年度R1会長方針・地区運営方針	ガバナーエレクト	櫻木 英一郎
11:15	表彰	ガバナー	宇佐見 透
11:40	ガバナーノミニー挨拶	ガバナーノミニー	青木 貞雄
	次期ホストクラブ紹介	ガバナーノミニー	青木 貞雄
	次期ホストクラブ挨拶	松戸北RC会長エレクト	小澤 盛明
	地区大会の案内	次期地区大会委員長	大木 康司
	地区大会記念ゴルフ大会の案内	ゴルフ大会実行委員長	名取 始
	諸事お知らせ	次期地区幹事長	梶原 等
12:00	点 鐘	ガバナーエレクト	櫻木 英一郎

昼 食

第二部 部会別協議会

13:00			
	会長部会	地区予算案採決	
		方針説明 依頼事項	
		質疑応答	
	他部会	方針説明 依頼事項	
		質疑応答	
		各部会の協議会終了後に各自で閉会、解散して下さい	
16:00	最終時刻		



歓迎の言葉 地区研修・協議会ホストクラブ挨拶

2015年地区研修・協議会ホストクラブ
鎌ヶ谷ロータリークラブ 会長 高橋 徹

皆様、おはようございます。

国際ロータリー第2790地区2014-15年度地区研修・協議会の開催にあたり、ホストクラブを代表いたしまして御挨拶を申し上げます。

昨年の地区研修・協議会に於きまして、ホストクラブの指名をいただきましたが、皆さまご承知の通り、ホストクラブとしての指名は、クラブ創立順で受けることになっておりますので、当クラブには経験がありません。

実質、企画・運営・会場設営等は、櫻木ガバナーエレクトを始め、梶原次期地区幹事長、千葉ロータリークラブの皆さまのご尽力のお蔭で、本日を迎えることが出来ました。この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

しかしながら、不行き届きの点もあろうかと思いますが、ロータリーの友情と思いやりをもって、お許しいただければ幸いです。

新しい年度に、地区そして各クラブにおきまして重要な役割を担う皆様が本日の研修で一層の認識を深められ、ご活躍くださることを心よりお祈り申し上げます。

さらに櫻木年度の輝ける出発と各クラブの益々のご発展を祈念申し上げまして、簡単ではありますが、歓迎の言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。



ガバナー挨拶 地区研修・協議会の開催によせて

国際ロータリー第2790地区
2014-15年度 ガバナー 宇佐見 透 (千葉幕張 RC)

皆様、おはようございます。

桜が散ったあとの寒波再来に少しばかり驚きましたが、季節は間違いなく巡り木々の新緑が美しく目に映る頃になりました。

本日開催されます地区研修・協議会はいわゆる三大セミナーの最後を締めくくるセミナーで次年度に向けての最終協議会です。次年度、各クラブの委員長に就任される皆様を中心に本日の開催となりました。3月7日開催された地区チームセミナーに参加頂いたガバナー補佐と地区委員会委員長の皆様、次いで同月28日開催されたPETSに参加頂いた84クラブの会長には再度ご参加頂き、本日は地区パストガバナー、地区役員の皆様、次期クラブ幹事にもご参加を賜り、本協議会が盛大に開催されますこと心よりお祝い申し上げます。

櫻木ガバナーエレクトは年明け早々の1月17日に渡米され、サンディエゴにて次期RI会長ラビン・ドラン氏より次年度RIテーマ“Be a gift to the world”の発表を受け、一週間にわたり連日、オールジャパン34地区の同期ガバナーと様々な角度から協議を重ね、次年度当地区活動方針を考察、検討されました。帰国後すぐに二つのセミナーを開催し、次年度活動方針を纏め、本日皆様にその最終案を発表されます。皆様は本日発表される櫻木英一郎次期ガバナーの方針をしっかりと受け止め、各部会での新委員長による地区活動方針を共有し次年度活動計画の作成に取り掛かって頂きたいと思っております。

今年度、私は地区にDLPを新たに導入し組織を改編させて頂きました。これには前年度の関口パストガバナーとの連携が必須でした。前年度、会員増強を主目的とした四人組行動隊と名付けられたチームが組織され、私達の活動を地域の方々に直接伝える方針が打ち出されました。今年度DLPに基づいた社会奉仕と国際奉仕を一体化した奉仕プロジェクト委員会が地区補助金を使ったプログラムを推進させクラブは活性化致しました。加えて地域のイベントに併せたロータリーデーが開催され、会員全員で地域の方々との相互理解を深めるなど充実した展開

がなされました。活動内容が理解された後、会員全員で活発な増強活動が展開され、会員増強は今のところ大幅な改善が出来ております。今まで私達の活動は「陰徳の美」という言葉により多くの方々には伝わり難いものとなっております。会員の減少は長い間、私達の活動を弱め、円滑な活動を妨げる大きな問題でした。今年度の増強活動は各クラブの会長を先頭に会員全員で一丸となり、地域の方々と活動を共に出来た結果だと思っております。改めて皆様に感謝申しあげ、この流れを是非CLPにも移行し、クラブの活性化の大きなステップにさせていただけたらと願います。公式訪問の際、クラブ協議会では、DLPの導入理由を中心に卓話させて頂きましたが、理解出来たので再度検討するとの意見をいただき公式訪問の重要性を感じました。

ガバナー補佐の皆様には、未熟な私の代行役として各クラブの執行部の方々と緊密な連絡をお取り頂き、分区内の実情に見合ったサポートをして頂きました。

櫻木エレクトとは分区が同じことから、それぞれの事務所を隣接して構えることが出来様々な情報共有が出来ています。ロータリーは単年度制を原則としていますが、私は関口直前ガバナーから組織としての基本であるクラブ定款や細則について多くのご指導を頂きました。私も同様に、櫻木エレクトへ細部にわたり伝えますので、私が成し得なかった問題に改良を加え、更なる飛躍を遂げられるものと確信しております。また今年度地区組織に係わられた委員長の方々にも同様に次年度委員会への申し送り等、最大のご協力をお願い致します。

“希望の風”活動は今年度、地区広報委員会が主体となり千葉市内PTAの協力を得て大きな成果を得ることが出来ました。次年度も出来れば何らかの形で明かりを灯して頂けたらと願います。

末筆になりましたが、地区研修・協議会をサポート下さいますホストクラブの鎌ヶ谷ロータリークラブの皆様並びに梶原次期地区幹事長と地区幹事団の皆様、更にご指導されます山田修平次期研修リーダーと研修委員の関口パストガバナーに感謝申し上げます。



地区研修リーダー挨拶 クラブ活性化のために

国際ロータリー第2790地区

2015・16年度 地区研修リーダー 山田 修平 (木更津東 RC)

次期クラブ会長と次年度に重要な指導者の役割を務めるため次期会長によって指名された皆さんは、既に次年度に向けて準備を整えたでしょうか。

クラブにおける役職によって異なりますが、それぞれの立場で皆さんはクラブの活性化を図るようにして頂きたいとお願ひします。

私は、多くの皆さんにロータリーについての認識を改めて頂きたいと思っています。ロータリークラブには自治権があると言われる方がおられます。日本語の自治権というと、なんでも自分たちで決められると思ってしまうので、私は余り好きな言葉ではありません。手続要覧には、クラブの裁量によって、という表現は数ヶ所ありますが、クラブの自治権という表現はありません。標準ロータリークラブ定款は、皆さんのクラブの定款ですが、自治権があるからといってこの定款を勝手に変更する訳には行きません。なぜそうなっているのでしょうか。

ロータリー創立以後、多くの都市でロータリーが拡大されました。これら初期のクラブは独自の定款を採用していましたので、数多くの目標が存在していました。ロータリーが目指したものは、数多くの目標や原則に沿う異なる組織ではなく、ロータリーとして一つの統一された運動を目指さなければならぬと、当時の国際連合会で決議されました。現在の国際ロータリー (RI) は、全世界のクラブの連合体ですが、RI に加盟申請する場合には、その申請書に RI 定款・細則を順守し、定款として標準ロータリークラブ定款を採用することを誓約する旨の記載があります。ですから皆さんのクラブも、この定款を採択しなければなりません。これによって全世界のロータリークラブが同じ目的を持ち、一つの統一された運動を目指している訳です。

定款第4条が「綱領」から「目的」に変更され、条文も変更になりました。この変更は、正文である英語が変更になったわけではありません。日本語訳が変更になっただけです。しかし、この変更により

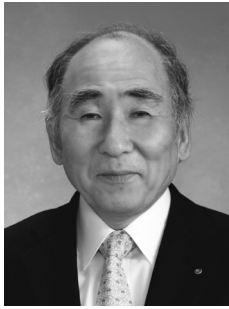
ロータリーの目的がはっきりしました。この目的を達成するために、皆さんはそれぞれの立場で活動して頂きたいのです。

皆さんは、既に次期クラブ会長からそれぞれ立場での活動内容等の指示があったと思います。その指示された任務を実現するために、次年度1年間しっかり運営してください。次期会長からの指示がないクラブの場合には、次期会長とよく話し合っ、皆さんの担当する委員会は何をやるべきかを決めてください。皆さんのクラブで活動計画書を作成しますが、その計画書にはっきり明記してください。

クラブ活動計画書を作成する際に、過去2~3年間位の計画書を並べて、少し内容を変えて記載するというクラブが多いと感じています。そうではなくて、過去の計画書は参考にしても良いですが、願わくは白紙の状態、様々な資料を見て、皆さんの地域社会の実情を調査して、皆さんの担当する委員会活動を記載してください。本日午後開催される各部会での説明や討論も、大いに参考にしてください。

会長エレクト研修セミナー (PETS) で、次期会長の皆さんには従来通りのやり方はしないで頂きたいとお願ひしました。クラブで社会奉仕活動や国際奉仕活動を積極的に展開しておられるクラブは、これらの活動を続けて頂きたいのですが、これらの活動をされていないクラブは、是非とも活動を計画して頂きたいとお願ひしました。

これらの活動を実施する奉仕プロジェクト委員会や、社会奉仕委員会、国際奉仕委員会等の委員長に就任される皆さんには特にお願ひします。最初から大規模な活動を計画されても、資金面で実施出来ないことも心配されます。ですから、最初から大規模な活動ではなく、地域社会に役立つような活動で、比較的資金の心配のないような活動を計画されたら如何でしょうか。大切なことは、クラブの会員全員で何かに取り組むことです。これにより、クラブを活性化してください。——健闘をお祈りします。



2015-16 年度に向けて 地区研修・協議会の開催にあたり

国際ロータリー第2790地区
ガバナーエレクト 櫻木 英一郎 (千葉 RC)

1. 始めに ご挨拶

本日は次年度の地区内各クラブを牽引するリーダーの方々にご参集頂き有難うございました。この協議会は各クラブの次期リーダーの皆様が充分にその力を発揮して次年度の活動を遂行される際の一助として頂く為の会です。

本日は多くのパストガバナーの皆様、ガバナー補佐の皆様にもご出席頂き有難うございます。また、分科会の各部会を企画して下さった地区委員会の皆様、この協議会を準備してくれたスタッフやホストクラブの皆様にも厚くお礼申し上げます。

2. 三大セミナーの意義 地区研修・協議会の意義

本日の本会議では次年度の国際ロータリー (RI) のテーマや RI 会長の方針を、併せて本地区の次年度の活動方針をお伝えいたします。これは全世界のロータリークラブに RI の方針を大前提とした活動が期待されていることを判って頂く為です。

併せて、RI の出先機関ともいべき地区の次年度の運営方針も聞いて頂きます。

本会議後の分科会にては地区の各委員会の活動方針を各クラブの該当する委員会の委員長の皆様にお伝えいたします。

また、会長部会、幹事部会ではクラブ運営の全般についての話をさせていただきます。

会長エレクトは義務出席

3月7日の会長エレクト研修セミナー (PETS) に続いてこの地区研修・協議会に参加する事は会長エレクトが次年度の会長になる為の必須条件です。これは各クラブがロータリークラブとして存在する上での規律です。

ロータリーの年度

ロータリーの毎年、ガバナーノミネーターが7月1日にガバナーエレクト (GE) という称号を得て、ノミネーターの素案をガバナーとして活動する為に具体的に計

画立案する事に始まります。GE年度の9月、11月にはガバナーエレクト研修セミナー (GETS) でガバナーの基礎勉強をし、年が明けた1月にはサンディエゴでの国際協議会に参加する事の二つがガバナーになる為の必須条件です。

このサンディエゴでの国際協議会で自らのガバナー年度の RI 会長の RI テーマや方針を学びます。

三大セミナー

それを地区に持ち帰って地区内に周知するのが GE の役目です。併せて自らの地区運営方針も皆様にお伝えします。

その方法は、第1番目に地区チーム研修セミナーで次年度の地区のスタッフである地区役員や各委員会にお伝えして地区チームの意思統一を図ります。第2番目に会長エレクト研修セミナー (PETS) で次年度のクラブ会長さんにお伝えします。第3番目に本日の地区研修・協議会で各クラブの会長エレクトと主要委員長さんにお伝えします。このように徐々に伝える相手を細分化してゆく、いわゆる三大セミナーと呼ばれる一連のセミナーです。

その次に IM の開催をお願いしました

私はこの三大セミナーに続いて、更に地区内の各会員の皆様にも RI 会長方針、地区運営方針、そして私のロータリーに対する考え方を直接お伝えする機会として次年度の始めに IM をお願いしました。

地区内 14 の全分区の IM でラビンドラン次期 RI 会長のテーマである [Be a gift to the world] の解釈、私の地区行動目標である「原点を知り、考える」の意味、また地区の活動方針をお伝えしたいと思います。

また、地区方針の一つである「ロータリーをやさしく理解する」の具体的な事も話をさせていただきます。

3. RI の動向

2015-16 年度 RI テーマについて…世界へのプレゼント

次年度の RI 会長であるスリランカのコロナボ RC 所属の K.R. ラビンドラン氏は 2015 年 1 月 18 日、アメリカのサンディエゴに於ける国際協議会の開会

式で「我々は命、愛、その他多くの物をもって今まで生きてきた。今度は我々がそれをお返しする番だ」という内容のスピーチをされました。

続いて「Be a gift to the world」(世界へのプレゼントになろう)というテーマを発表されました。

このテーマは、ロータリアンとしての行動や意思を言うのではなく、「自分の意思や行為の全部が世界へのプレゼントになるような、そんな人間になろう」という意味だと思えます。

そして「皆さんの立場でこれができるのは一年だけです」という言葉が続きました。

これはクラブ会長、幹事、クラブの委員長、また地区のそれぞれの役職や立場の人にも通じる言葉です。

仏教思想を根底に持つスリランカの人らしい、我々日本人も受け入れ易いテーマだと思います。

理論主体の団体から実践重視の団体へ

RIは1990年代からロータリーを実践重視の団体と考えるようになりました。ロータリーの事業活動の実践に於いて、より高い効果が得られるようにするための方策も次々に提示して来ました。その基本となるのが戦略計画であり中核的価値観、活動の重点分野などと言われるものです。

毎月の特別月間も活動の重点分野を全部当て嵌めた特別月間になりました。

RIはこれを益々強化しつつあります。

陰徳の団体から認知される団体へ

事業を効果あらしめるため、そして組織強化を視野に入れた会員増強の為にロータリーを正しく社会に認知してもらう様々な方法も提案されています。その顕著な例が新しいロゴマークを作った事です。今後、活動の多くの部門のロゴマークも提示されます。

また、ロータリーを正しく広報する為の要素としてロータリーボイスも用意されています。

これらを効率よく行うためにオンラインツール、SNSなどのインターネットの活用が不可欠となります。

変化を受入れる

地球上の46億年に亘る生物の歴史で環境の変化に対応できたものだけが生き残りました。強大な力を持ち巨大化した生物の多くは絶滅しました。その中で人類は知恵を持ち、道具を使い、外部の環境に対応して生存し続けることが出来ました。生存するのみではなく高い文化を持ち文明を享受しています。

皆様のクラブや会員個人の活動はどうでしょうか？ 上手く変化を受入れているのでしょうか？

4. 地区の方針

地区の活動目的について

「ロータリー地区の活動ならびにその組織は、ロータリークラブを支援し、その取り組みをさらに高めることを唯一の目的とする。」と定められています。言い換えれば、各クラブの会員が誇りを持つクラブ作りの支援をする事です。そのために大事なことはクラブの会員全員が慣習や運営方法を見直し、刷新を図るという意識を持つことが大事です。このような雰囲気は各クラブに伝わるような地区活動を心がけたいと思えます。

2015-16年度地区行動目標について… 原点を知り、考える

次年度の地区行動目標は「原点を知り、考える」と致します。RIテーマは活動の目標ですが、これはロータリーの諸事を考える場合の基本姿勢です。

例えば、1905年にロータリーが誕生したという事実を知るだけでなく、その当時の時代背景を知り、その後の影響を考えることでより深く「ロータリー誕生」を理解できます。

決議23-34、それに続く三大奉仕の概念の出現、四つのテスト、DLPやCLPなどあらゆる事に於いてもその事実を知るだけでなく、その前後の流れを考えればロータリーの理解も深まると思えます。

ロータリーをやさしく理解する

「ロータリーは難しく理解できない」という言葉をよく聞きます。これがロータリーへの熱意や興味を減少させ、やがてはロータリー離れに繋がるのではないのでしょうか。

そこでまず第一歩としてロータリーをやさしく理解する事から入ることが有効だと考えます。その後徐々に理解や意識を高めて行けばロータリーに対する尽きることのない興味が湧きます。

これが活性化に繋がっていきます。

各クラブへのガバナー公式訪問

IMでの私の話を肴にして各クラブ公式訪問で意見交換をさせて頂きます。

ガバナーの言う事を聞く会ではなく意見交換です。それが地区内のロータリー意識の更なる活性化に繋がる事を希います。

目指すところ

私の究極の目標は、ガバナー候補を沢山作る事、ガバナーになる人を増やす事にあります。これは地区の慣習、ガバナー選出の制度、地区の意識、クラブの意識、会員の意識などの全てがその方向に向か

なくてはなりません。

その一環として、地区としてガバナーが出来る事をやっけて行こうと考えております。地区方針、地区組織、地区予算の全てにその意向を盛り込みました。その中でも一番重要な要素は会員の皆様の意識の活性化です。

ガバナー候補が多く出る為には地区が活性化するという要因・原因が必要であり、ガバナー候補が安定して続く事は地区が活性化する結果をもたらすと信じます。

これらを成せるのは地区内の各クラブであり、クラブのリーダーであり、会員の一人一人の意識です。

5. まとめ

RI と地区

ガバナーはRIの役員としてRIの執行側の立場です。よって、ガバナーが組織する地区はRIの出先機関だといえるでしょう。則、RIの方針を振興する役割を帯びています。

RIとクラブには理事会がありますが、出先機関である地区には理事会はありません。地区が決定機関ではない事をも意味すると思います。

一方でガバナーはRIの規定や方針逸脱しない範囲内で地区の運営に於いて強い権限を与えられていることを意味します。人事や地区の運営方針の決定などはガバナーの専権です。

また、分区の統廃合やクラブの終結などの判断もガバナーに任されています。

RI 方針と地区の活動

私はRIの方針を重視するが故に、ロータリーの実践活動の根本を成すロータリーの理念や理論も重視したいと思います。実践活動はロータリーとしての理念から発します。あくまでも会員個人の任意と自主性による行動で成り立つ各ロータリークラブであることを忘れてはならないと考えています。

ロータリーは政府や国連、WHOなどとは異なり、個人の活動によって構成される民間団体である事が基本だと考えます。

RI 方針とクラブ

各クラブはRIの会員であり、RIの執行側ではありません。然り乍らRIの会員である以上はRIの規定を守らなければなりません。RIの統一規定の下で各地にて活動を展開するのが各クラブです。また、クラブは地区の構成員でもあります。よってRIの規定を遵守し、地区の方針を重視する事が求められます。決して自由な独立団体ではない事を認

識して頂きたいと思います。

ロータリーは非常に幅広い活動をしています。ロータリー財団が主導する地球規模の活動もロータリー、皆様のクラブや個人が行う地域密着の活動もロータリーです。その両方に目を向ける必要があります。

CLPの推奨

ガバナーの役割の一つに地区内のクラブにCLPを推奨する事があります。これはクラブの活性化を促す意味があります。

CLPを一言で言うと、「クラブが目標を立ててその目標に向かうための方法を講じる事」と言えるでしょう。これは活動のやり方の考え方であり、単に組織図を変えることではありません。

更に、推奨の組織図に変える事ではなく、目標達成に向けて必要な委員会を設置する事です。

クラブの目標は様々なのでクラブによって異なるCLPがあり、委員会や組織図も違うものとなるでしょう。

ロータリークラブを単に会員が集まって食事をする会に終わらせないためにも、自分のクラブの為のCLPを検討して頂きたいと思います。

終わりに

本日ご参集の各クラブの次年度のリーダーの皆様はこの地区研修・協議会で得た知識や気付きを十分に活用して、それぞれの立場でクラブ活動に於いて、仕事や商売に於いて、地域社会活動に於いて、国際活動に於いて他の人へのプレゼントたる存在になって頂きたいと思います。

地区研修・協議会受賞者一覧

2014-15 年度

(敬省略)

クラブ奉仕活動優秀クラブ

《クラブ会報優秀クラブ》

八日市場ロータリークラブ

地道な会報作りに、クラブ会員の真摯で前向きな姿勢が伺われ、クラブの歴史を綴るのに相応しい会報となっている。

富津中央ロータリークラブ

クラブ会長を中心として、活発なロータリー活動を展開されている様子が、会報をとおして伺う事が出来る。

富里ロータリークラブ

会報作成にあたり地道な努力の成果が伺われ、クラブの広報誌としての役割を十分に果たしている。

《クラブ奉仕活動優秀クラブ》

柏東ロータリークラブ

スリランカの地域で、子供達への文具用品及び学業に必要な辞書や図書を含め、学力向上に向けて人道的発展と「子供たちに夢に向けての支援」をおこなっている。

勝浦ロータリークラブ

千葉県立盲学校の生徒と父兄を招待し、水泳・花火・乗馬体験などを実施。千葉日報、フェイスブック、ロータリーの友等メディアにも積極的にアピールし、広報活動に貢献。第5分区の「ロータリーデー」6クラブ合同例会にも参加し地域のロータリー広報活動にも貢献している。

《職業奉仕活動優秀クラブ》

千葉西ロータリークラブ

職業奉仕を例会の中で取り組んでおり、毎例会でSAA 指名により告知無しで「四つのテスト」の唱和を行っている。『四つのテスト』は、4つの内どれかについてバラバラに実践するのではなく、あらゆる場面で四つ全てを基本として実践することで事業を繁栄に導くとして捉え実践している。

更にはロータリーの目的、ロータリーの行動規範など常に意識を持ち、何事においても、全会員で真剣に取り組んでいる。

新入会員に職業奉仕とは何かという説明が出来ますか、という命題を常に持ち、ロータリーにとって「奉仕の理想とは何か」などの職業奉仕の考え方の重要性という内容で結果を求めている。

《会員増強優秀クラブ》

松戸中央ロータリークラブ

RI の最重要課題である会員増強に関し、積極的な退会防止策を検討し会員増強に注力した。今期会員純増 8 名の実績を果たし、分区分びに地区の発展に大きなインパクトを与えた。

《社会奉仕活動優秀クラブ》

習志野中央ロータリークラブ

地区補助金によりスナッグゴルフ用品を購入し、地元の子供達を中心にスナッグゴルフ競技会を開催。また、ロータリーデーと位置付けし、一般市民対象にもスナッグゴルフ競技会を開催。競技会を通して教える者、学ぶ者の両者にとっての有用性と、子供達の未来のために、今後も普及に努める。

船橋東ロータリークラブ

地区補助金により、2007 年より継続事業である太陽光パネルと小型風力発電機を備えた発電設備を船橋市をとおして市内小・中学校 4 校に寄贈。設置と共に自然エネルギーの活用を考える『エコロジーを子供たちに!!』と題し環境学習講演を毎年実施。

船橋西ロータリークラブ

- ①ふなばし市民祭りにて街頭無料相談会を実施。『法律・医療・介護・税金・年金・不動産・人権』等について相談を受ける。
- ②市内の小学校で総合警備保障の協力を得て、子供達が安全に暮らせるよう講習会を実施。
- ③船橋市ミニバスケットボール協賛。
- ④ロータリアンの職業をとおし「キャリア教室」として小中学生を対象に出前講座を実施。

⑤千葉ジュニアスプリングテニストーナメント大会協賛。

松戸東ロータリークラブ

- ①災害により被災された方達に、迅速にまた多額な寄付をされ、被災者救済活動に多大な貢献をされました。
- ②「盲導犬普及支援プロジェクト」を実施し、盲導犬に対する社会的認識を高めた。関連団体への多額な寄付も含め多方面への支援活動や地域住民へ対し啓蒙活動を行った。メディアからも高い評価を受けロータリー広報活動の一環となった。

鎌ヶ谷ロータリークラブ

2005年より毎年、市内の小学校へ出前落語教室を実施。青少年に、笑いをとおして豊かな心を育むため、毎年実施している。

多古ロータリークラブ

今回3回目を迎える、地元小学校対抗駅伝大会をロータリーデーの事業として実施。更に『出前教室』も「人セミナー」と名称を変え、今年10年の歳月を積み重ね、荒廃しきった学校に一週の光をあてている。

《広報活動優秀クラブ》

松戸西ロータリークラブ

今年のRI会長の提唱する「ロータリーデー」を積極的に実施した。“松戸まつり”の中で、社会問題化している『危険ドラッグ撲滅運動』を取り上げ、広報活動として参加した。またソーシャルメディア・ビデオコンテスト、「ロータリーの友」への掲載など、積極的に広報活動に取り組んだ。

《青少年奉仕活動優秀クラブ》

八千代ロータリークラブ

八千代中央ロータリークラブ

地区補助金により、いじめや自殺、引きこもり、無気力といった子供達を一人でも無くすことを趣旨に「子供たちが夢を持ち、自ら目標に向かって努力し仲間を大切にする心が育つ」よう支援する授業、『夢先生（ユメセン）授業』を八千代市内の小学校に昨年・今年と合計8クラス実施。この活動により、市内学校関係者や保護者との緊密な連携が功を奏し、教育現場に一石投じた影響は大きく、高く評価されている。

千葉若潮ロータリークラブ

平成21年に10周年記念事業としてスタートした、青少年奉仕事業の一環である、小学生を対象にした「青少年ゴルフミーティング」を開催致しました。地域の学校関係者やプロゴルファーの協力のもと、継続事業として今年7年目を迎えた。

《国際奉仕活動優秀クラブ》

市原中央ロータリークラブ

グローバル補助金により、インドネシアへ「クリーンウォータープロジェクト」、及び地区補助金により同じくインドネシアへ「人権侵害による被害者の子供たちの教育援助事業プロジェクト」の二つの国際奉仕プロジェクトに、積極的に取り組んだ。

分区としての奉仕活動優秀分区

第2分区 第1分区 第4分区

2013年7月1日～2014年12月31日における各分区の例会出席率の上位3分区を選出した。

第9分区 第10分区 第12分区

2013年7月1日～2014年12月31日における各分区の会員増強率の上位3分区を選出した。

奉仕活動優秀ロータリアン

飯生 高一郎（八千代RC）

5年間毎年連続して会員増強に努め、クラブの発展に寄与した。

滝澤 政樹（成田コスモポリタンRC）

2013-14年度には4名の会員増強を果たし、また過去にも多数の増強に努め、2008年以降で総計15名の勧誘をし、クラブ及び地区の会員拡大に多大の貢献をした。

感謝状 - クラブ

《クラブ》

銚子東ロータリークラブ

2014年地区協議会ホストクラブ

四街道ロータリークラブ

愛国学園大学附属四街道高等学校インターアクトクラブ提唱クラブとして貢献されました。

台北市明德扶輪社

台北天欣扶輪社

第 27 回インターアクト国外研修受け入れとして
貢献されました。

千葉西ロータリークラブ

千葉県立千葉商業高等学校インターアクトクラブ
提唱クラブとして貢献されました。

茂原ロータリークラブ

茂原中央ロータリークラブ

茂原東ロータリークラブ

茂原ローターアクトクラブ提唱クラブとして貢献
されました。

銚子ロータリークラブ

習志野中央ロータリークラブ

ロータリー青少年交換受入クラブとして貢献され
ました。

国際ロータリー第 2730 地区青少年交換委員会

ロータリー青少年交換スプリングキャンプ受入と
して貢献されました。

成田ロータリークラブ

RYLA セミナーの開催地として貢献されました。

感謝状—会員以外—

愛国学園大学附属四街道高等学校インターアクトクラブ

第 48 回インターアクト年次大会並びに第 27 回
インターアクト国外研修ホストクラブとして、貢
献されました。

愛国学園大学附属四街道高等学校

教師 屋城 恵子

インターアクトクラブ顧問教師として貢献されました。

千葉県立千葉商業高等学校インターアクトクラブ

第 48 回インターアクト指導者講習会ホストクラ
ブとして貢献されました。

千葉県立千葉商業高等学校

教師 伊原 礼司・教師 永嶋 恵子・教師 長谷川 富江

インターアクトクラブ顧問教師として貢献されました。

元米山記念奨学生

林 光信

第 27 回インターアクト国外研修受け入れとして
貢献されました。

茂原ローターアクトクラブ

第 43 回ローターアクト年次大会ホストクラブと
して貢献されました。

茂原ローターアクトクラブ

山田 祐樹 ・ 藤波 楓 ・ 中村 菜津子

国際ロータリー第 2790 地区ローターアクト地
区代表として貢献されました。

館山ローターアクトクラブ 湯澤 章弘

国際ロータリー第 2790 地区ローターアクト地
区会計として貢献されました。

アーバンホテル国分 代表取締役 林 辰大

ロータリー青少年交換スプリングキャンプ受入と
して貢献されました。

《本年度退任する地区委員長・小委員長》

土屋 利夫(大原)	職業奉仕委員会委員長
植草 和典(千葉幕張)	月信委員会委員長
加藤 隆(千葉東)	管理運営委員会委員長
宮川 忠士(千葉西)	フェロシップ委員会委員長
並木 鷹男(千葉)	会員増強・退会防止委員会委員長
金本 元章(柏西)	広報公共イメージ委員会委員長
冨 一美(成田空港南)	奉仕プロジェクト委員会統括委員長
足立 俊夫(茂原)	社会奉仕委員会委員長
嘉規 洋(船橋西)	国際奉仕委員会委員長
藤崎 泰裕(千葉西)	青少年奉仕委員会統括委員長
長谷川 七三一(新千葉)	インターアクト委員会委員長
酒井 秀光(茂原)	ローターアクト委員会委員長
岡村 美智子(佐倉)	ロータリー青少年交換委員会委員長
三田 英志(習志野中央)	RYLA 委員会委員長
山田 修平(木更津東)	ロータリー財団委員会委員長
平野 弘和(木更津)	プロジェクト開発小委員会委員長
関 一憲(勝浦)	補助金小委員会委員長
伊藤 正人(鴨川)	財団資金管理推進小委員会委員長
石田 善一(市川南)	米山記念奨学会委員長

RI表彰

《認証バナー》

【1人当たりの年次寄付額上位3クラブ】

千葉幕張ロータリークラブ
船橋みなとロータリークラブ
習志野中央ロータリークラブ

【100%「財団の友」会員クラブ】

船橋みなとロータリークラブ
習志野中央ロータリークラブ
千葉西ロータリークラブ

【「毎年あなたも100ドルを」クラブ】

船橋みなとロータリークラブ
習志野中央ロータリークラブ
千葉西ロータリークラブ
鴨川ロータリークラブ
浦安ベイロータリークラブ

ロータリー財団《感謝状》

【エンド ポリオ ナウ】

船橋東ロータリークラブ
船橋南ロータリークラブ
船橋西ロータリークラブ
市原ロータリークラブ
流山ロータリークラブ
習志野中央ロータリークラブ
大網ロータリークラブ

会長部会



■会長部会

リーダー	ガバナーエレクト	櫻木 英一郎
サブリーダー	次期・地区計画委員長	石井 七郎
アドバイザー	次期・地区研修リーダー	山田 修平
オブザーバー	次期・監査委員長	市川 康男

開会挨拶、ガバナーノミニエ挨拶

ガバナーノミニエ (GN) 青木 貞雄

ただいまより会長部会を開催いたします。

ガバナーノミニエとして見習い修業中の成田コスモポリタン RC 青木貞雄です。

2790 地区のロータリアンの皆様、また、クラブに対して何が出来るか、ガバナーとして何をしなければならぬか勉強中ですので、本日の皆様の協議を大変楽しみにしています。

地区予算の採決

ガバナーエレクト (GE) 櫻木 英一郎

3月28日の会長エレクト研修セミナー (PETS) で提案させて頂いた地区予算の採決を取らせて頂きます。

PETS で提示した予算案と違っているところが1か所あります。RIより青少年奉仕とロータリー財団の学友を統括する学友委員会をつくるよう指示がありました。地区では、学友委員会を作る準備をするため、予備費から3万円を計上しました。予備費からの支出ですので、トータルの収支に変更はありません。この1か所の変更を含め、承認していただけますでしょうか

【拍手による賛成多数により 承認】

有難うございます。それでは予算成立を幹事部会へ報告いたします。会長部会で予算が承認されて初めて幹事部会での協議が動き出すこととなります。

リーダー挨拶

ガバナーエレクト 櫻木 英一郎

まず、臨席いただいている方々を紹介します。地区研修リーダー、会長部会アドバイザーとして山田修平、予算採択承認のため地区監査委員会から市川委員長を始め3名に立ち会いをしていただいています。

会長エレクトには PETS とこの地区研修協議会および会長部会に出席の義務があります。欠席された方には、後ほど補講を受けてもらいます。なお、出席カードは、協議終了時に地区幹事が回収します。

アドバイザー挨拶

地区研修リーダー

PG (正式には PDG) 山田 修平

先ほど櫻木 GE の話にありましたが、会長エレクトは PETS と地区研修・協議会に出席義務があります。会長エレクトがこの要件を満たさないときは

会長にはなれません。適格な次の会長が選出されるまでは現職の会長が引き続き会長となるという規定があります。本日のこの会議にご出席の会長エレクトは問題ありません。ガバナーが存続の要件を欠いていると判断した場合は、RI加盟クラブとしては終了します。当地区では終了したクラブはありませんが、自主的に解散したクラブは2クラブあります。

さて、本日、『ロータリーを理解しよう』を配布しました。会長エレクトには、この冊子の1ページずつを題材として（勿論これに限りません）、次年度毎回のクラブ例会でロータリーの話をしてください。それが、地区研修リーダーとしての私のお願いです。

さらに、新会員のオリエンテーションをしてください。オリエンテーションをしていないクラブがいくつあると聞いています。また、オリエンテーションの時間や内容が年々短く、少なくなっています。オリエンテーションをどのようにしたらいいかと考えているクラブは、地区研修委員会にお声掛けください。見本を示したいと思います。ガバナー補佐にオリエンテーションを担当していただきたいとも考えています。

地区研修委員会では、7月18日にクラブ研修リーダーのセミナーを計画しています。クラブから研修リーダー、ロータリー情報委員長など研修を担当する委員長を派遣してください。

入会しても3年以内で退会していく会員が多いと言われています。それはなぜでしょう。（『ロータリーを理解しよう』15~16ページの10-65議案を引用して）クラブの会員教育能力や指導力の低下、会員増強の早急化等で新会員に対し、入会前後の満足な教育が行われていない。その結果、少なからぬ新会員はロータリーに対する基本的な知識、理解が乏しく、クラブへの愛着、例会出席への意欲が感じられない。よって、国際ロータリーの決議により、国際ロータリー理事会は、このような状況を踏まえ、「入会3年未満の会員に対する研修セミナーの開催を、地区ガバナーに推奨することを検討することとする。こうした地区研修セミナーにより、新会員の資質が向上し、クラブ例会の活性化に貢献し、ひいては会員増強へと結びつくものである。」としました。

この決議を受けて地区では、入会3年未満、あるいは5年未満の会員を対象にセミナーを次年度は開催する予定です。新会員に是非出席するよう勧めてください。

会員増強について

・大宮西 RC パスト会長の会員増強の例

会長エレクトの時代に会員を倍増しようと宣言。エレクト時代に例会で毎回、会員一人が必ず一人を紹介しようと話し、実際10人以上を紹介。4~5人紹介した時にクラブの雰囲気が変わってきた。会員倍増は、会長任期内には届かなかったが、翌年に達成した。

当地区は、得居年度から会員数が上向いています。各クラブの会員増強が地区の会員増に繋がります。会員増強はRIのためではありません。ましてやRIの人頭分担金を増やすためではありません。人頭分担金は年額55ドルです。クラブの年会費と比べてみてください。会員増強は自分たちのクラブのためです。クラブでの活動が活発になります。会員増強はクラブの会員数の10%増を目指してください。大宮西 RC の会員増強の例のように理論だけでは会員は増えません。行動なのです。会員一人が必ず一人を紹介してもらおう。行動してもらおう。クラブで会員増強委員長を任命するだけではだめです。会長がまず一人紹介してください。

『ロータリーを理解しよう』11ページから13ページの決議23-34について

決議23-34(ニジュウサンのサンジュウヨン)と私は読んでいます。1923年の当時は国際大会の34号議案だからです。決議23-34は、「社会奉仕に関する1923年の声明」としてだけではなく、ロータリー全般について読めば読むほど再発見がある素晴らしい文章です。

『ロータリーを理解しよう』でロータリーについて精通し、さらに自分で調べてみてください。ロータリーを楽しむとは、ロータリーについて論じ合い、話し合うことを楽しむ、楽しいと感ずることです。例会でロータリーの話をして、ロータリーの楽しさを追求してください。会長をして楽しかったと思えるよう目標を立てて素晴らしい一年間となることをお祈りしています。

地区方針について

ガバナーエレクト 櫻木 英一郎

地区に関すること

2015-16年度ガバナー補佐に2016-17年度のガバナー補佐の推薦書を渡しました。7月早々に2015-16年度青木ガバナーエレクトより仮委嘱が行えるようご協力をお願いいたします。

さて、2015-16年度の地区行動目標は「原点を知り、考える」としました。

先ほど山田リーダーの話にありました決議23-34は是非読んで、考えていただきたい。決議23-34はその後のロータリーの安定的発展のもとになった文章ですので、それがなぜできたか、その前の状況は、その後は、と調べて、ロータリーを理解しながら考えていていただきたい。1927年にクラブ、職業、社会の3大奉仕というコンセプトが出てきます。なぜできたかと考えると決議23-34があったからこそ3大奉仕の考えができたと考えます。今は、ロータリーという組織体をいかに運営するかにコンセプトに置いたDLPという考え方が出てきました。ロータリーは常に変化していますので、会長はアンテナを高く張って、情報をいち早く察知しクラブの会員に伝えていただきたい。

●ガバナーを出やすくする

昨年5月に急きょノミネーになった自分自身の経験から、ガバナーを出やすくすることの必要性を痛切に感じました。年度内にノミネーを決めることは地区運営にとって不可欠です。早くにノミネーが決定すれば、地区運営の安定、発展につながります。事務所の設置、事務局員の手配に始まり、資料の引継、事務所の撤収に至るまで毎年繰り返されるこれらの経費は地区予算からの支出であり、無駄ではないかと考えました。そこで、次年度は地区計画委員会を作って、ガバナー事務所固定化の検討・推進とガバナー業務のマニュアル作成をお願いしました。

地区計画委員会の途中経過について、石井七郎地区計画委員長よりご報告をお願いします。

地区計画について

サブリーダー 地区計画委員長 石井 七郎

次年度、地区組織管理運営部門の中に地区計画委員会が新設されます。当委員会は、5名の委員で構成され、地区運営をスムーズにすることを目的に企画、実践します。

櫻木ガバナーエレクトからは早くから地区運営について精査し、60項目を超える改革要素の提示がありました。短期間に多くの議案に着目するには相当の努力があったと感心しています。また、地区を良くし、クラブ、会員のために強い思いがあったことと思います。その情熱には委員会として頭の下がる思いです。しかしながら、ロータリーは単年度です。すべての改革案に着手することはできませ

ん。そこで年度内に着手する2つの実践計画を掲げました。一つは、ガバナーおよびガバナーエレクトのマニュアル作成です。ガバナー要覧は、RIの指導の下、全地区共通のものです。2790地区として分かりやすい要覧の作成を目指します。

もう一つは、ガバナー事務所およびガバナーエレクト事務所の固定化です。ガバナー事務所の存在は、ロータリーの発展に連れて従来に増して重要視されています。予てから固定化による経費の節減、能率・効率、IT機器の活用により、事務所の能力向上をはかる機運が一層高まってきています。そこで、当地区の宇佐見ガバナー、櫻木GE、青木GNの最も関係の深い3者の参加の下で委員会を開催し、时期的なこと、メリット、デメリットを検討し合い、数回の委員会を経て多くの貴重な意見が出ました。これらの意見をまとめ、固定化を行った時の経緯や事務局設置の運営・運用などについて全国33地区に「固定化に関するお願い」と題するアンケートを実施しました。31地区から回答を得て、各地区の状況が判明しました。

地区が2~4県に亘り固定化を断念したのは、石川、山梨、徳島、岡山、佐賀の5地区です。残り26地区の内、固定化をしているのは20地区、80%に当たります。固定化されていない地区も固定化を希望しているという回答でした。関東で固定化されていないのは、千葉県と茨城県だけです。

固定化によって環境が整えばガバナーが出やすくなり、小さなクラブからもガバナー候補が生まれる可能性が高くなってきます。

大きな改革には批判も呼ぶことでしょう。主導者たる櫻木GEは、堅忍不拔の心を持った方です。限りない前進のもとに常に変えることを嫌わない、新しい発想のもとで何かに挑戦することが大切ではないかと思えます。地区計画委員会一同、同じ気持ちでおります。

クラブ会長となる皆様方に2790地区のガバナー事務所の固定化に何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。そして2790地区を素晴らしい地区といたしましょう。

(以上 石井七郎 地区計画委員長)

●ガバナー事務所固定化を会長部会の議題とする理由 石井地区計画委員長 有難うございました。

ガバナー事務所の固定化はクラブに関係ないと思っているクラブの方が多いかもしれません。しかし、ガバナー事務所の設置費用は、会員の地区分担金より支出されています。毎年100万以上の支出が

あり、2年後に何も残らない。地区分担金を効率的に使うためと考えてください。

地区の運営方法の決定事項はガバナーの専権ですが、固定化は単年度のガバナーではできません。固定化を決定する際の方法、どの機関による権威づけによるかなど固定化した地区のアンケートを参考にいずれ、固定化を決定するプロセスでクラブの意向・見解を問う機会があるかもしれません。そのため、会長部会の議案としました。

判断基準としてはまず、地区分担金を効率よく使うかどうかと判断してください。また、クラブに事務局がある場合とない場合、決まっている場合と決まっていない場合のクラブ運営と置き換えて考えてください。

事務所の設置、事務局の配属などに煩わされずに年度を始めることができればガバナーはガバナーとして考えなくてはならないことに初めから専念できます。時間的財産となります。1県1地区で、交通の便も悪くない千葉県で固定化をしていないのは相当遅れていると言わざるを得ません。

クラブに関する事、会長という職について

●皆が同じ立場

会長エレクトの皆様はやる気、意欲、自信…一方では不安、重圧感などが交差した複雑な心境であるとお察しいたします。また、今は次年度のクラブ運営や次年度理事会の対応などで大いに悩む時期だと思います。皆さん、大いに悩んで頂きたい。そして悩んだ結果が皆さんの自信となります。

この悩みを軽減する一助として3月28日のPETSの第2部で皆様による意見交換会を企画しました。同じ立場にある人たちの意見を聞きながら仲間意識を作って頂くことを考えました。

また、ご要望があれば次年度に時期を見て同じような企画を立てたいと思います。

●クラブ会長とは

クラブ会長はクラブの象徴であり、クラブの方針と活動の方向性を打ち出す役です。それを具体的に実践する為に会長が設置する組織がクラブの委員会であります。更には、最終的にはクラブの会員個人個人が自分の実生活の中で、自分の商売の中で、クラブで学んだ心を持ち、活動する事が大事です。ここまでを見据えたクラブ運営をお褒めいたします。

●クラブ会長の意識・権限移譲

実際にはクラブ会長は楽ではありません。クラブの

行事や委員会の事業、委員会の活動などに加えて他のクラブの行事、或は地区の行事などに出席を要請されます。会長には大変多くの業務がかぶさります。

多くのクラブでは会長さん方は、この一年を自分が我慢すれば次年度は次の人だ、という意識の連続で来ているのではないのでしょうか。

すべての用事が会長に集中する現状・・・そこに何かの改良策はないのでしょうか。

各委員会が担当する分野に於いては委員長が最高権限者であり、その分野の全てを委員長に任せる方法が考えられます。そのためには事前に各委員長と充分な方針の打ち合わせが必要です。会長の方針を理解してもらって、意思を共有してもらえば委員長は会長の分身です。信頼して全てを任せられます。会長はクラブの長として最終責任者であればいいと思います。

そうすれば会長は会長が本来考えるべき事を考え、実行する事が出来ます。また、委員長との適時な方針のすり合わせは必要です。

これには委員長の意識も大切です。自分の委員会に会長が出ない事を「非協力」と思わない事。クラブ会長はクラブ全体の最高責任者、委員長は任された部門での最高責任者であることを認識すればこのような意識はなくなります。

この権限移譲も CLP の考え方の一つです。

●理事会の重要性

理事会は役員と理事で構成されるクラブの最高意思決定機関です。クラブの方向性を決定したり各委員会のプロジェクト案を審議してクラブの公式なプロジェクトにする事も出来ます。その一方でクラブ会長や委員会の行動を規制する役割も負います。だから会長も役員も理事も会員による選挙で選ばれ、ロータリーが民主的に運営される基本となります。

このように理事会はロータリーを真剣に考える会合なのでメーカーにも適用されます。

●クラブの委員会活動の考え方

一つの事業を全体で取り組むという考え方が効果的だと思います。例えば社会奉仕委員会の事業に広報公共イメージ委員会や対外広報委員会が参加してロータリーを効果的に広報し、会員増強委員会が会員勧誘の場とし、資金的には財団委員会が参加する、というように。今までの縦割り活動ではなく一つの事業にクラブ全体の委員会が関わるという考え方をお褒めします。

例えて言えば企業の活動形態に似ています。

これは活動の考え方の問題なので5大奉仕の組織

図でも可能です。これも CLP の考え方の一つです。CLP は組織図を変えることはありません。

●委員会と委員会活動

クラブの委員会は、会長エレクトが次年度で実施したいことを代わって実行してもらうために設置するものです。前年と同じ委員会名であっても内容は当該年度の会長の考えに沿ったものになります。

また、委員会の活動は常に本年度と次年度の2年越しの意識を持って活動方針を考えていただきたい。特にロータリー財団の補助金申請や、奨学生の申請は、次年度の申請のために本年度に準備が必要です。

●ガバナーからの具体的な要望事項

クラブと国際ロータリー (RI)

・RI の会員

クラブは国際ロータリーの会員であることを意識して下さい。

・定款

国際ロータリーの定款や標準定款を遵守して下さい。

・規定審議会

定款や推奨事項に疑問があれば規定審議会に提案する意識を持って下さい。

クラブは RI の会員なのでその権利があります。

・RI 会長賞

RI 会長賞を意識して下さい。

クラブ活性化の指針ともなり得ます。

応募はクラブセントラルからです。

・戦略計画

戦略計画 重点項目 中核的価値観 などを
知って下さい。

・オンラインツール「My ROTARY」

ロータリーに関する多くの情報を得る事が出来ます。

・オンラインツール「ロータリークラブ・セントラル」

クラブの情報を正確に入力して下さい。
会員年齢分布など正確に入力できているのは地区内では3クラブのみです。

・ソウル国際大会 (2016年5月29日 ~6月1日)

日本から1万人の参加を目標とします。

我が2790地区からは300人以上を目標とします。

既に数クラブがクラブの親睦旅行に充ててくれました。

●クラブと地区

・地区への意識

地区はクラブの集合体でありクラブと別物ではありません

・ガバナー輩出

ガバナーになるのは究極のクラブ奉仕です。またクラブの活性化にも繋がります。規定によるとガバナーは24~36か月前に決めることになっています。ガバナーが早く決まれば、地区は安定した活動ができる→クラブや会員の意識が高まる→ガバナーになる人が出やすくなると考えます。

ガバナー輩出クラブは大きな負担が係ります。そこで、人数が少ないクラブからでもガバナーを輩出するにはどのようにしたらいいかと考えています。3大セミナーは大きな負担となるので、セミナー担当となるよう実体のある地区研修委員会を作りました。理想を言えば、地区大会も東京、神奈川のようにガバナー輩出クラブに限らないクラブが受け持っても良いと考えます。

●クラブ内で

・会長卓話

例会で必ずロータリーに関連がある話をして下さい。

その為にも会長自身も勉強が必要です。勉強の機会は会長の役得だとお考え下さい。

会長の力量の発揮のしどころです。

・研修リーダーの設置

自分の代で過去のやり方を変えるのは非常に精神的なエネルギーを必要とします。歴代会長の目も気になるでしょう。

そういう時に大きな支援を頂けるのも研修リーダーだと考えて下さい。

色々な意味で各クラブに研修リーダーという役を作る事をお願い致します。

何かの委員長を兼ねてもよいし、無任所の方でも構いません。歴代会長としてではなく、ロータリー情報委員長としてでもない研修リーダーという役職です。

クラブ研修リーダーは歴代会長の中から選任することをお奨めしますが、決して会長就任順の輪番制ではありません。

・研修リーダー

ロータリーをしっかりと知る事は活動の大前提です。その会員研修をリードするのがクラブ研修リーダーです。

単年度の不連続の連続の繰り返の中で不安な新任会長の相談役としての側面も持ち新会長が頼れる有益な存在となるでしょう。

次年度の早い段階でクラブ研修リーダーの研修 (CTLS) を企画します。

- ・各会員がテーマを
各会員が何か一つのテーマを持ってロータリーに興味を湧きます。
クラブの会員の皆様には是非勧めて下さい。

●ガバナーからの依頼事項

- ・インターシティ・ミーティング (IM)
年度初めに全分区で IM を開催して頂きます。
ご協力をお願いします。
地区チーム研修セミナー…会長エレクト研修セミナー… 地区研修・協議会…IM …クラブ公式訪問 を一連と考えています。
- ・登録料他を免除
ガバナー、ガバナー補佐などが役職上の公務として例会を訪問する際には例会登録とニコニコなどの donation の免除をお願いいたします。
その代りガバナー補佐訪問、ガバナー公式訪問などをクラブの為に大いに利用して下さい。
- ・ロータリーデー

次年度は地区でまとまった大きなロータリーデーの計画はありません。ロータリーデーは各クラブで一つ、或は二つの事業をそのクラブのロータリーデーと捉え、各地域でこまめにイメージ広報、会員増強、ポリオへの協力依頼などの機会として下さい。

ロータリーデーはロータリーの公共イメージをアップするためです。ですから、クラブ入りの旗や幕を掲げた方がより広報する意味があります。

社会全体の4割がロータリーを全く知らない、4割が聞いたことはある、2割が少しは知っている という状況で広報すべきはあくまで「ロータリー」です。

●苦勞と徒勞

常に次の年度がやり易くなるように毎年毎年の前進を心がける事が必要だと思います。自分一年だけで終わる苦勞は徒勞であり、次の年度の為にする苦勞は徒勞ではありません。

●クラブの限りない前進の為に

過去の会長さん達はその時に於ける最善の活動をされました。しかしクラブの趨勢や時に応じて状況は変わります。改善点も見えて来るでしょう。そこで、自分は自分の年の最善を尽くせばいいと思います。当然、これは過去のやり方と違うかもしれませんが勇気を持ってそれをやって頂きたいと思います。そして自分の次の年にはその時の最善があるとお考え下さい。

質疑応答

■ガバナー事務所固定化した場合の場所は
松戸西 細田:ガバナー事務所固定化について、どの辺の場所をお考えでしょうか。

櫻木 GE:今の委員会の状況は、まず固定化のメリットデメリットを調査し、固定化のコンセンサスを得ること、その次に場所を決めることとなります。場所を決めるにあたっては、皆さんの利便のいい所を想定し選定に入ることとなります。

■ガバナー補佐の新入会員オリエンテーション協力について

第6分区 土屋 AG:新入会員オリエンテーションにガバナー補佐を協力させるとのことですが、各クラブにまかせればいいのではないかと。やるにしても分区単位でやるのか各クラブに我々が行って話すのか、また RLI があって教育機関や研修がある。新入会員の教育は重要だと思うがこの辺を整理して欲しい。

山田研修リーダー:皆さんの分区内でまだ新入会員オリエンテーションをやっていないクラブには、ガバナー補佐が行ってオリエンテーションをやっていただきたい。

■会員増強のアイデアを教えてください

習志野中央 齋藤:会員増強は重要だと思う。皆さんに具体的ノウハウやアイデアを教えてください。

櫻木 GE:地区の会員増強委員会では、「全員が会員増強委員長のつもりでやって欲しい」と言っていた。費用については、最低限必要な委員会の費用は各クラブで個々に決めれば良いが、飲み食いの費用までクラブで出すのはいかがなものか。

千葉中央 稲飯:会員増強も大事だが質の低下と矛盾する。

ロータリーの魅力と楽しい例会、クラブの活性化を進めれば自然と会員増強につながると考えている。

旭 神崎:目標はクリア可能な数にした方が良い。候補者を絞り、グループを組んでお願いに行っている。出席率の悪い会員をそのまま放置すれば遠くないうちに退会してしまうので、個人的なコミュニケーションを取りながら例会参加を促すようにしている。

櫻木 GE: 会員増強にかかわる飲食の費用について、自分のところはこうしているというクラブがあれば参考意見として聞かせて欲しい。

富津シティ 秋山: 飲食の費用は、全額こちらで持つのではなく、一人三千円かかったなら相手千円、こちらは二千円を出して、受けを好くしておくが良い。

※これでなければ計算が合わない

櫻木 GE: 質問された方、ご自分のクラブでそうした事を専門に検討する委員会或いは組織はありますか。

習志野中央 齋藤: 習志野中央では、少ない金額ですが30万まで飲食の予算を取っている。

できたら成田コスモポリタンと千葉ロータリークラブに増強のノウハウをお聞きしたい。

千葉 三浦: 山田研修リーダーから、「会長は自ら一人はやらない」というお話があったが、全くそうだなと聞いておりました。

千葉ロータリークラブから久々に櫻木さんがガバナーになれることもあり、「現在の70じゃないよ、大台に乗せろ」と煽られている。

私とすればコツコツと一人ずつ説得しながら年5~6人の純増を果たして何年か後には大台に乗せたい。

櫻木 GE: 会員増強は、各クラブの地域性もあるし規模もある、また費用をどうするかという財政上の事情もある。さりとて全くクラブでは費用の面倒はみない、会員増強は個人個人の全額負担でやりなさいと言うのもどうなのか、いろいろな観点からいろいろな見方がある。それを各クラブの中でどうするか決めてやるのが一番だと思う。

会員増強に王道なしでございます。

そしてそういう情報交換をするのが会員増強セミナーです。

そこで皆さんの意見を聞いたり、今から会員増強委員会に質問を出していただいても構わないと思います。そしていろいろな意見を参考にしてご自分のクラブのやり方を決めていただければと思う。

因みに、地区の委員会がセミナーを開くとき、招集者は地区委員長です。そして召集対象者は最低限各クラブの当該委員長です。殆どのセミナーでは各クラブの会長は召集する要件には入っていないが、会員増強委員会にはクラブ会長も入っている。

このことから会員増強をRIがどれだけ重要視しているかがわかると思う。

増強はそれほど大事だということを会長さんもお認識いただければと思います。

■行動規範、冊子掲載の意図は

柏南 猫田: 今回の地区研修協議会のパンフレットの一番後ろにロータリアンの行動規範が載っている。いつも例会の時に四つのテストを全員で唱和しているが、四つのテストが抽象的なものに比べ、これは「以下のように行動する」と言い切っている宣言文で、具体的でいい文章だなと思う。

今回これを冊子に載せたご意図を伺いたい。

櫻木 GE: 四つのテストは、皆さんよく知っているのでこの冊子には載せていない。

行動規範は、昔からあるものですがあまり知られていない決め事です。何回も改訂され、項目がどんどん減って最新は四項目になっている。

私も猫田さんと同じく、これはなかなか捨てがたいと思い、是非皆さんにも読んでいただきたいと考え載せました。ロータリーには、こういう行動規範があることを意識していただきたい。

■周年行事登録料の免除について

第三分区 A 山本 AG: 登録料の免除ありがとうございます。また、周年行事の招待状が来ていて登録料も書いてない、補佐が出席する場合過去にはどうしていたのか教えてください。

山田研修リーダー: ガバナーの公式訪問、ガバナー補佐のクラブ訪問の登録料は免除していただきます。周年事業は、ガバナーエレクト、ガバナーの2年間だけは予算がありますがパストガバナー、ガバナーノミニーの時代はすべて個人負担で出しています。ほとんどの分区では分区内のクラブからお金が出ていると思う。今までのガバナー補佐の皆さんはそこから出していたそうです。それでも足らなくなれば自前で出すしかないと思います。

櫻木 GE: 昨年度、私ども千葉クラブからここにいる並木さんがガバナー補佐として出られました。その時、補佐用の費用はクラブで組み、そこから賄っていたと思います。

総括 アドバイザー PG 山田修平

会員増強というと必ず量が質かと問われます。紹介者となる皆様ほどロータリーに向いている人はいません。ロータリアンの目でロータリアンに向いているかどうかを判断して紹介してください。大切なのは、入会後の教育です。皆様はクラブの最高責任者ですので、どうか素晴らしい年度にしてください。

閉会 サブリーダー GN 青木貞雄

皆さま長時間時亘り、熱心な参画ありがとうございました。本日の櫻木GEの方針説明、山田研修リーダーのお話をクラブに持ち帰って活かしていただきたいと思います。これにて会長部会を閉会いたします。

リーダー：ガバナーエレクト

櫻木 英一郎（千葉RC）

サブリーダー：ガバナーノミニ

青木 貞雄（成田コスモポリタンRC）

サブリーダー：次期地区計画委員長

石井 七郎（千葉北RC）

アドバイザー：次期地区研修リーダー PG

山田 修平（木更津東RC）

オブザーバー：次期地区会計監査委員会委員長

市川 康男（市川RC）

次期地区会計監査委員

尾崎 正次（千葉幕張RC）

花嶋 實（千葉西RC）

司会進行：次期地区副幹事長

田中 昌夫（千葉RC）

記録係：次期ガバナーセクレタリー

櫻井 守（千葉RC）

参加

各ガバナー補佐

各クラブ会長エレクト

幹事部会



■ 幹事部会

リーダー	次期・地区幹事長	梶原 等
アドバイザー	次期・地区研修サブリーダー	関口 徳雄
サブアドバイザー	地区幹事長	始平堂 玄昌
サブアドバイザー	次々期・地区幹事長	藤崎 政弘

始平堂玄昌幹事長挨拶

過去に幹事を経験した者として皆さんにお伝えします。

* 幹事としての事務的な仕事は下記の通りです。

- 会員記録の整理保管
- 例会、理事会、などの活動の通知
- 諸会合の設置
- 諸会合の通知
- 議事録の作成
- R I や地区への通知
- R I の人頭分担金の支払い
- 例会出席の記録
- 出席状況のガバナー事務所への連絡

* その他

会長方針のもとクラブが元気に活動できるようにサポートする事

会長、各委員長との連携で各委員会が企画したプログラムに対し、多くの会員が出席していただけるか？この潤滑油的な事を進めていくのが幹事の役目です。

会長の方針をクラブ内の皆に伝えていく。

クラブの定款細則についてクラブ組織も含めて、今一度の見直しをしてください。自クラブに見合っているか？その点を確認する事。

又、手続き要覧を良く把握してください。クラブの運営に対し役に立ちます。

細則を良く理解し、自クラブに合っていないならば自クラブの内容に合わせるなど12月の定例理事会などを通して直していく事も重要な役目です。

クラブの管理運営委員長、クラブ研修リーダーと打ち合わせしながら、クラブ会員にロータリーの事を知っていただく機会を設け会員増強や退会防止などにつなげてほしい。

又、そういった会合のテーマも重要です。クラブの長所、短所を見極めそれらを、テーマに進めればクラブの活性化につながります。

社会奉仕委員会、国際奉仕委員会などの活動をされるうえで地区のロータリー財団の財源を活用しながら進めることも良いでしょう。これは会長や奉仕プロジェクトの委員長とよく話し合い決めていくと良いでしょう。

分区での合同幹事会にて他クラブの情報をもったり、クラブでの悩みを相談し合ったりした、他クラブの幹事と交流を深めることも大切です。

R Iの報告等に又、情報をつかむのにマイロータリーを多く使います。マイロータリーの使い方を良く理解し、会員にも伝えて行ってください。まずは幹事の皆さんが使い皆さんに教えていく事が大事です。

以上、幹事経験者としての話を致しました。

次期幹事長 梶原等より

協議

幹事部会

クラブ役員キットの送付

幹事要覧、他、会長要覧、会計要覧・・・

CLPの要覧の作成であるが、クラブ内の委員会へ委員会名称が違って類似した委員会へ要覧として使っていただけるようにしてください。

～ 幹事要覧に基づき特に留意いただきたいページの紹介 ～

〈各種お願い〉

1. 送金と報告・・・研修協議会冊子 14～15 P

半期の手続きとして年に2回 7月末と1月末にR Iの世界本部より各クラブへメールにて請求書が届きます。送金の期間は120日以内であります。(こちらはR Iに対しての人頭分担当です)

その他、地区資金についても各クラブより地区へ送金をお願いいたします。

会員増強報告を翌月5日までに地区のWEBへ入力下さい。

例会出席報告も月末最終例会後、15日以内に地区のWEBへ入力下さい。

各クラブへ専用のURLをメールにて送付しますのでこれらを報告願います。

随時手続き

ロータリー財団、米山記念奨学会寄付について

R I日本事務局財団室、あるいは米山記念奨学会のWEBフォームへ入力、メールFAX等で手続きを進めてください。

ガバナー月信掲載に関する報告

新入会員の情報の場合、特に写真データがすぐにはいただけない事が多いので新入会員の情報と一緒に

写真データ(できればjpeg)をお送り願います。

期日指定手続き

国際ロータリー

2月1日までに次期クラブの会長・幹事・会計・財団委員長・会員増強委員長・クラブ事務局員、以上を報告してください。(マイロータリーから入力)

地区

7月1日までにオンラインにてロータリークラブ・セントラルへクラブの目標入力をしてください。従来の「効果的なロータリークラブを運営する為の指針」の替わりとなります。

地区大会選挙人の選出について

書式及び送付先についてはガバナー事務所より後日連絡します。

国際大会の信任状の証明書

1月1日現在の会員数を記入の上、会長及び幹事が署名し、国際大会出席者または2015-16年度のガバナーエレクト事務所へFAXまたはメールで送付してください。

その他の報告、送金一覧については研修協議会冊子 p 46-50 をご参照ください。

2. 活動計画書の作成について

クラブ活動計画書は出来上がり次第送付いただきたい。遅くとも公式訪問の2週間前までにお願います。

ガバナー事務所3部、ガバナーエレクト事務所1部、ガバナーノミニー1部、各分区の担当ガバナー-補佐1部、地区研修リーダー1部、地区研修サブリーダー1部

合計8部(6か所)へ送付願います。

送付先については、6月の中旬までに各クラブへ配信する。

2) 新しい月間について資料 17 P

旧来のロータリーの月間と変わっています。クラブのスケジュールを組む際にお間違えの無いようにしてください。

3. 公式訪問について・・・研修協議会冊子 18-19-20P

クラブの公式訪問について。今年度は84クラブへ全て訪問いたしますのでよろしくお願いいたします。

4. 地区予算案について

会長部会から通知が参りました。資料 25 P～27 P まで 2015-16 年度の地区予算（案）が決議されましたので、（案）を取り 2015-16 地区予算としてください。

26 P をご覧ください、支出の部でガバナーノミニーの費用を今年度より計上させていただいております。ご確認ください。その他は例年の予算に準じてあります。

5. マイロータリー・クラブセントラルの説明

マイロータリーのアカウントの登録方法について
マイロータリー、ロータリークラブセントラルに入っていくにはあらかじめ個人のアカウントを登録していただく必要があります。

アカウントを登録しないと、マイロータリーのページに入っていくと色々なページを見たり、クラブで必要事項を書き込んだりすることが出来ません。

既に各クラブでアカウントを登録し、この1月よりマイロータリーを使って、クラブ情報を入力しておられると思います。まずは、アカウントを取得して頂き、ロータリークラブセントラルから色々なページを見て頂きたいと思います。

～資料に基づきアカウントの登録方法の説明～

マイロータリーとは？

クラブが R I に色々な報告をする重要なツールになっています。

ロータリークラブセントラルについて

これは各クラブが目標を立てて、その達成情報を確認するためのオンラインツールとなっています。入力されたデータは蓄積されて自クラブの状況を知ることが出来ます。

重要なツールです。ご認識下さい。

クラブの目標入力について

既に5月1日までに会員の増強目標、財団の寄付目標を登録してもらう事になっています。

各クラブにてご確認ください。

7月1日までに、会員情報の変更を登録してもらうようになっています。

クラブの会員情報が全て人頭分担金の請求書に反映されますので間違いなく処理してください。

次年度のクラブ目標も7月1日までに各クラブ登録

していただきます。

会員の維持、会員の活動の参加、クラブのコミュニケーション、広報、奉仕（奉仕 P J と活動、青少年、新世代の参加）、財団についてはポリオプラス、年次寄付、大口寄付、恒久基金などこういった項目が（30 項目以上）あります。

会員数のページ、ロータリアンの参加のページ、クラブのコミュニケーションのページ、
広報のページ、奉仕プロジェクト活動のページ、財団、年次基金等のページ、これらについて説明。

この中から、最低 15 項目以上の目標入力をお願いします。その情報をガバナー、ガバナー補佐、ガバナー事務所でクラブの入力情報を確認することが出来ます。

ガバナーとガバナー補佐はコメントを残すことが出来、クラブ訪問時この情報が有効に利用されます。

是非、アカウントを取るところからチャレンジしていただき、ロータリークラブセントラルに入っていくと色々な試してみてください。

～会員維持の項目の説明～（目標の入力方法の説明）

6. ロータリーのリソースについて

1 クラブ、2 奉仕、3 財団への寄付とそれぞれのリソースがあります。

必要な項目からそのページに入ってご利用下さい。

マイロータリー、ロータリークラブセントラルの運用についてのセミナーを7月に I T 広報公共イメージ委員会で行う予定です。その時は各クラブで運用される方に参加頂きたいと思います。

7. クラブ一覧表について・・・研修協議会冊子 28P～35P

記載内容確認のお願い、訂正事項があればガバナーエレクト事務所まで連絡をください。

幹事部会質疑応答

・My Rotary へのアクセス方法、アカウントの管理、パスワードの設定などはどのようにするのか？

梶原次期地区幹事長： IT広報公共イメージ委員会の主催で 7月24日にMY ROTARY クラブセントラルに関しましては、研修会を実施しますので、どうかご参加のうえご確認ください。

・予算面に関して

(Q) ページ26ページの地区予算運営内訳の支出の部の「国際ロータリー日本青少年交換委員会費」は今までなかった項目で、櫻木年度に計上されているが、その内容は？

(A) R I J Y E Cに関する予算費です。

(Q) 崎山ガバナーの時に、人頭負担金一人当たり100円を200円に値上げの話が出ていましたが、そのままで行くのですか？

(A) 未だ決めておりません、検討していく所存です。

(Q) 宇佐見年度で未だ、けりのついていないインターアクトの活動が2つあり、東金RC（東金商業高等学校インターアクト）と勝浦RC（勝浦若潮インターアクトクラブ）の廃部届がでないなので、未だ終わっていません。

何とか宇佐見年度と櫻木年度で処理願います。

(A) 年度の間で処理できるものは処理したいと考えています。

梶原次期地区幹事長

「ガバナー月信」に関してお伝えします、宇佐見年度から月信の裏面の右下にスケジュールを入れるようになりましたが、引き続き次年度も当地区のスケジュールを入れますので、2ヶ月前までにガバナー事務所に情報をお送りください。

関口バストガバナー講評

幹事は「要」と言われます。内閣で言えば、会長が総理大臣で、幹事が官房長官のようなものです。事務局に全て任せるのではなく、事務局に情報を提供させ、幹事が咀嚼して判断することが重要です。どうか1年間頑張ってください。

管理運営部会



■ 管理運営部会

リーダー	次期・管理運営委員長	金子 公久
サブリーダー	次期・地区研修副委員長	堀内 正一
サブリーダー	次期・RLI推進委員長	諸岡 靖彦
サブリーダー	次期・ロータリー理念研究委員長	海寶 勘一
アドバイザー	パストガバナー	中村 博巨

地区研修・協議会 管理運営部会アドバイザー挨拶 アドバイザー 中村博巨PG (柏西RC)

本日、当部会にご出席の皆さんは、クラブの運営に直接参画されるクラブのリーダーの方々とは推察いたします。本日は、クラブの管理運営委員会の役割だけでなく、櫻木ガバナーエレクトの発案による、地区研修委員会、RLI推進委員会、ならびにロータリー理念研究委員会に就きましても共にそれぞれの委員会より説明を申し上げ、研修、協議を進めて頂きたいと思っております。RIがリーダーシップを試験的に推奨し始めてからすでに二十数年、正式に地区リーダーシッププランを義務づけてから十五年余、クラブリーダーシッププランを推奨してから既に十数年を経過しておりますが、残念ながら我が2790地区においては、未だ、全てのクラブに定着したとは云いきれないのが現状です。従って、当地区においては、RIが推奨する常置委員会を採用しているクラブと従来の五大奉仕委員会のクラブが併存している状態です。RIが推奨する常置委員会を取り入れているクラブには管理運営委員会がありますが、そうでないクラブには、この委員会は有りません。ここで、RIが推奨する管理運営委員会の役割を簡単に述べておきます。クラブ管理運営委員会の役割

は、例会の企画（プログラム）、親睦行事の企画、クラブ会報、ウェブサイトの作成、出席の記録、更には、会長、幹事と共に長期計画の作成、年次目標の設定など会の運営にはなくてはならない委員会であり、効果的なクラブの運営には欠かすことの出来ない委員会です。地区の管理運営委員会は、クラブの管理運営委員会に協力し助言、援助を行います。地区研修委員会は、当地区では、二名のPGが研修リーダーとサブリーダーとなり地区の各委員会と協力し、各種の研修を企画、招集してきましたが、次年度からは、正式に数名の委員を加えた新しい委員会になります。RLI推進委員会は、ロータリーリーダーシップ研究会を地区内に推進して行こうという委員会です。RLI（ロータリーリーダーシップ研究会）と云っても未だご存じでない方が多いと思いますので簡単に説明させていただきます。RLIは、国際ロータリーの公認のプログラムではありません。しかし、その始めは、RIが試験的にDLPを開始した1992年より、米国のある地区でRIのリーダーシップを研究しようという草の根の研究会として始まりました。現在、世界の300以上の地区がこの研修方法を取り入れ、研修会を行っております。我が地区でも、RLIの日本支部に所属し、前年度より試験的に始めました。現在のところ参加クラブも

30クラブ参加人員も50名余ですが、参加された方は皆さんロータリーの勉強ができた満足して帰られます。R Iは、クラブの活性化のために各クラブに研修リーダーを置き、会員の研修に力を入れるよう奨励しております。R L Iは正にその為の研修会と云えるでしょう。全てのクラブがR L Iの研修に参加されることを希望いたします。

ロータリー理念研究委員会は櫻木ガバナーエレクトの強い希望で新しく作られた委員会です。100年余におよぶロータリーの歴史の中でロータリーは変革を繰り返してまいりました。

ポール・ハリスも云っているように、ロータリーは時代の変遷に合わせて変わっていかねばなりません。ただ残念ながら、多くの会員の皆様には、ロータリーの基本理念や使命が時代と共にどの様に変化してきたのかご存じでない方がほとんどです。この様な事を研究し、月信等を通して会員の皆さんに伝えていくのがこの委員会の務めです。毎月の月信を読んで頂ければ幸いです。

今日お集まりの皆様のクラブでは、既に、次年度に向かってのクラブ活動計画書（クラブリーダーシッププラン）の作成は終わっているものと思いますが、本日の研修の結果を次年度に役立たせて頂ければ幸いです。

地区研修・協議会 管理運営委員会活動方針発表 管理運営委員長 金子 公久

午前中の全体会議に引き続き、午後の部門別協議会へのご出席をいただきありがとうございます。

私、次年度地区管理運営委員会委員長を務めます、第9分区成田コスモポリタンロータリークラブの金子公久と申します。宜しく、お願い申し上げます。ここで、次年度地区管理運営委員会の地区委員をご紹介いたします。

- ・委員長 金子 公久
(第9分区：成田コスモポリタン RC)
- ・副委員長 加藤 隆
(第3分区 A：千葉東 RC)
- ・委員 石井 量久
(第9分区：成田コスモポリタン RC)
- ・委員 井上 賢司
(第3分区 A：市原中央 RC)
- ・委員 常井 典夫
(第10分区：柏 RC)
- ・委員 梅原 正一
(第4分区：上総 RC)

只今、ご紹介いたしました5名のお仲間と活動してまいります。一年間宜しく願いいたします。

本日お手元に配布いたしました資料に管理運営部会次第をとじ込みました。

本会議の企画運営は当委員会が担当しますが、次年度櫻木ガバナーの委員会構想から、地区研修委員会、RLI推進委員会、ロータリー理念研究委員会の3委員会も地区管理運営委員会とも非常に密接に深く関わる関係から連携して、次年度委員会活動方針を発表する機会を設定させていただくことになりましたこと、お知らせいたします。

協議会終了まで、皆様のご協力をお願いいたします。

それでは、地区管理運営委員会から次年度活動方針を発表させていただきます。

「地区委員会はクラブの相談窓口」構想の狙い

櫻木英一郎ガバナー年度の、地区管理運営委員会活動ですが、あくまでも各クラブ委員会の皆様と一緒に委員会活動を誇りに持って楽しみ、学びあい、自己研鑽を励むように、勉強を重ねていきたいと考えております。

地区委員会が特別な権限をもった組織ではなく、同じ立ち位置と目線でもって、地区仲間として共に活動できる喜びを、クラブの皆さんと共有できることを願っています。

それでは、地区管理運営委員会とクラブの管理運営委員会についてお話しさせていただきます。管理運営委員会とは特別な委員会ではなく、従来のクラブ奉仕委員会です。

クラブ奉仕委員会に所属する委員会は、クラブの出席、親睦活動、職業分類、会員増強、会員選考、ロータリー情報、例会プログラム、クラブ会報、雑誌、広報の10委員会ですが、これら委員会から独立させたのが、①親睦活動⇒フェロシップ、②会員増強⇒増強退会防止、③ロータリー情報⇒研修と理念、④クラブ会報・雑誌・広報⇒I T広報共イメー、最後に残ったのが、出席、職業分類、会員選考、例会プログラムです。その他に、委員会は定款・細則（諸規定）、CLPなども守備範囲として扱わなければなりません。この分野は今までになかった分野、あるいはロータリー情報の分野でした。ここに独立させた部門は殆どのクラブが対応する委員会を持っています。

更に、管理運営の考え方を補足説明いたします。人間が生きる上で先ず第1に必要なのが体の維持で

す。これが大前提です。これには規則正しい生活が必要です。第2に体力の向上で、第3が学習勉強です。こうして戦う力をつけていざ実践が第4です。

勿論、第1が管理運営と理念、第2が活性強化部門、第3が研修部門、第4が奉仕プロジェクト部門その他の対外活動部門です。

《管理運営の捉え方》

次年度櫻木ガバナーは管理運営部門に特化した組織へと再編成に取り組みられました。特化とは何を云うのか、又、なぜそのような委員会運営構想を抱かれたのでしょうか。

管理運営部会別会議にお集まりの皆様には、次年度櫻木ガバナーのお考えをご紹介しながらお話しをさせると、なかなかご理解をいただけないと存じます。

皆様のクラブにはクラブ奉仕があります。又、CLPを採用されているクラブにあっては管理運営委員会と同じことは、先にお話しいたしました通りです。

次年度委員長の皆さん、『クラブ奉仕とは何でしょう？』お考えになられた方はいらっしゃいますか？ クラブ奉仕は前年踏襲でしょうか？ 皆さんはどの様にクラブ奉仕をご理解されていますか？

さて、次年度櫻木ガバナーは、午前中の本会議で次年度地区行動指針を「原点を知り、考える」を提唱されました。このお考えによれば、クラブ奉仕が生まれた時代背景を考えることであり同様にロータリーの草創期の社会情勢を考えてみることも大事なことと捉え、委員会の成り立ちを知ることでロータリーを理解することが叶うと話されました。

今から丁度88年前の1927年にベルギーのオステンド国際大会で「目標設定計画」(The Aims and Objects Plan) ※が採択されました。初期のロータリーにおいては、その活動は例会内と例会外に分類するだけでしたが、活動が多岐にわたり複雑化するにつれ、奉仕プログラムを調和する必要が生じてきました。クラブの管理運営を奉仕活動の実践に対応させ分類・整理する目的で作られたのが「目標設定計画」です。

この計画を解説したパンフレットには「目標設定計画は、個々の会員に対してロータリーの理解を助け、日常の活動において奉仕の理念の適応を奨励し、且つ活動プログラムの調和を図ることを目的とする」と書かれています。この計画の中で提示されたのが、「四大奉仕部門」(The Four Avenues of Service)に分類された委員会構成です。

(※参考資料：D2840 2005 - 06ロータリー21世紀委員会「クラブ組織強化の手引き」より)

実際には、1927年オステンド国際大会では「クラブ奉仕」「職業奉仕」「社会奉仕」の3部門(「三大奉仕」)でした。翌年1928年のミネアポリス大会で社会奉仕から国際奉仕系が独立をしまして、「国際奉仕」が追加された「四大奉仕部門」という組織の枠組みが誕生しました。それ以降、この「四大奉仕部門」は、ロータリークラブの管理運営の基本的枠組みとして定着し、ロータリーの目的を具現化する為の調和のとれた活動を推進して行きました。

実は、次年度櫻木ガバナーのお話しは、1927年以前のロータリー活動まで遡ります。1923年には決議23 - 34号が誕生しましたが、それ以前となると1905年にポールハリスがロータリーを創設した時代のシカゴの街や当時の政治や経済社会情勢まで総合的に時代背景を考えなければロータリーの真実が理解できない、正に「原点を知り、考える」とはそういうことであるとお考えであります。

ロータリーは既に、多くの奉仕活動に関心が高まり、活動に相応した委員会が生まれることになり、次第に親睦中心のロータリーから地域の社会に貢献する形で社会奉仕の芽が育ちます。段々今で云う社会奉仕への実践が増殖して拡大して行きます。そうした活動が日増しにクラブ内に拡大しますと、会員の中から理論派と呼ばれる集団と、奉仕の実践を重要視する実践派と呼ばれる集団とがお互いの主張が激しさを増し、激論を交わすこととなり、ロータリー分裂の危機を迎える様相に至りますが、1923年に決議23 - 34号が採択され、理論派と実践派の間を取りまとめる折中案が生まれました。これによりロータリーの行う奉仕部門と理論部門の融和が図られることとなりました。次年度櫻木ガバナーはこの決議23 - 34号はお互いに『主導権争いはするな!』ということではないかと教示されました。このお考えはご自身が「原点に戻り」考えた結果のことです。なお、その辺りの確たる文献はありません。

つまり、2つともロータリー活動であります。その後、融和が図られたことにより、ロータリーの活動が多様化していろいろな委員会が多く出てきました。1927年RIBIバスカル会長とカーター事務総長が散歩をしながら考えたのが、『どのみちロータリーだよね!』ならば、社会系と職業系に分けて残ったその他はクラブ活動系で全部一つに纏めて「三大奉仕」という考えが生まれました。

先にお話をさせて頂きましたが、クラブ奉仕委員会は、もともと何でも引き受け役の委員会でした。つまり社会系と職業系ではない委員会の全部がクラブ奉仕でした。

最初から「四大奉仕部門」として確立していたのではなく、3部門から4部門になったこと、そして、もともとクラブ管理運営上の分類・枠組みであったことを考えれば、1928年のミネアポリス大会で「三大奉仕部門」の社会奉仕から国際奉仕が分離独立して「四大奉仕部門」が確立しました。このことは、ロータリーの発展や変化に合わせてその枠組みが変わってもなんら不思議なことではないと捉えて見ては如何でしょう。

ここで現在の地区リーダーシッププラン（DLP）やクラブリーダーシッププラン（CLP）を考えてみれば1927年の「目標設定計画」採択に基づく第1回の組織再編成での「四大奉仕部門」の確立そのものが、88年前の一つのCLPと捉えて見る事が出来ます。

CLPでは、「クラブの活動を効果的に行うには」との観点から多くの委員会に対して再分類することで見直しを行いました。そこでクラブ奉仕は膨大になった活動から、会員増強・広報・管理運営・奉仕プロジェクト・ロータリー財団に集約することで、クラブ奉仕が扱う分野がどんどん狭まって行って、段々研ぎ澄まされて残ったのが、次年度の管理運営の考え方の基本となりました。

そうすると、クラブを純粋に運営していく為の、純粋なことを管理運営にお願いすることになるのではと捉えるのですが、クラブが純粋に運営するには、クラブの根本的な考え方が必要です。それは、ロータリーとしての考え方です。もう一つが、如何にしてどうやってクラブ内に運用をして行くことを考えると、クラブを活性化することが残ります。そこで、当初は管理運営の中に理念研究を考えましたが、そこから分離してガバナー直轄の扱いにいたしました。

理念とクラブの委員会の捉え方は、理念と奉仕を考えた場合、この中間がクラブの委員会です。クラブの委員会は理念を考え、奉仕の実践活動の事例を示すのがクラブ委員会であり、奉仕の実践を実行するのはクラブ会員です。社会奉仕、国際奉仕の実践活動は職業奉仕も必要であると捉えます。

《管理運営委員会は何を期待されるか》

やはり、クラブの根本的な活動面における考え方とか、規律であるとか、そういうところを確りしなさいよ。ロータリークラブは勝手なクラブでは無いことを理解いただきたい。そういう基本の処をキチンと広報、周知させることの委員会を想定しています。

周知するか、相談の受け皿とするかのところで、次年度櫻木ガバナーは周知する時にはどうやってや

るのか、セミナー開催も考えましたが、地区研修リーダーとも重複する研修となり研修が増えることに繋がることから、ここで地区管理運営委員会の目的を、委員会はクラブの相談の受け皿とする構想を提案しました。

狙いの先には『クラブとして最低守らなければならないことを周知しなければならない！』ロータリーの実践活動に関係なく、ロータリークラブの基本をしっかりと保つことがクラブに求められています。その様に捉えれば、クラブ研修リーダーに対するセミナーには管理運営も何らかの連携を通じて情報の提供や管理をしなければなりません。

この度の地区研修・協議会の管理運営部会別協議会では、クラブ管理運営委員会、これが無いクラブはクラブ奉仕委員会、又はクラブ研修リーダーの各委員長さんにご参加をお願いすることといたしました。

管理運営は、地区研修委員会・R L I推進委員会・ロータリー理念研究委員会などの各部門にも深く関わりがあり、密接な関係から部会別協議会では次年度の活動方針を発表いただく時間枠を設けて、ご一緒に次年度委員会の活動方針をご紹介いただけるよう企画いたしました。管理運営は、どんどんクラブに関する事を考えることから、いろいろな要素を取り除いて行って純粋にロータリーの基本的な事を考える取り組みが活動の核となります。

例えば、ロータリーで国際奉仕をやらなくても、社会奉仕をやらなくても、クラブはクラブとして存続して行かなければならないし、それにはいろいろな手続きがあるでしょうし、いろいろ考えていかなければならないです。

そのところが管理運営です。だから管理運営は結構深くて広い守備範囲と捉えますから地区委員会の中でも重要な要の委員会ということになります。皆さんのクラブを考えた場合も同様ではないでしょうか。

《相談窓口の利用とは》

それでは、「地区委員会はクラブの相談窓口」の利用に関してですが、クラブの管理や運営に関する疑問が生じた場合の利用を考えてください。

例えば、クラブの出席の扱いや出席率の計算方法に疑義が生じた事柄は、皆さんのクラブではどの様に対処していますか。従来から国際ロータリー日本事務局、又は、年度ガバナー事務所へご相談されているのではと拝察いたします。

クラブ管理や運営でお困りの案件はガバナー事務所にお寄せ下さい。頂戴いたしましたご相談の案件は地区管理運営委員会が「相談窓口」としてお引き

受けいたしました。クラブ宛て回答をお出しできる対応に努めて行きたいと存じます。

それでは、次年度管理運営委員会の活動方針をご紹介します。

《活動方針（目的）》

- 1) ロータリアンとしての意識や行動、認識、規律などを乱すことを意図する。
- 2) ロータリアンは、クラブ定款並びにクラブ細則の遵守の認識を深めること。

ここにご紹介した活動方針にしたがって次年度はクラブのお役に立てる、「相談窓口」を開設し、皆様と一緒にクラブの活性化に努めて行きたいと考えております。

縷々お話しいたしました事柄は、次年度櫻木ガバナーが宇佐見ガバナー年度の地区管理運営委員会から委員会構成をスリム化して、皆様のクラブのお役に立てていただきたいサービス機関としての地区委員会に特化した、地区委員会はクラブの支援活動への構想であります。「相談窓口」その考えは正に地区活動方針「原点を知り、考える」であります。次年度櫻木ガバナーのお考えをご理解いただけたでしょうか。

各クラブ管理運営委員会、クラブ奉仕委員会各委員長さんには、地区委員会の活動にご理解と「相談窓口」を活用頂き、クラブ会員の資質の向上とクラブ活性に向けて、大いなる学び合いをして頂きたいと切望しております。

櫻木ガバナー年度のクラブ管理運営委員会、クラブ奉仕委員会活動が、地区委員会活動と共に価値ある素晴らしい実りを得られることを念じております。

・ D L P (District Leadership Plan) : 地区リーダーシッププラン
全ての地区は、R I 理事会が概要をまとめたDLPの構成に準拠してリーダーシッププランを確立することが義務づけられている。DLPには次の必修の構成要素があります。

- 1) 「ガバナー補佐」、「地区研修リーダー」各種「地区委員会」といった共通の用語
- 2) ガバナー補佐、地区研修リーダー、地区委員会委員の明確な責務
- 3) 地区内の指導力継続を確実にする地区委員会
- 4) ガバナーが委任することのできない任務や責務を明確に記述したもの

5) これに対応するCLPをクラブが施行する際の助けとなる明確な計画

このプランは、クラブレベルの支援をより迅速かつ適切にし、十分に研修を受けた地区リーダーとしてのガバナーの役割を可能とすることによって地区レベルとクラブレベルでロータリーの活性化を図ることを目的としている。

・ C L P (Club Leadership Plan) : クラブリーダーシッププラン
CLPの目的は、効果的なクラブの管理の枠組みを提供することにより、ロータリークラブの強化を図ることである。クラブでCLPを実施するために、現、次期、元クラブ指導者は、下記を行うべきである。

- ①長期計画の立案：効果的なクラブの要素に取り組み長期計画を立案する。
- ②年度目標を設定：「効果的なロータリークラブとなるための活動計画の指標」を活用して、クラブの長期計画と調和した年次目標を設定する。
- ③クラブ協議会を実施：会員を計画過程に参加させ、ロータリーの活動に関する情報を伝えるためのクラブ協議会を実施する。
- ④意思の疎通：クラブ会長、理事会、委員会委員長、クラブ会員、地区ガバナー、ガバナー補佐、地区委員会の間で明確なコミュニケーションを図る。
- ⑤継続性：将来の指導者育成を図るための一貫した引継ぎ計画の概念を含め、指導の継続性を確保する。
- ⑥クラブ委員会構成とクラブ細則を改正する：クラブ委員会構成とクラブ指導者の役割と責務を反映させるため、細則に修正を加える。
- ⑦親睦、更に深める：クラブ会員間の親睦を深めるような機会を提供する。会員がプロジェクトに活発に関与する：会員全員がクラブのプロジェクトや運営に活発に関与するようにする。
- ⑧包括的な研修：以下を確実にする包括的な研修を立案し、実施する。＊
 - ・クラブ指導者が適宜、地区研修会合に出席する。
 - ・新会員のために一貫した、オリエンテーションを定期的実施する。
 - ・現会員のために、継続的教育の機会を提供する。
 - ・全会員が指導者育成のプログラムを受けられることができるようにする

CLPに示されている様に、クラブの指導者は、地区指導者と相談しながらCLPを実施すべきである。クラブは（毎年）プランを毎年見直すべき

である。

※包括的な研修計画実施は、クラブ会長とクラブ研修リーダーの責務です。

【出典】2013年度「手続き要覧」より

《概要》

CLPは奉仕の第2世紀においてロータリーが安定・成長・成功を遂げるために極めて重要であり、ロータリーの目的を追求するに当たって手続きの標準化と諸活動の方向付けを行うための管理枠組みをクラブに提供するものとなっています。

CLPは、効果的なクラブの管理上の骨格を提供することにより、クラブレベルでロータリーを強くすることを目的としています。新たな管理上の枠組みとなるプランは、クラブの指導者が年次目標と長期的な計画を立て、会員一人ひとりをクラブのプロジェクトや委員会に関与させるよう推進するものとなっています。

《従来型の委員会組織継続からCLP導入で

管理運営の調和がはかれるか》

当地区のロータリークラブは、会員数が70名規模から10人未満の規模まで多様であります。会員数の増減やクラブの歴史、その存する地域の規模や経済基盤もまちまちです。

従来は推奨クラブ細則にある18委員会ですが、例えば一つの委員会に3名を配置すれば、18委員会で54名になります。仮に親睦活動に6～7名と多くの委員を張り付けますが、別の委員会は委員長+スリーピンズ会員などの組み合わせにより見かけ上の体裁は整います。実態は委員長1人が働く場面が多くはないでしょうか。近年クラブ会員が増減する中で従来の委員会構成に拘ると一人で何役も担当することになり、委員会を配置しないこともありうる話です。

これではクラブの活動と委員会の調和が取れた管理運営とは言い難い実状が垣間見えます。推奨クラブ細則にある委員会組織は、クラブの会員数が150～200人程度を想定していると考えます。当地区クラブ会員数1桁～70名、平均33名では実態に合わなくなっているのは現実です。環境の異なるクラブが、同じ手段を使ってクラブ運営がうまくいくとは限りません。現在の委員会構成がクラブにとって十分に機能するものであれば、あえて変更を加える必要はありません。しかし、クラブの会員数の規模に合った細則を作って、思い切った委員会の統廃合、新設を行って、クラブの実態に沿った委員会構成でクラブを管理していく必要があります。従ってCL

Pを採用したクラブ委員会構成も会員数の現状に見合った組織変えに取り組むことが必要です。少数会員のクラブでもクラブの管理運営が図れる組織に生れ替わることもクラブ維持とクラブ活性化に役立つ効果が期待できる最善な取り組みと存じます「CLPは手段であり、目的はクラブの活性化」です。皆さん如何でしょう。

国際ロータリーは2004年11月の理事会決議により2005年に正式にCLPを採用しました。国際ロータリーによって推奨されているのは、次の5常任委員会です。

- ・会員増強・退会防止委員会
- ・クラブ広報委員会
- ・クラブ管理運営委員会
- ・奉仕プロジェクト委員会
- ・ロータリー財団委員会

推奨クラブ細則では上記の5常任委員会を基本にしていますが、これはあくまで国際ロータリー推奨であり、RI定款、RI細則、クラブ定款の規定に反しない限りクラブの裁量で規定できます。こうして地区組織はDLPにまた、クラブはCLPという枠組みが整うことで、地区とクラブの距離感が身近になり、一体感を持ったロータリー運動の展開が適うこととなります。しかし、CLPに関わる推奨されている5常任委員会の枠組みが従来のクラブ委員会組織との整合性に欠ける側面が有ることから、CLP導入当時の4大奉仕部門を軽視する組織の再編に危惧を抱くクラブや会員からの不評が起り、CLPへの拒否反応が高まったことは既に皆さんの周知するところですが、CLPは組織の枠組みを考えた構想です。国際ロータリーが提唱する5常任委員会はあくまで推奨です。すべてこの通りに…とは申しません。会員数が少ないクラブにあってはクラブ管理運営とプロジェクトの2つかも知れませんが、3つになるかもしれません。CLPはクラブ内を大きく5つに分けてそのセッションが細かく細分する形で運営の形態を替えたと言えます。内容は全て従来の委員会活動の継承でいることは間違いありません。さて、ここでご注意を頂かなければならない重要なポイントが二つあります。一つは、クラブの活動状況の現状分析を確り行うこと。二つ目は、クラブ細則の改正変更が必要です。クラブ運営の根幹は自クラブの現状に適った細則への変更を行い、RI定款、RI細則、クラブ定款を遵守した活動が基本です。皆さんのクラブの実態に沿うように毎年見直ししながら、改正していくことが大切です。クラブ管理運営のほとんど、奉仕活動の基本の全てはク

クラブ細則で定めることです。上辺だけの組織変更による実施は避けてください。又、クラブ細則の変更は R I 定款、R I 細則、クラブ定款を背馳した変更にならないよう該当する箇所と他の関係項目との互換性に十分ご配慮ください。

管理運営部会にお集まりの委員長さんは殆どが会長エレクトの皆さんが担当と存じます。

是非、地域の特性やクラブの規模を考慮しながら、クラブの実態に沿った委員会構成となるクラブ細則改正に取り組み、調和のとれたクラブ運営管理の合理化を図ってください。

地区研修・協議会研修委員会活動方針発表

地区研修副委員長 堀内 正一

皆さん、こんにちは！！

只今、ご紹介頂きました次年度地区研修副委員長を仰せつかりました、木更津ロータリークラブの堀内です。どうか宜しくお願ひ申し上げます。

それでは最初に次年度の地区研修委員会のメンバーをご紹介させていただきます。

地区研修委員長 山田修平パストガバナー
(木更津東 R C)

地区研修副委員長 関口徳雄パストガバナー
(浦安 R C)

地区研修副委員長 堀内正一 (木更津 R C)

地区研修委員 青木和義 (木更津東 R C)

地区研修委員 清水晴好 (習志野中央 R C)

地区研修委員 渡邊 勲 (館山 R C)

以上6名で活動いたします。どうか宜しくお願ひします。

従来 2790 地区ではガバナー経験者であるパストガバナーお二人が研修リーダーとサブリーダーを務め研修委員会としていました。次年度、櫻木英一郎ガバナーエレクトは地区委員を配置した地区研修委員会を設置し、より実体のあるものにするとされました。

具体的には将来、各地区委員会が行う様々なセミナーの支援をする組織にする事、またガバナーエレクトが行う三大セミナー (チーム研修セミナー、P E T S、地区研修協議会、の企画部分を受け持つ様にする事とされました。

その意図はガバナーエレクトの業務量の軽減そしてロータリーの活性化の源は会員研修にあるとの考えからであります。

本日この場にご出席の各クラブの方々は、主にクラブ管理・運営委員長かクラブ奉仕委員長の方々が多いと思いますが、今日は、この場をお借りして研修の大切さそして次年度のセミナーの計画についてご説明させていただきますので各クラブの次年度研修リーダー様にお伝え頂ければと思います。

まず、皆様に登録時にお配りいたしました冊子「ロータリーを理解しよう」について簡単にご説明をします。この冊子は次年度地区研修リーダーの山田修平パストガバナーがロータリーの解説書として編纂いたしました。今までも色々なロータリーについての冊子が出版されていますが、目次を見て頂きますと解ります様にロータリーの伝統の原点としましてロータリーの歴史、社会奉仕に関する 1923 年の声明いわゆる決議 23-34 について、最近の規定審議会での主な決議事項、ロータリークラブ定款、R I 定款、細則の説明、またロータリー財団、R L I (ロータリーリーダーシップ研究会) について、そして次年度から変更になる特別月間とロータリーの年表、千葉県の地区番号の推移、地区内クラブの加盟認証日・歴代ガバナーの紹介と大変読みやすく最新の情報が織り込まれています。

また、次年度地区ホームページにもアップされ自由にダウンロード出来る予定ですのでぜひご活用下さい。

然し本日の私の持ち時間ではすべての解説は無理でございますので、後程ゆっくり読んで頂きたいと思いますが、特に内容を全部覚える必要はなく、いつでも手の届く処に置かれ繰り返し読んで頂きたいと思います。

また、一部内容について山田研修リーダーの考え方も入っていますので、ロータリーに精通された方には一つの解釈だと思って読んで頂ければと思います。本日は取り敢えず 15 ページをお開き頂きたいと思ひます。

2010 年規定審議会決議事項の下の方に採決決議案 10-01 と 10-65 が記載されています。

まず 10-01 の『研修リーダーシップ委員会の設置をクラブに奨励するよう R I 理事会に要請する件』これはフランスのロータリークラブの提案ですが、この様に提案しています。

「国際ロータリーの決議により国際ロータリー理事会は、クラブリーダーシップ・プランが推奨する常任委員会に加えて、研修・リーダーシップ委員会を

設置するようクラブに奨励することを検討するものとする。新会員も古くからの会員も含め、RIならびにロータリー財団の目標・規則・リソースに関する知識が欠如しているロータリアンが多く見られる。これは、クラブが徹底した定期研修を継続的に提供していない事に起因している。さらにクラブ会長などと言ったクラブの責務を引き受ける前に、指導力を改善する機会が与えられていないロータリアンが多すぎる。」

もう一つの決議案 10-65 は日本の加古川平成 RC が提案したのですが、『新会員対象に、研修セミナーの実施をガバナーに奨励する件』として「近年多くのクラブで、クラブの会員教育能力や指導力の低下、会員増強の早急化等で、新会員に対し入会前後に満足な教育が行われていない。

その結果、少なからぬ新会員はロータリーに対する基本的な知識、理解が乏しく、クラブへの愛着、例会出席への意欲が感じられない。

よって、国際ロータリーの決議により、国際ロータリー理事会は、このような状況を踏まえ、入会3年未満の会員に対する研修セミナーの開催を地区ガバナーに推奨する事を検討することとする。

こうした地区研修セミナーにより、新会員の資質が向上し、クラブ例会の活性化に貢献し、ひいては会員増強へと結びつくものである。」としています。

勿論これらは制定案でなく決議案ですので、あくまで推奨でございますが、次年度櫻木英一郎ガバナーエレクトは、地区行動目標を「原点を知り考える」とし、ロータリーを知るだけでなく、過去の歴史からより深く理解し、その為に考える事が大切であるとされました。

そして次年度第 2790 地区では、各クラブの研修リーダー様にクラブ会員に、そして特に入会間もない会員に対してロータリーに関する充実した研修を実施する様お願いをしています。

地区研修委員会では、その為のお手伝いとしての活動を考えています。

具体的には、7月新年度に入りましてすぐの7月18日土曜日13時30分より、千葉間屋町のカンデオホテルズ内にあります TKP ガーデンシティ千葉で、クラブ研修リーダーさんを対象としました地区研修セミナーを開催致します。改めてガバナーエレクト事務所からクラブオールで各クラブにご案内を差し上げますので、少なくとも各クラブから研修

リーダーまたは準ずる方1名の出席をお願いしたいと思います。

又、現在検討中ですが入会間もない会員に対してのセミナーの開催も予定しているところです。

私事ですが私がロータリーに入会したのは今から29年前の1986年です。

当時木更津 RC には大変ロータリーに精通し、厳しい先輩ロータリアンが在籍されていました。その方は、手続要覧を会社に1冊、自宅の居間に1冊そしてトイレに1冊と置いておられ、常に勉強されていました。私も良く手続要覧を読むようにご指導を頂いたものでした。

またロータリーはロータリアン自身が学び取るものであると、例え話として「樽の中の芋」の話をよくされました。

それは樽の中の芋つまり樽をロータリークラブの例会とし、芋を失礼ながら会員として例え、芋は樽の中では互いに擦れ合う事で皮が剥け、磨かれ、光ってくる。ロータリアンもお互いに意見交換し、切磋琢磨する事を通じて資質を高め合いそして、光輝いたロータリアンになると例会出席の大切さを教え込まれました。

私はロータリーを良く深く理解し、ロータリアンとしての価値ある行動をする事、日々新たにまた日に新たにではありませんが、ロータリーの本質である「人づくり」に通ずるものと考えています。

是非、次年度は皆様と一緒にあってロータリーを知り・考え・理解していききたいと思います。

その事が皆様のクラブの活性化に通じ、質が量を呼ぶ様に会員増強に少しでもお役に立てればと、次年度研修委員会一同活動していきますのでどうか宜しくお願い申し上げます。

RLI 推進委員会

RLI 推進委員会の事業課題は 次の3点です。

1. 所定の パート I、II、III の各セッションと任意参加の卒後コースの実施
2. 各セッションの進行を担当する DL (ディスカッション・リーダー) の養成と、そのスキルアップ事業の実施
3. ロータリアンのリーダーシップを高めることと、創造的な奉仕活動を進めてゆくことの意義と関連性を発信し、指導力開発を目的とした多地区合同、草の根学習プログラムとしての RLI の普及

実行方針は

- 1) RLIの仕組と有効性を伝え、アクティブなロータリアンの裾野を拡げる
- 2) 実行計画を早い段階で確定させて、粛々と各セッションを実行する
- 3) RLIが地区内でいまだ十分な理解を得られていない状況を改善する

年度の活動成果（目標）は

- 1) パートⅠ、Ⅱ、Ⅲの修了者 60名以上
- 2) DLの今年度技能認定者 20名程度養成する
- 3) 地区内での<少人数、円卓スタイル>による研修セミナー実行回数を増やす

日本のロータリーの現況は会員数がやや盛り返しつつあるようですが、当地区においても会員増強とクラブの活性化が叫ばれております。3年以内にロータリーの魅力を知らずして退会するケースも多いと聞いています。RLIはロータリーの本質を求め、ロータリーライフを楽しむためにロータリーを学習する機会を提供します。社会の変化を認め、多様性を尊重し、高潔性を高めてゆこうとしている献身的なロータリーの奉仕のネットワークを広げてゆく人材づくりのためには、相互啓発と他クラブのロータリアンとの交流が容易にできるRLIとの出会いの場はきわめて魅力的です。

RLIの各セッションはすべて50～60分、1日6セッションで1パートが完了するようプログラムされています。参加希望者は、RLIを実施しているどの地区にも参加でき、そのパートの修了者となれます。パートⅠを自地区で、パートⅡを他地区で、パートⅢをまた自地区で受けることが出来る、日本統一のプログラムで学習します。

RLIの1パート各6セッションを運営するためには1セッションに3名のDL×6=18名、それに運営のための企画、受付、会計、サービスのために10名ほどの全体の流れを理解している会員の協力と支援が必要です。

DL（ディスカッション・リーダー）は、RLI日本支部から派遣されたファカルティ・リーダーから直接ワークショップ研修を受け、承認された人たちで、各セッションの進行役に徹します。現在当地区には、40名のDL認定者がいます。

各パートのセッションは、テーブルをコの字形に並べて（円卓方式）行いますので、1セッション10～15名が参加限度です。1パート最大15名～10×6セッション=90～60名という規模

で参加者を募集します。

RLIの学習の場で個のロータリアンの自分磨き＝創造的リーダーシップから始めて、クラブの創造的な奉仕活動に進め、地域から世界に奉仕のネットワークを拡げて、あなたのロータリー世界を豊かなものにしてゆきましょう！

ロータリー リーダーシップ 研究会	Rotary Leadership Institute
-------------------------	-----------------------------------

RLIは、1992年米国ニュージャージー州（第7510地区）で生まれたロータリアンの知識を啓発し、また将来のロータリークラブの指導者を養成するための全世界の地域と地区の連合体組織です。RLIは、ロータリーの組織や活動に関して、正しく深い知識を持ち、高い教育的な経験を備えた指導能力を持つロータリアンを支援するために活動しています。RLIは、日本におけるロータリー米山記念奨学会と同じ様に、RIが承認した多地区合同プログラムです。RLI日本支部は第2750地区（東京）、第2830地区（青森）、第2770地区（埼玉南東）、第2710地区（広島、山口）、第2640地区（大阪南、和歌山）などを中心に2008年に結成されました。現在日本支部には当地区から、地区代表委員として中村博亘バスターガバナー、日本支部ファシリテーターとして海寶勘一RLIサブリーダーが参画しています。

当第2790地区では、山田ガバナー年度の2011年12月に地区クラブ研修セミナーでRLIの研修方式が採り入れられました。前後して2010年10月から白鳥バスターガバナーなど数名の地区メンバーが2750、2770地区のRLIに参加して先鞭を切り、DL資格を得ました。当地区がRLI日本支部に参加したのは、2012～13年度からで、以後当地区のRLIセッションが始まりました。現在の宇佐見ガバナー年度では3年目のパートⅡまで終了しております。

次年度RLI推進委員会

PG	関口 徳雄（浦安）（地区研修ﾌﾞﾘｰﾀﾞｰ-兼任）
委員長	諸岡 靖彦（成田）： y-morooka@nagomi-yoneya.co.jp 090-8109-5507
副委員長	遠藤 平（千葉西）： number-9@sea.plala.or.jp 090-4414-9296
委員	清田 浩義（千葉）： kiyota@fujiseiko-net.co.jp 090-7843-7553

RI 第 2790 地区 ロータリー理念研究委員会 活動のご提案

委員長 海寶勘一（千葉西）
副委員長 平山勝己（千葉若潮）
委員 大内 啓（柏南）
島 正彦（館山）
松田泰長（成田）

《活動概念》

第 2790 地区史において初めてとなる真新しい委員会ですが、親しく興味をもって頂ける地区委員会を目指しますので、各クラブとご一緒に学ぶ喜びを共有できるよう心がけます。

櫻木ガバナーエレクトの熱意によって創設された委員会として、私たち地区委員会一同が創始者として日々鳩首会議を重ねてまいりましたが、クラブメンバーの方々が役立つ活動を、具体的に示す方向性を見出すことに専念してきました。

櫻木ガバナーエレクトはロータリー運動の基本となる理念を、今一度創成期に遡って研究する価値が重要であるとの指示がされました。シカゴでのロータリー運動が発展拡大し世界のロータリーになった基礎理念をより一層親しみをもって理解するためには、何といたってもロータリーの原点になっている歴史を知ることから始まると承知して、研究の焦点を歴史の基本を忠実に調べ学ぶことにしました。

幸いにも、たくさんの先達が記述されている出版物から学習し、それらの貴重な資料を参考にさせていただきながら、委員会メンバーも独自に検索をして、如何にクラブメンバーの方々が参考にして学んで貰えるかを考察致しました。

奉仕活動の理論と実践は基本であり大切なことですが、真善美を共有しあうロータリアンとしての心構えこそが基礎となりますから、ロータリーの基本理念を知ることにより、一層ロータリー活動が誇り高く有益に楽しむことができると思います。理念を身近に心がけすること、自己研鑽を通してクラブ内での活性やクラブ外の交流が有意義になり、対話することが尊く活発になることを大いに期待しています。

《活動方針》

1・ロータリアンとして学んで知って人徳する基本的なロータリーの理念を、時々の要となった事項や人物にスポットを当てながら、その時代背景を浮き彫りにする。

1・クラブメンバーが、歴史に触れることによって時々の人物を知り、その影響をもって自己形成とロータリー活動に価値が高まることを願って、知って得する知恵を出し合ってみたい。

1・奉仕活動における理論と実践のバランス意識をたかめる。

《活動計画》

1・櫻木ガバナーが毎月クラブ会長・幹事宛に発行されるガバナー月信の 1 ページをお預かりして、委員会活動の発表の場とし、歴史的ロータリーの知識や情報を掲載広報する。

1・櫻木ガバナーや管理運営委員会と地区研修委員会との共同の活動も模索し、経緯をみながらクラブメンバーと共に最善の活動が提示できるように考えていきたい。

1・各クラブや地区委員会からの問いかけを幅広く受け止め、できるだけ多くのクラブメンバーの為になるよう、自在に幅広く開示できることを優先させて考えてみたい。

その一例として、オープン参加型の講演会とフォーラム等の企画実践を通して、読むことなく、尊敬しあう仲間との対話の中から先人の叡智に気づき、自己形成を学び取る感動を体験して頂く。

●ガバナー月信記載予定事項

ロータリー史上の重要事項や人物を 12 回にわたって紹介発表する案件。

ポール・ハリス チェスレー・ペリー フランク・コリンズ アーサー・シェルドン グレン C・シード ドナルド・カーター ガイ・ガンディカー ハーバート・テラー アーチ・克蘭フ ジョージ・ミーンズ

米山梅吉 福島喜三次 古澤文作 柏原孫左衛門 土屋元作

●ガバナー月信記載記事予定テーマ案

1号（7月号） ロータリー理念につき対話ができる喜びを知ろう

2号（8月号） 始祖ポール・ハリスの熱きロータリー理念

3号（9月号） チェスレー・ペリーの寛容と多様性

4号（10月号） 二つの標語（MOTTOS）

・Service Above Self.

「超我の奉仕」

・ He (One) profits most who serves best
「最も良く奉仕をするもの最も多く報いられる」

- 5号 (11月号) Ideal of Service「奉仕の理念」
の心を解く
- 6号 (12月号) 言行はこれに照らしてから
「四つのテスト」の偉大さ
- 7号 (1月号) 「決議 23-34」はロータリアンの
活動指針です
- 8号 (2月号) 米山梅吉翁と奉仕の理想・超我の奉仕
- 9号 (3月号) 日本でのロータリー活動草創期に
活躍した先人たち
- 10号 (4月号) ロータリー財団の根本理念を理解しよう
- 11号 (5月号)
- 12号 (6月号)

意見・情報交流会 (質疑応答)

- | | | |
|---------------|------|-------|
| ・管理運営委員会 | 委員長 | 金子 公久 |
| ・地区研修委員会 | 副委員長 | 堀内 正一 |
| ・R L I 推進委員会 | 委員長 | 諸岡 靖彦 |
| ・ロータリー理念研究委員会 | 委員長 | 海寶 勘一 |
| ・管理運営部会アドバイザー | P G | 中村 博巨 |

司 会 石井 量久 管理運営委員

只今から意見・情報交流ということで、皆様からの活発な発言を頂きたいと思えます。
各委員会の活動計画に対して、質問やご意見のある方は、挙手をお願いいたします。
なお、発言の最初にお名前と所属クラブ名を名乗ってからお話しください。

Q. 茂原RC 山田 則彰 会員

「相談窓口」とは、受付の方法は電話、文書等、具体的にはどういった形式をとるのか？

A. 金子管理運営委員長

7月までに受付のホームマット(書式)を各クラブにガバナー事務所を通じて通知する予定でおります。

なお、受付方法は電話、メール、F A Xでも受け付ける予定で検討させていただきます。

ガバナー事務所に問い合わせ頂けたら委員会に連絡が回る仕組みを整えたいと存じます。

Q. 茂原RC 山田 則彰 会員

R L Iセッションにクラブから参加するのは、どんなレベル(入会歴、役職)の会員を予定したら良いでしょうか？

A. 諸岡R L I 推進委員長

一般的にはクラブの次の時代のリーダー候補とし

ておりますが、宇佐見年度では〈会長エレクト〉を推薦していただくようお願いしています。櫻木年度も基本は同じですが、クラブの人材育成の事情で人選していただいて結構です。

Q. 茂原RC 山田 則彰 会員

ある程度のロータリーの知識がない方ではないとR L Iのプログラムについていけないのでは？

A. 諸岡R L I 推進委員長

R L I自体が当地区で始まって4年目を迎え、地区84クラブ中50クラブの参加に留まっているので、知識があればそれ以上の知識を吸収できますが、参加いただければロータリーの未知の実践的な知識に触れることができるので、ロータリーの知識のない方でも例会に真面目に出席されている方で、ロータリーに志がある方であればロータリー歴は問いません。

Q. 茂原RC 山田 則彰 会員

ロータリー理念研究委員会についてクラブで説明するのが難しい。ある程度この委員会の成果が出てきたら卓話依頼は受けて頂けるか？

「ロータリー理念研究委員会とはどのような委員会活動をしているか？ 成果として今年度の月信に掲載している内容」という題材で卓話をお願いできるか？

A. 海寶ロータリー理念研究委員会委員長

現在は考えていない。

今の時点ではこの協議会でまとまったものに理解を深めて頂き委員長からクラブに話して頂くことがベストだと考える。

卓話依頼の窓口として管理運営委員長(金子委員長)にまず相談して頂きたい。

Q. 柏RC 岡本 祐彦 会員

管理運営委員会の資料について質問、資料の5ページ〈活動方針(目的)〉は地区のものか？

地区から各クラブに活動方針を依頼しているものか？

「1)ロータリアンとしての意識や行動、認識、規律などを糺すことを意図する」この「糺す」の意味合いは如何なることと理解すれば良いでしょうか？

A. 金子管理運営委員長

地区の委員会のものです。地区委員会の基本の信念を糺すと言う意味で使わせて頂いた。

現在、自主権をかざしてクラブ運営を行うクラブがあり、クラブはR Iから認証されR Iに加盟した意味は、標準ロータリークラブ定款・推奨ロータリークラブ細則を守りクラブ活動するのが基本であります。それを逸脱しないようにすることを示唆する意

味があり、櫻木GEもそういうところを踏み込んで考えて頂きたいと言う意味をこめ、あえて「糺す」という言葉を使わせて頂いた。

今後の地区管理運営委員会の「相談窓口」にお寄せいただいた質問について地区管理運営委員会は、標準ロータリークラブ定款・推奨ロータリークラブ推奨細則に照らし合わせ回答するつもりです。

Q 野田RC 仲長 孝 会員

「原点に戻る」と地区目標を掲げてあるが、今回の地区研修・協議会配布資料の最後ページには、「ロータリーの行動規範」が掲載されているが、これはどういう意味か。また、どのように理解すれば良いでしょうか？ なお、私達のクラブでは「四つのテスト」も行っていないのが現状です。

A PG中村アドバイザー

行動規範は職業宣言から変わってきたものである。

ロータリアンの実践道徳の規範であった「ロータリーの道徳律」が1980年に廃止され、1989年「ロータリアンの道徳律」の代案として「ロータリアンの職業宣言」を規定審議会が採択。その後、「ロータリアンの職業宣言」が改編され「ロータリーの行動規範」に替わってきました。これは仕事をしたことがない人、または、仕事を中断している人を正会員として認められ、そして家事のため仕事を中断、または仕事をしていない人を正会員として認められた事が背景にあります。

そう云う経緯から、職業宣言では実情にあわないので、行動規範に変更されたのです。

Q 野田RC 仲長 孝 会員

ライオンズとロータリーとの違いは一言で教えて頂きたい。

A 海寶ロータリー理念研究委員長

ロータリーとライオンズの違いは「We serve」や「I serve」の判断で振り分けるべきでないと思う。ロータリーは奉仕団体でなく人間形成を主とするクラブとしての理念を持ち、奉仕団体ではない。米山梅吉翁のクラブ例会は人生形成の場であるという言葉が今でも生きている。メンバーが和気藹々と楽しむだけではなく、ロータリーは心の形成が核になっている。ロータリアンがどのように生きていくかの生き様を例会で育んでいくことが大事であり、両クラブの違いは心の持ち方があるかどうかの問題であると思う。

Q. 千葉RC 名取 始 会員

ロータリーは職業奉仕が入っているのでは？つまり「He profits most who serves best」が入っていて、ライオンズは人道的奉仕が中心ではないのか？

A 海寶ロータリー理念研究委員長

ロータリーは職業奉仕の理念がロータリー基本理念になっていることは、地区内のメンバーと語り合う経緯をもった経験があり、職業奉仕理念はロータリーの核の理念になっていることは十分に承知している。各クラブでも理解してもらいたい理念である。櫻木GEは、職業奉仕活動は奉仕プロジェクト委員会に任せて、ロータリーの心である理念はロータリー理念研究委員会が受け持っていく明快な考えをもっている。ロータリーの基本理念は職業奉仕にあることを十分に理解している。今後はクラブのために役に立つ具体的な活動は、みなさまのご意見を伺いながら、セミナー等の開催にむけて参考にしていきたい。

A PG中村アドバイザー

今、ライオンズとロータリーの違いのお話しが出て参りましたが、ロータリーの奉仕とは「Ideal of service」である「奉仕の理念」をもった組織であり、奉仕の理念をもった人がロータリアンである。「奉仕の理念」とは、他人のことを思いやり他人のために尽くすと云う超我の奉仕をもって活動することがロータリー精神である。初期の銘RI事務総長のチェスリーパーリーが言っているとおりで、「すべてのロータリアンは他人のことを思いやり他人のために尽くす」と云う「Service Above Self」と言う「超我の奉仕」の精神をもって奉仕をしていこうとすること。ロータリアンはそういう奉仕の心を持って、一人ひとりが奉仕をするのがロータリアンであり、I Serveに繋がってゆくと解します。

Q. 千葉RC 名取 始 会員

「We」と「I」の違いは？

A PG中村アドバイザー

「I」は一人ひとりの奉仕であり自覚をもって行動しましょうということで、「We」はみんなの力で奉仕行動しようとする意味があると捉えています。

Q 市原RC 西村 芳雄 会員

クラブはクラブ奉仕委員会から管理運営委員会を新設したクラブではどう実践したらよいか？

今日の資料は地区委員会の事が書いてあり、クラブのことではないので教えて頂きたい。

A 金子管理運営委員長

地区はDLPを採用し、管理運営部会を新設した、各クラブでは従来型のクラブ奉仕委員会が残っている。地区組織が管理運営になったのだからうちのクラブも管理運営というポジションで活動しないと、地区とのバランスが悪いという見方をするクラブがいます。基本的には地区はR Iの下部組織としてDLPを立上げて、組織運営をしています。それに見合う形でCLPが動いています。CLPは五大推奨委員会がありますが、この委員会に全て名称を合わせて作らなければCLPでないとということではなく、管理運営委員会を作ったからCLPであるかと言うとそうでもない。名称だけを変えるのではなく、クラブの運営方式に合わせて委員会を立ち上げ、組織を直していく、クラブには自治権がありますので活動の基本が組織を変更する事に伴ってクラブを管理している細則を変更してください。組織をクラブ活動に見合った形でどんどん変更することによってクラブ活動が上手くいってれば良いが、一年やってみてダメだったらこの委員会は別のところに入れようと思えることでクラブが活性化されるのです。クラブによってはいろんな考え方があり、地区が組織を変更したからそれに合わせてクラブ組織を変更するのではなく、クラブの枠組みは自分達で作る、それに合わせて自分達の活動を当てはめていく、そしてその枠組みが合わなければ自分達で直していくことが出来ることを理解して頂きたい。

地区の管理運営部会は地区のクラブに対して具体的にこういう活動をして管理運営してくださいという指導をするべきではないと考えます。各クラブが気づきを持って各クラブが自分達のために活動できるようにクラブを変えて頂きたい。このような発想を持って考えて頂きたいと思います。そうすればクラブ内で自分達の良いように切磋琢磨して活動出来るし、地域のためになる活動ができるのです。そういう原点を考えて頂きたいと言うのが地区委員会の狙いなのです。まず、①クラブ細則を見直す。②クラブ活動に合った委員会組織を立ち上げる。このことを行う事が最初の委員会の目的だと私は考えています。

Q. 市原RC 西村 承平 会員

私達クラブは別枠でCLPの委員会を作り、他の委員会にアドバイスできる仕組みを作って活動している。

A. PG中村アドバイザー

CLPというものを難しく考えないで頂きたい。

クラブリーダーシッププラン（CLP）をそのまま日本語に訳すと「クラブ活動計画書」ということです。つまり皆さんが既に毎回お作りになっているクラブ活動計画書なのです。難しく考える必要はない。但し、R IのCLPの中には9項目の指標があります。長期目標を立てなさい。それを達成するための短期目標を作りなさい。効果的なクラブになるための指標を書きなさい等の指標があります。この指標を参考に使えばより良い活動計画書が出来ますと言う事で特別なことではないのです。CLPだから特別なものと思わないでください。今言った事は会長要覧の7ページに記載してあります。また、この9項目の全部の指標を使ってやるのではなく、適宜、自分のクラブに合うように指標を見ながら組織を変えて下さい。

R Iが推奨する常設委員会を、真似をするということではなく、参考委員会として使って頂き、大きいクラブは小委員会を沢山作り、小さいクラブは5つの委員会、場合によっては1つでも2つでも良いのです。この様にクラブで柔軟に考えることが出来るのです。CLPが推奨された最初の「手続要覧」の文書にはこのように記載してありました。

Q 多古RC 萩原 承平 会員

ロータリーとライオンズの違いは優劣ではないと考えます。

ロータリーを歴史的にみて決議23 - 34の時期に分派がライオンズクラブではと記憶していますが詳細を教えてください。

私が先輩から教えてもらったのは、「食べ物がかかったら、食べ物の育て方を教えるのがロータリーであり、水がでなかったら、井戸の掘り方を教えるのがロータリーであると」教えて頂いたのでこのことについても再度教えて頂きたい。

A PG中村アドバイザー

1917年にライオンズが設立されました。その当時、ロータリーでは職業奉仕の理念がロータリーの理念として考えられていた。あるクラブでポリオのようなハンデキャップを持った子供達に支援をしなければという考え方を持った人達が出てきて、クラブで活動していました。そういう中で人道奉仕・社会奉仕も大切だというクラブが数多く出てきて、職業奉仕派と社会奉仕派が大変もみあって、ロータリー分裂の危機があったのです。それに対して1923年の決議34号で職業奉仕と社会奉仕をミックスさせてロータリー哲学は「超我の奉仕」の哲学であり、「最もよく奉仕するもの最も多く報われる

「He Profits Most Who Serves Best」と「超我の奉仕 Service Above Self」を上手くミックスさせた文書を出してきたのです。今日の議論の中でクラブの自主性・独自性と言われていましたが、社会奉仕に関しては各クラブが独自に行ってよい活動で、R Iはクラブに絶対に口を出してはいけないという文書が決議23 - 34なのです。そういう流れの中で出てきたのが2番目の質問にありました、ロータリーがプログラムを作って軌道に乗ったら他団体に譲っても良いという、いわゆるロータリーは表に出なくても良い「陰徳」だと言う考え方です。その考え方は決議23 - 34の中に出てくるのです。「I serve」を強調するロータリーで言う社会奉仕とはロータリアン一人ひとりの奉仕の訓練、試験管の実験みたいなものと言う事が第6項に出てきます。これがロータリーの「陰徳」という精神です。しかし、今ではそうではなく、むしろ積極的にロータリーの認知度を高めましようとして変わってきている。だから、決議23 - 34が何度も廃止されようとしている。今はヒストリードキュメントとして残ってはいますが、実際は1992年の決議92 - 286に社会奉仕に関する声明で社会奉仕に実践について指針が示されています。日本のロータリアンは決議23 - 34に拘っていますが、現在は決議92 - 286が生きています。その辺の事を良く覚えて頂き、なぜ、決議23 - 34が何度も廃止され、第一標語だった「最もよく奉仕するもの最も多く報われる One Profits Most Who Serves Best」が第2標語に格下げになったのかは理由があるわけで、現在の第一標語は「超我の奉仕 Service Above Self」です。その辺をよく考え勉強して頂きたい。

司会

では、予定時間となりましたので質疑応答を終らせていただきます。次に、講評と総括の御挨拶をアドバイザーPG中村博巨様にお願いをいたします。

アドバイザー講評

管理運営部会アドバイザー PG 中村 博巨

今日は大変勉強させて頂きました。今、各委員長さんからいろんなお話が有りました。管理運営委員会はあくまでも皆さんのクラブのためにお力を貸そうと言う委員会です。皆さんのクラブをいかに上手く管理していくか、効果的なクラブを作っていくか

そのためのお手伝いをするのが管理運営委員会の役目なのです。その辺のところも良くご理解頂いて、そして今後のクラブの皆さんの活躍と、効果的なクラブを作る、元気なクラブを作ることに努力して頂きたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

司会

これで、本日の予定していた事項の全てが終了しました。長時間のご出席を頂きありがとうございます。本日のアドバイザーであられますPG中村博巨様ありがとうございます。

閉会の辞を管理運営委員会常井委員にお願いをいたします。

管理運営委員会

地区委員長 金子公久（成田コスモポリタン）
地区副委員長 加藤 隆（千葉東）
地区委員（会計） 石井量久（成田コスモポリタン）
地区委員 井上賢司（市原中央）
地区委員 常井典夫（柏）
地区委員 梅原正一（上総）

地区研修委員会

地区委員長 山田修平（木更津東）【会長部会】
地区副委員長 関口徳雄（浦安）【幹事部会】
地区副委員長 堀内正一（木更津）
地区委員 青木和義（木更津東）
地区委員 清水晴好（習志野中央）
地区委員 渡邊 勲（館山）

R I 推進委員会

地区委員長 諸岡靖彦（成田）
地区副委員長 遠藤 平（千葉西）
地区委員 清田浩義（千葉）

ロータリー理念研究委員会

地区委員長 海寶勘一（千葉西）
地区副委員長 平山勝己（千葉若潮）
地区委員 大内 啓（柏南）
地区委員 島 正彦（館山）
地区委員 松田泰長（成田）

会員増強部会



■ 会員増強・退会防止部会

リーダー

次期・会員増強・退会防止委員長

北原 俊彦

アドバイザー

パストガバナー

山中 義忠

開会のことば

委員 岩藤 哲

地区委員を仰せつかりました新千葉RCの岩藤と申します。

本日は、ゴールデンウィークのスタートの日であります。午前中に引き続きまして会員増強・退会防止委員会にご出席頂きまして、誠にありがとうございます。

私は、ロータリー暦25年以上であります。勉強不足がたたりまして主催者側として誠にお粗末ですが、RCとは、果たして「地域や世界が必要とされている組織なのか」とまだよく理解していません。

今日は、皆様と共に学び、この組織の存在は、世の中のためになるのだという事をまず理解したいと思っております。

そのためにも、地区の会員数を3,000名にしたいと心から思っています。

私を含め各々の立場で地区会員数を3,000名にするため、早速各クラブに戻って今日学んだことを元に「よしやってみようぞ」・「絶対やってみようぞ」と強い心を持って帰れる会にしたいと思っております。それでは、只今より国際ロータリー2790地区2015-16年度 会員増強・退会防止委員会地区研修協議会を開会いたします。

委員会方針の発表

委員長 北原 俊彦

来年度の方針は、2790地区全会員が増強委員になってもらい、3000名会勢に向けて団結することです。運動方針は、「ロータリアンとしてのプライドを取り戻そう」です。

この一年間の増強運動では、通常の増強委員会の他に「特別会員増強委員会」を結成して運動を展開するつもりです。

1) 私たちは会員としての自覚をどれ程持ち合わせているのだろうか

2790地区は今から10年ほど以前には、3000名を超える会勢を誇っていたと記録にあります。2014年12月末では2780名程です。私が入会した昭和63年頃は千葉南ロータリークラブへの入会はかなり厳しい雰囲気を感じられた。勿論私個人はロータリークラブとはいったい何をする団体なのかよく知りませんでした。お世話になった先輩に勧められてどちらかというとならなく入会したのでした。100名になろうとする会勢の千葉南クラブにはかなりの千葉経済界の有名人が多数見られた、先輩から委員の所属や委員長の指名などは断らずに、ただ「はい」と言いなさいと諭された。仕方がないので懸命にロータリーとは何なのかと、そして所属する委員会は何をすればよいのか勉強した。そして先輩からは、「入会できたことはその職業人として認められたス

テータス」であると教えられた。私にはすぐにそのような感覚になりきることは無かった。だが、例会に出席し新しい友人達が来てくると仕事でも趣味の世界でも今までになかった人生観が広がっていくのが分かり、例会への出席が楽しみになった。個人のメリットだけの追求だけではなく、各種の行事に参加することによって、ロータリーを知るようになり、メリットも仕事の繋がり、趣味の世界も奥の深さを知ることになる。求めなくてとも私のメリットは向こうからやってきた。自然に結びつきが深まっていくのである。

2) 如何にしたら全会員参加の増強運動ができるのか。

例会に参加する、会のイベントに参加することによって、会員同志の友情が深まっていきます。しかし、深まる前に例会の各種イベントに参加せず、ロータリーの本質を知ることが出来ず、また会員同志の友情も芽生えず退会してしまう・・・残念でなりません。それぞれのクラブが多くの方が各種行事に積極的に参加して行けば新入会員に語りかけることも増えていく、友情も芽生え例会に出席し話し合うだけでも楽しくなる。特に思うことはベテランと言われる会員に強くお願いしたい。長年クラブに在籍して各種委員会を経験して会長、幹事も経験している、そのようなベテラン会員がもう自分の時代ではないなどと言わずに、むしろ積極的に若い会員をリードしてほしいものである。ベテランが発言し、ロータリーは是だと経験を伝えていくことは、先輩会員の責任であると思う。同好会を作ってもいつの間にか何もしない同好会になっている。経験豊富な先輩会員が動けば若い会員は必ず学んでいくに違いない。ロータリアンは皆それぞれの部門で優秀な人々である。友情が深まれば退会防止も出来る。そして入会希望者の情報ももたらせられるに違いない。ベテラン会員から新会員まで全員が参加した友情作りが会員増強に結びつくものと確信します。この後は、私を含めた4人の委員がそれぞれの思いを会員増強の成功に向けて語りかけさせていただきます。

最後に「ロータリアンのプライドを取り戻し、3000名会勢に向けて団結しましょう」

資料説明-1 委員長 北原 俊彦 「特別会員増強委員会設置」について

増やそう友人・尽くそう社会に

- 1) 会勢 3000 名目指して、[特別会員増強委員会]を設置する
- 2) 特別会員増強委員会の実行案を 2790 地区 会員増強・退会防止委員会に提出する。
 - ・増強人数 男性 _____ 名
 - 女性 _____ 名

- 3) 増強委員会は原則として毎月1回例会日に開催し、現状を話し合う。
 - 4) 委員会の委員長はそのクラブの増強委員長が就任する。
 - 5) 会員増強にはそのクラブ会員全員が参加できるよう工夫する。
 - 6) 各ガバナー補佐はその地区の集まりには地区所属クラブ増強の現状を把握し「会員増強・退会防止委員会」に報告できるよう努める。
- ◎増強するための方法として「会員増強・退会防止委員会」として取組み案を提供します。

*元会員および元会員所属企業、団体の後継者への呼びかけ

*女性会員入会への積極的呼びかけ

*外国人会員の入会促進(元米山等)

*卓話者等の入会

*体験入会の実施

*友人、知人の「つて」

*会社の取引先

*趣味の仲間

*取引銀行へ紹介依頼

*増強功労者の表彰

- 特別増強委員会は原則として1年であるが、継続して目標達成も、よしとする。
- 地域を超えて所属クラブの例会場が遠い場合は、その近くのクラブを紹介する。
- 入会者には徹底したオリエンテーションを実施する。

資料説明-2 副委員長 相澤 友夫 「会員増強紹介カード」について

ワークシート：会員増強に関する戦略を作る

資料説明-3

・会員増強推進用手引き

・クラブ会員増強委員会の手引き

ダウンロードは「www.rotary.org」から

資料説明-4

アンケートのお願い

・同好会またはその他類似する会の存在の有無について

今期 増員成功クラブ体験談

卓話者 新千葉RC 星会長

私は、いま新千葉RCの49代目の会長を務めております。ただいまの会員数は、49名で7名の増強と1名の退会で、純増6名となっております。2年前に会長候補者に選出された際、来年の50周年を「会員50名で迎えたい」と言う強い気持ちと、記念事業を行うには、財政的にも多くの予

算が必要となるので、その問題を解決するには、会員増強することが近道となるので、幹事候補者と共に2年間という時間をかけて思考を致しました。

その内容は、入会候補者の人選を建設業などの横のつながりの強い業種の中で、「キーとなる人」を選び2年をかけて、入会を打診いたしました。そして、入会希望を得られた際、委員のみならず会長・幹事そして、会の重鎮も参加する委員会という名の宴会（囲む会）を開催し入会候補者とその友人2名を招待いたしました。

その時に、入会候補者に入会意思を確認しその友人にも同様に確認して合計3名の新規会員を増やすことが出来ました。

最後に、各クラブにおいて、会員増強の目的を持つ必要があると思います。例えば、今回なら当クラブは、「50周年を会員50名で迎える」と言うような目的です。そして、例会時等で会員増強・退会防止委員だけでなく会長自ら増強の目的を常に問いかけて、全員参加型の増強活動を行う必要があると思います。

質疑応答について

質疑者 四街道RC 村山氏

私は、ロータリー歴 5年で会長も歴任しました。ただいま、会員増強・退会防止委員長を2年連続行っております。

四街道RCにおいて、一つに、「ロータリー活動の勉強することが困難である。」二つに、「地域のロータリーアンが少ない。」という中で、どのような方法で会員増強と退会防止に努めればよいのでしょうか。

回答者 北原委員長・小寺委員

1. 会員増強・退会防止委員会は、クラブ内の他委員会と一番多くの連携をとる必要があると思われます。例えば、クラブ研修委員会に新規入会会員に対するオリエンテーリングの充実化や後のクラブ研修セミナー（RLI方式）の早期開催依頼などです。（小寺委員）
2. 会員紹介カードの活用の中で、入会候補者がロータリー活動に参加しやすい地域に入会を進める、クラブ間での紹介活動があっても良いのではないのでしょうか。（北原委員長）

質疑者 成田RC 小寺

委員長挨拶の中で、「各クラブに特別増強委員会を設置してほしい」と有りましたが、その委員会の構成員は、だれを選出するのですか。

回答者 北原委員長

構成員は、会長、会長エレクト、幹事、副幹事、クラブ管理運営のプログラム・親睦各委員長そして会に重要な人等、だいたい10名前後を選出し、5名程度のグループで個々に話し合ってください。

質疑者 成田RC 小寺

主にどのような方を入会ターゲットにして増強されましたか。例えば、他団体からとか。

回答者 新千葉RC 星会長

他団体のつながりより仕事上の付き合いでのつながりを利用して、仲間の多い人を選出して、そのつながりで入会者を増やしました。

先ほど述べたようにクラブ全体（特に会長）が増強意識を持ち、絶えず声に出し続けることが増強につながったと思います。

2015-16年度 会員増強・退会防止部会

委員長	北原 俊彦（千葉南RC）
副委員長	相澤 友夫（船橋東RC）
委員	岩藤 哲（新千葉RC）
委員	小寺 真澄（成田RC）
アドバイザー	パストガバナー 山中 義忠（船橋南RC）

※ 会員増強紹介カード

会員増強紹介カード

提出日 平成 年 月 日

紹介者 _____

(ふりがな) お名前		生年月日	年 月 日
事業所名		主要業務	
		役 職	
事業所在地	〒 _____		
連絡先TEL			
趣味・特技			
紹介者との 関係			

※ 会員増強シート

『会員増強シート』
★増やそう友人！ 尽くそう社会に！★

「会員増強に関する戦略を作る」
2015～2016年度特別会員増強防止委員会
委員長 北原 俊彦
2015年4月29日

入会しない理由

なぜ増強が必要なのか？

クラブ会員数

名

純増目標

名

会員増強

どんな人を入れたいか？

入会者

名

退会者

名

なぜ退会するのか？

目標 平均1クラブ3名
純増＝入会－退会
84クラブ 会員約2760名
2790地区 84クラブ 3000名(目標)

増強(クラブ) 2790地区 分区 クラブ

☆増強会員紹介カード

維持(クラブ)

氏名 (第 地区 RC) / 年 月 日

- 44 -

IT 広報公共イメージ部会



■ IT広報公共イメージ部会

リーダー

アドバイザー

次期・IT広報公共イメージ委員長

パストガバナー

大谷 京子

杉木 禧夫

◎委員長挨拶および方針

次年度のラビンドラン会長は広報活動について“オンラインツール・SNSなどのインターネットを多用した通信や広報を強化すること”とおっしゃっています。そこで櫻木エレクトは次年度委員会の名前の最初に“IT”の文字を加えました。

みなさんのまわりや会社などITはかなり前から導入されていると思いますがロータリーではようやくITの活用に力を入れ始めました。次年度はFAXやメールで報告していた会長指針や計画などをオンラインツールでの入力になっています。そして「RI会長賞」についてもオンラインツールの活用が必須項目に入っています。次年度当地区でも“IT”を広報の手段として強化していきたいと考えています。

今年度より始めました“ロータリーデー”につきまして次年度は地区委員会の行事としてロータリーデーは行いません。委員会としては各クラブで行われるロータリーデーの広報活動をサポートしていきます。

各クラブでロータリーデーや奉仕活動をした時みなさんはどのような広報活動をしていますか？新聞に載せてもらったり、ケーブルTVなどで紹介してもらったり、活発に広報活動をしているクラブもありますが、何もしていないクラブもあるのではない

でしょうか。

TVや新聞という難しい場合もありますが、まず身近なところから紹介していきたいと思います。

みなさんは地区のホームページをご覧になったことがありますか？中を見ていくと“各クラブの活動報告”のページがあるのをご存知ですか？このページに各クラブの活動をぜひ載せてください。ガバナー事務所に写真とちょっとした（いつ・どこで・誰が・何をした程度の簡単な）文章を送っていただくだけで掲載できます。パソコンで文章を読むというのは慣れていないと敬遠しがちになるので短めの簡潔な文章が読みやすいと思います。ぜひ掲載してください。

そして次年度IT広報委員会ではFacebookのページをすでに開設しています。リアルタイムに掲載でき意見交換などの交流もはかれます。ぜひこちらにも掲載をお願いします。

クラブの中にもFacebookをされている方がかなりいらっしゃると思います。その会員に掲載していただいたり委員会に連絡していただければ掲載いたします。しかしながら委員会としては各クラブの活動予定を完全に把握していません。そのため何か活動を行う際は情報をいただけると助かります。予告や報告・周年行事のお礼などにぜひ活用してください。

しかしながら、まだまだロータリーではインターネットが苦手な方が多くいらっしゃいます。そこで

次年度は“ガバナー月信”に広報のページをいただき地区・委員会・分区・クラブなどの活動や他の委員会と協力していろいろな情報を掲載していく予定です。ただし月信は2か月前までに入稿ですので活動などの予告がわかり次第ご連絡いただきたいと思っております。

そして次年度7月に入りましたらすぐに地区 IT 広報公共イメージ委員会のセミナーを行います。このセミナーでは“マイロータリー”・“クラブセントラル”“ロータリーショーケース”などのオンラインツールの登録・活用について説明させていただきます。こちらもぜひご参加をお願いします。

このような形で次年度 IT 広報公共イメージ委員会は地区・各委員会・各分区・各クラブとうまく連携してお互いの活動を広報するという活動において相乗効果を得られるように努力してまいります。

櫻木エレクトは「最大の広報手段は会員自身である」とおっしゃっています。まずはロータリーの皆さんにできるだけわかりやすい広報活動をして皆様が広報しやすい環境づくりをしていけたらと思います。

みなさん1年間よろしく申し上げます。

◎アドバイザー挨拶

杉木パストガバナー

皆様、本日は第一部の本会議に続き、第二部部会別協議会、IT 広報公共イメージ部会にご参加頂き、大変ご苦勞様でございます。来るべき新年度に向け、充分な準備と周到な計画を宜しくお願い致します。本日はそのための協議会でございますので、意義あるものとなることを期待致したく存じます。

ところで、RI は三大戦略計画を発表致しました。

1. クラブのサポートと強化
2. 人道的奉仕に重点化と増強
3. 公共イメージと認知度の向上

正に本部会の IT 広報公共イメージを一層強化し、ロータリーの認知度を内外ともに深化させようとのものがございます。

皆様、ご周知の通り、ロータリーの広報活動については歴史的にみるとロータリーはむしろ広報を追求すべきではなく、むしろ私達の素晴らしい業績が自ら物語る様にさせるべきだという考え方が主流を為して参りました。それは1923年の方針の中に「ロータリークラブが奉仕活動を選ぶ場合に宣伝をその主たる目標としてはならない」という声明があり、しばしばロータリークラブは宣伝と広報活動をする努力を避けるべきであるという意味に解釈され

て参りました。

併し、実際は1923年の声明が更に述べていることは「ロータリーの影響力を拡大する一つの方法として、クラブが立派に遂行され、有益な事業をされるについては正しい広報が行われるべきである」ともございます。その後、現代風な広報の哲学が1970年代半ばに採択され、次の様に述べて居ります。

「ロータリーの綱領がプログラムへの理解、評価、支援を育成し、人類へのロータリーの奉仕を広げるなら、良い意味での宣伝、好ましい広報、肯定的なイメージはロータリーにとって望ましく不可欠な目標です」

今日では、ほとんどのロータリアンが積極的な広報活動がロータリーの成功にとり、肝要であることを認めて居ります。奉仕プロジェクトはロータリーの一番優れた広報だと考えられます。ですから、ロータリークラブがそのプロジェクトについて一般の人々にも充分知って頂くロータリークラブの認知度を深化させ

ることは将来の為にも必要なことであると存じます。皆様にとりまして、地域社会に効果的であると思われるツール、媒体を駆使し、広報活動一層のご理解の程をお願い申しあげてご挨拶と致します。

◎活動報告の参考例説明

- ・松戸東 RC ロータリーデー「盲導犬普及支援プロジェクト」
- ・今年度地区ロータリーデー
- * 動画・パワーポイントを使用しての説明

◎地区 HP・Facebook の紹介

インターネットをつないで実際のページを紹介

◎質疑応答・意見交換

- ・IT 活用としてどこまでが許されるのか？
(Facebook・ツイッター・You Tube など)
→クラブの活動を動画で YouTube に載せて紹介しているクラブもたくさんあります。
一般の方が映っている場合などは配慮がいらしますね。
- ・Facebook を始めとして広報活動におけるルールを作ったほうがいいのか？
→委員会として「ガイドライン」の作成を検討します。

- ・ロータリアンの中にはまだ「ロータリーは陰徳の美だ」というかたがたくさんいます。しかしながら広報活動をきちんとしていかないと一般の方は「ロータリーはただの金持ちが集まっているものを食べている」などの印象である。それには会員みんなが広報するということに理解をしていかないといけないのでは。
- ・ほかの地区では TV でロータリーの CM を流しているところもあるようである。外向きの広報をしていくのであれば企画に対して少し多めの予算請求をできるようになるといいと思う。

◎セミナーのご案内

◎アドバイザー講評

杉木パストガバナー

長時間に亘り、皆様の意見交換等大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。感謝申し上げます。当地区のロータリアンの平均的な年齢は正確性には欠けませんが、60代の前半あるいは中頃かと推察いたします。まだまだIT派、アナログ派の混在が実態かと存じます。各クラブの持ち味、特徴を生かし、奉仕活動、クラブの存在を地域社会にも発信願いたいと存じます。

去る4月19日、当地区第5分区6クラブ合同によるロータリーデーが南総文化ホールで行われました。第一部ロータリークラブの公開例会、第二部オペレッタ「ベニスの一夜」についての特別講演、第三部クラシックの音楽コンサート、その他抽選会等、盛り沢山の催事でロータリアンだけでなく、広く多数の方々に参加されました。この様な催しは大変なことですが、地域社会にロータリーの活動を理解していただく為にも大変意義あるものと存じました。

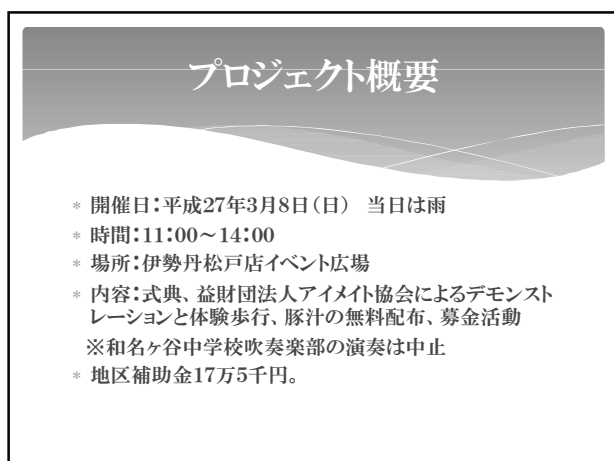
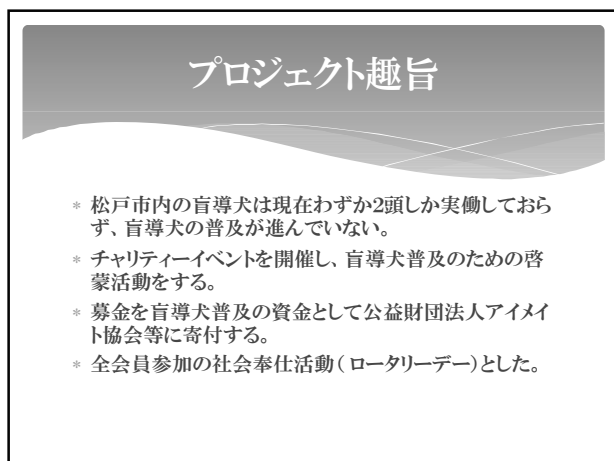
大谷委員長はじめ高橋副委員長、宮本委員いろいろな広報活動のアドバイスが出来る体制が整って居る様ですので、ご相談を地区委員会までどうぞお願い致します。

講評とのごことでございましたが、私なりの本日の感想を述べさせていただきました。ご参加の皆々様の益々のご活躍を期待し、ご挨拶と致します。

委員長 大谷京子 (千葉北 RC)
副委員長 高橋竜一 (松戸東 RC)
委員 宮本和夫 (千葉幕張 RC)
アドバイザー PG 杉木 禎夫

活動報告の参考例

松戸東 RC ロータリーデー「盲導犬普及支援プロジェクトの広報について」



募金活動



イベント当日

- * ロータリーデーの旗20本。
- * 松戸東ロータリークラブの旗4本。
- * 全員ロータリーロゴの入ったジャンパーを着て活動した。
- * イベント中は常にマイクで豚汁提供と募金への協力をクラブ名とともにアピール。
- * 募金箱にもロータリークラブ名とロゴ。

イベントの協賛・後援

- * 後援：
 - * 松戸市（後援の依頼申請をして許可をもらう）
 - * 公益財団法人アイメイト協会（東京都練馬区）
 - * 盲導犬を普及させる会（松戸）
 - * 伊勢丹松戸店
 - * 協賛：
 - * 松戸市医師会
- 協賛金5万円⇒全額寄付金とする
※趣意書を作成し、それぞれの団体に交渉

イベント終了後

- * ケーブルテレビJ:COMさんがイベントの様子をデイリーニュースで放映。体験歩行者へのインタビューなどもありました。
- * 地区ホームページへの掲載依頼。
- * 「ロータリーの友」へ掲載依頼。
- * 後援・協賛していただいた各団体へ報告。

イベントの告知

- * 広報まつど（松戸市の広報誌）
- * 記者クラブ（松戸市役所内）新聞11社
- * 協賛団体などに改めて開催のお知らせ
- * ケーブルテレビJ:COMさんにお知らせし、取材のお願い
- * 視聴覚障害者協会に開催を通知
- * ガバナー事務所に開催のお知らせ

終わり

フェロシップ部会



■フェロシップ部会

リーダー

アドバイザー

次期・フェロシップ委員長

パストガバナー

増谷 信一

大矢 惣一郎

テーマ 『クラブを超えて会員の輪』

【委員長挨拶並びに次年度活動方針・活動計画】

部会別協議会「フェロシップ委員会」に、地区内84クラブより担当者の皆様。

ご出席をして頂き、ありがとうございます。

2015-16年度 フェロシップ委員長をおおせつかりました、柏西ロータリークラブの増谷信一と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

改めて、今日のフェロシップ委員会に、アドバイザーとして大矢惣一郎パストガバナーをお迎えしまして、総勢5名で「フェロシップ部会」を運営させていただきます。

今日のこの部会は、始めに私から、フェロシップ委員会の活動方針・活動計画の話をして頂き、1部として、事例発表〔すでに倶楽部や愛好会として活動をしている事例発表を2例、又これから立ち上げ様としている事例発表を2例〕。

そして、皆様に各ロータリークラブの現状のアンケートを記入して頂き、休憩を挟んで、2部の質疑応答とさせていただきます。

ご出席の皆様のご協力宜しくお願い致します。

それでは、早速2015-16年度の「フェロシップ委員会」の活動方針並びに活動報告をさせていただきます。

まず最初に、フェロシップについてお話をさせていただきます。

国際ロータリーには、親睦活動（ロータリーフェロシップ）委員会という、同じ趣味を通して親睦を図る交流活動があります。

これは、相互信頼のもとでの友情は地区内を活性化させる大きな要素になるものと、提唱されています。

このフェロシップ委員会は、私達第2790地区の組織においては、昨年度は国際奉仕部門に属し、本年度は管理運営委員会に属しておりました。

そして次期、2015-16年度は会員増強・退会防止委員会、広報公共イメージ委員会、そしてフェロシップ委員会の3委員会はガバナー直轄の委員会としての位置付けとなりました。

次期フェロシップ委員会では、「クラブを超えて会員の輪」をテーマに、五大目標をたてて一年間活動をして行きたいと考えております。

- ①親睦の真の意味を仲間意識を醸成することに置く。
◎ロータリーアン同志が、親睦を通して信頼や友情を更に深めて頂きたいという思いがございます。
- ②その手段としてひとつのテーマを中心にしてクラ

ブ横断的に集い、語り合うグループをたくさん作る。
◎地区内84クラブで、その各クラブ・クラブが
趣味や特技等を生かした同好会・愛好会が有る
と思います。

すでに、ゴルフや野球等はクラブを超えて、
ゴルフにおいては毎年行われております、「地区
大会記念ゴルフ大会」がございませう。

野球においても、本年度のフェローシップ委
員会では、4月23日にQVCマリンフィールド
で「地区大会記念野球大会」を開催致しました。

次期フェローシップ委員会では、更に多くの
会員同士が語り合い友好を深める場の提供を考
えております。その一例を上げますと。

【スポーツ分野】では、ゴルフ・野球以外にも、
テニス・ボーリング・卓球・剣道や柔道等も有
ると思います。

【趣味の分野】では、旅行・釣り・写真・音楽・
俳句・川柳・刀剣・囲碁・将棋・麻雀・そして
私の趣味でもございませう、オートバイや車等も
有ります。

【その他の分野】として、櫻木ガバナーエレク
トからは、ロータリーの歴史や理念・うんちく
等も語れる集まりもとの要望もございませう。
※地区ロータリー理念研究委員会と重複してお
りませう。

更には、千葉県や房総の歴史、たとえば「千葉
常胤（ちば つねたね）と言う、平安時代末期
から鎌倉時代前期の武将の語る会等、も入れて
下さいと言われております。

※ではここで、本日ご出席の皆様に参加としてい
くつかの趣味等を聞きますので、手を挙げて頂
ければと思います。

- ゴルフをやられる方。
 - クラブで野球チームを持っているロータリー
クラブの方。
 - テニスをさせる方。
- 次に、私と同じ趣味から聞きたいと思ひます。
- オートバイを乗られている方。（ハーレー・
BMW・二輪車や三輪車等）
 - 車（スポーツカー・クラシックカー・キャン
ピングカー）タイヤ4本OK
 - 釣り（海釣り・溪流釣り・ヘラブナ・ブラッ

クバス・何でも）夜釣りはダメ

- 旅行・映画鑑賞・写真。
- 室内（俳句・川柳・麻雀・囲碁・将棋・読書）
ありがとうございませう。是非参考にさせて
頂ひます。

③退会防止手段ともなり得る。

◎この様に、クラブを超えて親睦や交流が出来れ
ばロータリアンとして横の繋がりが出来る事によ
り、永くロータリー活動が続けられるのでは
ないでしょうか。

④ロータリアン以外の参加者を求めることで会員増
強の手段ともなり得る。

◎それぞれ皆さんは、ロータリー以外の個々の
サークルや団体・組織に、お入りになつて
いると思ひます。そこでの友人や知人の方を、誘
う事により会員増強につながると思ひます。

⑤その他の事業。

◎次期フェローシップ委員会は、10月5日にレ
イクウッド総成カントリークラブで「地区大会
記念ゴルフ大会」が開催されませう。
この大会に、フェローシップ委員会としてご協
力をさせて頂ひます。

以上が、フェローシップ委員会からの活動方針です。

次に、活動内容を報告させて頂ひます。

- 9月の上旬に地区内84クラブに対しまして、今
日のアンケートより更に詳細な内容のアンケート
を取らせて頂ひます。
- 9月下旬に回収をさせて頂ひます。
- 10月5日（月）「地区大会記念ゴルフ大会」レ
イクウッド総成カントリークラブ
委員会としてお手伝ひ。
- 11月の中旬に大きな会場を借りまして、そのア
ンケートの集計によりクラブ・分区を超えて、地
区内共通のクラブ同志や個人個人の共通の趣味等
の集合体を考えております。
もちろん、小さいサークルから大きなサークル迄、
いくつものグループが出来様に配慮をしたいと思
ひます。
※仲間同志の情報交換・今後の予定等
- 2016年2月6日（土）～7日（日）「地区大会」
アパホテル&リゾート東京ベイ幕張

※ここで、参考までに日本国内に支部のある趣味の会をお知らせ致します。

【スポーツ部門】

- ゴルフ：支部（東京新南RC）東京都
- 全日本RC野球：支部（びわ湖八幡RC）滋賀県近江八幡市
- スキー：支部（札幌RC）札幌市
- ジョギング：支部（広島西RC）広島市
- ヨット：支部（第2680地区ガバナー事務所）神戸市

【趣味部門】

- 飛行：支部（御坊RC）和歌山県御坊市
- 全日本RC合唱：支部（京都西北RC）京都市
- アマチュア無線：支部（東京新南RC）東京都
- バードウォッチング：支部（横浜港南台RC）横浜市
- ロータリーの歴史と伝統の会：支部（札幌南RC）札幌市
- ◎釣り：支部（千葉に支部を置くよう努力中）

以上、日本全国で展開している趣味の会でした。

本日もご出席の皆様の中で、参加してみたいとか興味が有りましたら是非フェロシップ委員会まで、ご連絡を下さい。

以上で、フェロシップ委員会からの活動方針並びに活動計画でした。

ありがとうございました。

【フェロシップ事例発表】

実行事例① 古谷尊生（野田RC）俳句クラブ

1、俳句を始めるきっかけ。

2012-13年度、野田ロータリークラブ会長を務めた際、毎例会の会長挨拶が結構大変だったので、突然浮かんだ俳句をその中で披露をしたのが始まりでした。

たまたま家に松尾芭蕉の「荒海や 佐渡に横たう 天の川」という直筆の掛軸があるので、それもきっかけになったかもしれません。

2、俳句とは。

五・七・五の十七音から成る日本語の定型詩であり、日本の詩歌の伝統を引き継いで成立した俳句は、五・七・五の拍（モーラ）による言葉の調べ（韻律）と「季語」と「切れ」によって短い詩でありながら心の中の情景（心象）を大きく広げる特徴を持っている。

3、句会とは。

句会は複数の方が自作の俳句を出し合い、評価・批評し合う為に行われる集まり。

現在では互選句会を指す事が多いが、特定の指導者が選や講評を行う場合もある。

野田ロータリー俳句同好会は、当クラブ内に佐野浩平会員と高梨昇一郎会員という「ロータリーの友」の俳句の達人でロータリー俳壇の常連入選者二人もいたので、たまたま会長挨拶で下手な俳句を披露していた事がきっかけとなってスタートしました。

現在10名程度が参加しています。

実行事例② 宮川忠士（千葉西RC）野球クラブ

皆さんこんにちは。千葉西ロータリークラブの宮川忠士と申します。このような席にて事例を発表するという事で、大変恐縮しております。私共のクラブの野球同好会について、皆様の参考になればと思い幾つかお話をさせていただきます。今日のテーマを増谷委員長から頂いておりますので、それに添って話をさせていただきます。

1. 千葉西ロータリークラブの野球クラブについて

千葉西RCの野球同好会メンバー中、高校または大学生活を通じての野球経験者は8名、野球未経験者が10名です。現在は4月から10月にかけて国際ロータリー第2790地区野球リーグにて8チームが

リーグ戦を行っており、これに参戦しています。試合は天候に左右されますが主に月1試合、筋肉痛が癒えて丁度ムズムズしてくる頃に又、楽しく試合が出来るローテーションが組まれております。

2. 野球クラブ発足までの経緯

私が平成3年に入会させていただきました時には既に野球同好会があり、古くは甲子園、神宮球場等にて開催された全国ロータリークラブ野球大会へ出場し、見事に勝利したと先輩達が楽しそうに話しているのをよく聞きました。クラブの創立が昭和51年でその頃の創部と聞いております。

現在の地区野球リーグは1983年(昭和58年)に松戸東クラブが優勝という記録がありますが、当クラブは正式に参加していたのかは定かではありませんでした。入会后間もなくユニフォーム代70,000円を例会時に監督さんから請求されました(7月末頃)その後何度か練習試合のような練習をした記憶があります。翌年から正式に地区野球リーグに参加して現在に至っております。

3. 練習時間、場所について

正式に私が野球部に入部してからは、学校や千葉市のグラウンドなどで年に2回位、特に未経験者にキャッチボールやノック等、2時間位の練習を致しました。成果は段々と出てくるものです。(センスもありますが…)

4. 野球クラブを通じて感じた良かった点や問題点

良かった点は、クラブ内の結束が出来たことです。クラブの行事があるから出とくれと頼んでみると2つ返事で10人以上の野球部員がすぐに集まります。当クラブでは毎年度の会長・幹事・各委員長から協力要請が来れば、喜んで協力する体制が生まれつつあります。

問題点としては、野球部員が理事や委員長を歴任すると他メンバーとの間に何かギクシャクした物を感じるがあります。

5. 運営費等について

活動費は、部費を各部員から年に1~2回集金します。その他にはクラブから同好会助成金があり、会長・幹事・後援会会員からの寄付等で賄います。用途は地区野球リーグの参加負担金、試合時の飲物、弁当、審判代、納会費用負担、時には懇親会を行いその費用の1部助成です。又、全国ロータリー甲子園大会と言う甲子園で野球が出来る大会があり、参

加費用が高い(50万円程)ので行く時は後援会等にお願いをして参加費用を捻出し、交通費宿泊代等は積み立てを行っております。個人費用だけでも10万円程掛かりますので、行きたい希望はあるものの懐具合がなかなか大変なのが現状です。

6. その他(地区リーグの現状及び参加要請)

地区野球リーグは現在浦安・松戸西・市川シビック・千葉幕張・千葉若潮・千葉西・成田コスモポリタン・茂原各RCの8チームが参加しております。今までに松戸東・富里・市川南・八千代中央・千葉東・千葉北・千葉緑・佐倉等のクラブが参加されておりましたが、クラブ事情によりやむなく休部となっております。今後の復活を願っております。

又これを機に今後地区リーグに参加したいがどうしたら参加できるか、チームをどのように作ったら良いか地区リーグの現状はどのような形体で試合日程等を組まれているのかについては次に簡単に説明致しますので参考にさせていただきます是非クラブにてご検討の上参加するチームが増えることを強く望みます。尚現地区リーグ事務局は浦安RC太田真理子事務局員です。

現在の地区野球リーグには、野球をやりたい皆さんに大変都合の良いルールがあります。

- イ. チーム編制は自クラブだけではなく他クラブメンバーやロータリアンOBでも良い。
- ロ. 試合は開幕時に年間スケジュール(時間、球場)が決定。(試合は土曜日午後)
- ハ. 試合当日に人数が7人まで集まるが9人いない時はリーグ加盟の選手の助っ人がOK
- ニ. EDH(特別指名打者)制度で打者のみ3名まで出場可。9人守備、3人EDH計12名出場出来る。(来た人には出場機会がある)

以上、私の与えられた事例で御座いますがこれで終わらせていただきます。御静聴を感謝致します。有難うございます。

発足事例 ① 馬場 弘(柏西RC) 釣り同好会

- 〔同好会名〕 柏西ロータリークラブ 釣り同好会
- 〔発起人〕 中嶋利生会員(釣り具販売)・水留茂之(船舶免許取得者)・馬場 弘
- 〔目的〕 釣りを通して、会員相互の友好を深めクラブ内の親睦を深める目的。
更には、退会防止や会員増強に努める目的。

- 〔会 員〕 当クラブ内の釣りに興味のある会員・魚に興味のある会員とその家族。及び、会員の友人や知人。
- 〔釣り開催日〕 上期・下期の年2回。炬辺会議等で、日程・場所等を決定する。
- 〔会 費〕 必要に応じて負担金が発生する場合は各自で負担をする。
- 〔道 具〕 釣り道具は、当会員のご配慮のもと、レンタルも可能との事です。

◎発足までの経緯

会員同士の交流で意気投合し一度釣りをやってみようと言う事で、今回私達3名が発起人となり打合せ例会終了後に、ミーティングを重ね発足に至る。

予定は、平成27年6月17日に決まり、場所は東京湾キス釣り、後は釣れた魚を皆でどう捌くか検討議論が飛び交いました。

しかし、この難題も簡単にクリアできました。

当会員に、居酒屋を経営されている会員がいました。そこに持ち寄り料理をして頂く事で了解を得ました。

以上、このような経緯で釣り同好会の発足を無事に成功させてみたいと考えています。

発足事例② 増谷信一（フェローシップ委員長） 二輪同好会

- 〔発起人〕 増谷 信一（柏西RC）
2015-16年度フェローシップ委員長
北原 俊彦（千葉南RC）
2015-16年度会員増強・退会防止委員長
並木 鷹男（千葉RC）
2015-16年度地区計画委員会副委員長
- 〔目 的〕 二輪車を通して会員相互の友好を深め、クラブ分区を超えての仲間づくりをし、更には退会防止や会員増強に努めます。
- 〔会 員〕 第2790地区内84クラブの会員並びにその会員の友人や知人。

※オートバイは、車種・三輪・サイドカー等特定を致しません。但し、高速道路を使用する時が有る為、250CC以上とする。

〔ツーリング〕 前期・後期の年2回、ミーティングにより場所・時間等を決め、ツーリングを開催します。

※但し、ツーリング時の事故等は自己責任と致します。

- 〔ミーティング〕 必要に応じて開催。
※ミーティング場所は、話し合いにより決定します。
〔年会費〕 ナシとします。
※ツーリング時の、参加者により当日負担。〔昼食等〕 但し、高速代やガソリン代等は自己負担。

〔発足までの経緯及び年間予定（案）〕

- 平成27年 6月 ・発起人会開催〔約束事並びに年間予定決め〕
- 8月～9月 ・ツーリング下見〔集合場所・昼食場所等〕
- 11月頃 ・第1回二輪走友会 ツーリング日〔雨天変更有り〕
- 平成28年 2月～3月・ツーリング下見〔集合場所・昼食場所等〕
- 5月～6月 ・第2回二輪走友会 ツーリング日〔雨天変更有り〕

【アンケート調査】

1. あなたのクラブでは、ロータリー以外の参加者を求めることで会員増強の手段ともなりえるための具体的活動を行なっていますか。
2. あなたのクラブの特色（強み）はなんですか？
3. あなたのクラブの弱みは何ですか？
4. クラブに於ける趣味別親睦（サークル活動）グループを教えてください。
5. クラブ内に例会以外の親睦活動として、趣味の集まりスポーツ・旅行等特別の企画も必要である。
6. 当地区内の趣味・スポーツのサークル活動（趣味の会）情報がほしい。
7. ご記入されている方は個人的に趣味や特技はありますか？

【質 疑 応 答】

- Q フェローシップ委員長 増谷信一
- ・なかなか質問が出ないので考えている間に、最初に私から質問をさせて頂きます。野球の事例発表をして下さいました、宮川さんにお聞きしたいと思います。
 - ・ロータリーで行っている野球チームは、硬式ボールですか軟式ボールですか？
 - ・野球で怪我をされた時の保険はどの様にされておりますか？

A 千葉西RC 宮川忠士会員

- ・ボールの種類は、軟式ボールを使っております。又、シューズもスパイクは禁止しております。
- ・怪我をした時の保険は、各クラブチームで入っております。

Q 成田空港南RC 渡辺隆文会員

- ・「クラブを超えて会員の輪」はとても良いと思います、7月から次年度が始まります。なるべく早く、会員交流・親睦の情報を頂きたい。
ゴルフの親睦はあるが、他のクラブとの交流もしてみたい。

A フェローシップ委員長 増谷信一

- ・愛好会や同好会などを通して、他クラブとの交流のきっかけとして頂きたい。
又、単年度で終わるのではなく継続していけばと思います。

Q 我孫子RC 木村隆一会員

- ・我孫子RCでは、親睦として観劇やゴルフ・旅行が有りますが、普段参加されない会員に参加させるにはどうしたらよいか？対応はどの様にされればよいか？
又、フェローシップ活動は何から始めますか？
- ・幅広い交流が出来そうな気がします、是非頑張ってください。

A フェローシップ委員長 増谷信一

- ・初めに、事例発表でもお話をしましたが、二輪車を対象にツーリング交流会を考えております。二輪のツーリングを成功させ、次に自動車のツーリング交流会も続けて出来ればと考えております。

Q 八日市場RC 大川勝美会員

- ・八日市場RCでは、家庭菜園をしているメンバーがおり、にがうりやミニトマトを作り、クラブ内でバーベキュー会の親睦をしております。

A 野田RC 瀧 和洋会員〔フェローシップ副委員長〕

- ・野田RCでも、オリエンテーションとして年に2回ほど、溪流釣りをしたり釣った後に獲物をみんなで食べる会をしています。
食べるのが目当てで参加者も20名ぐらいまで増えました。

Q 市原中央RC 井上賢司会員

- ・野球や釣りの説明が有りましたが、釣りも是非やってみたいと思っています。
素人でも出来る様に、ハードルを低くした情報提供を頂きたい。

A 野田RC 瀧 和洋会員〔フェローシップ副委員長〕

- ・釣りも色々な釣りが有りますが、釣りだけに執着せずに最初は、釣り場の近くでの山菜取りなどから入るのもよろしいと思います。

Q 茂原RC 向後研二会員

- ・茂原RCでは、海が近いので海の家を貸し切って、地引網で魚を取った後に宴会の親睦をしています。
余った魚（アジ・イワシ等）は、各メンバーの家庭へのお土産にしています。
- ・もし連絡を頂ければ、各ロータリークラブの親睦会として地引網の予約をしてあげますよ。
- 予算は6万円～7万円で貸切が出来ます。
- 次期は夏場です。海水パンツで出来ます。
- 朝は6時頃と8時頃の地引網になります。
- 釣りが出来なくても、家族会員交流が出来ますよ。
- ・アンケートの情報も、各クラブへ頂きたい。

A フェローシップ委員長 増谷信一

- ・もし親睦活動で、地引網を体験したいクラブがございましたら、茂原RCへご連絡をしてみてください。
- ・次年度が始まりましたら、各クラブに対しまして、クラブ内での親睦チームや個々の趣味や特技等を含めた詳細なアンケート調査を行いたいと考えております。
今日のアンケートも含めまして、集計ができしだい各ロータリークラブへ情報としてお知らせ致します。

【総 評】

フェローシップ委員会

アドバイザー 大矢惣一郎パストガバナー

みなさん、こんにちは。今日のご苦勞様です。

ポールハリスは、友愛を發足し親睦は大事な活動です。各クラブ、クラブで色々と親睦活動はされていると思いますが、大勢の会員が参加出来る活動を目指して頂きたい。又家族も参加できる様な親睦活動が理想です。

私は、刀が好きで文化庁から県の刀劍の審査委員をやっています、そこへ櫻木さんが刀劍の審査にやって来まして、それが縁で今日のフェローシップのアドバイザーになったと思います。

親睦は人間関係を強くし、そこからロータリークラブが成り立っている。

色々な形でいろんな方が結び付き、自分の趣味だけには終わらず、多くの人間関係を作りあげるのが目的です。

そして趣味を親睦に結び付け、そして拡大に結びつけます。

私達が一人で頑張ってもしょうがない、クラブを通して是非親睦活動につなげてほしい。

本日は、ご苦勞様でした。

フェローシップ委員会

委員長	増谷 信一	(柏西 R C)
副委員長	瀧 和洋	(野田 R C)
委員	金本 元章	(柏西 R C)
委員	大川 勝美	(八日市場 R C)
アドバイザー	大矢惣一郎	(P G)

奉仕プロジェクト部会



■ 奉仕プロジェクト部会

リーダー	次期・奉仕プロジェクト委員長	嘉規 洋
サブリーダー	次期・職業奉仕委員長	川原 勝壽
サブリーダー	次期・社会奉仕委員長	山下 清俊
サブリーダー	次期・国際奉仕委員長	石井 弘
アドバイザー	パストガバナー	土屋 亮平
アドバイザー	パストガバナー	森島 庸吉
アドバイザー	パストガバナー	崎山 征雄

2015-2016 奉仕プロジェクト委員会

統括委員長 嘉規 洋 (船橋西 RC)

活動方針

ロータリアンの団体奉仕は個人奉仕の上に成り立つという発想から、奉仕プロジェクト委員会は社会奉仕委員会・国際奉仕委員会に加え、今年度は職業奉仕委員会が加わりました。職業奉仕の理念を噛み砕き個人奉仕に繋げてもらいたいという想いから3委員会連携して活動することになりました。

奉仕活動は大切なロータリー活動の一部です。当地区にはロータリーの「6つの重点分野」に沿った国際的な分野から身近な地域に対する分野まで様々な奉仕活動が行われています。奉仕プロジェクトを実施することは会員の参加を促し、プロジェクトの成功は達成感や結束が生まれ、さらに魅力的なクラブへ変化を遂げるでしょう。しかしながら中には奉仕プロジェクトを全く実施していないクラブがあります。それは奉仕の機会を会員に提供出来ていないことにもなります。地区内のクラブが魅力的になるように私たちは会員やクラブが実施する奉仕プロジェクトの立案をサポートして参ります。

活動計画

- ・ 奉仕プロジェクトセミナーを10月に実施する
- ・ ロータリー財団地区補助金やグローバル補助金の内容を周知し、利用を促す。
- ・ 卓話を年間通して実施する。
- ・ 各クラブの社会奉仕・国際奉仕の計画と実施した結果を把握する。
- ・ 地区HPやSNSサイトを利用して奉仕プロジェクト委員会の活動状況や地区内クラブの社会奉仕・国際奉仕活動状況を発信することで地区とクラブの距離を縮める。
- ※ Facebook : Ri2790 地区 2015-16 奉仕プロジェクト委員会 (「2790」で検索して頂くと候補に出きます)
- ・ 国際大会 (ソウル) への参加推進を行う。
- ・ V T Tを周知する。
- ・ 地区大会で奉仕プロジェクト委員会活動を広報する。
- ・ 「ロータリー希望の風奨学金」のPRと寄付を募る。
- ・ 他の地区委員会と連携し活動の相乗効果を図る。

職業奉仕委員会

職業奉仕の精神は、ロータリー活動の屋台骨に変わりはない
段取り八分、次年度の準備に向けて！

- (1) 巷間、国際ロータリーは、職業奉仕をないがしろにしているというが……？
まことしやかな、噂話に過ぎない。
そうでないことは、「ロータリアンの行動指針」に明らかである。

ロータリアンの行動規範

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

1. 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
2. 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する
3. 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
4. ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。
5. 事業や職業における特典を、ほかのロータリアンに求めない。(2014年10月理事会で削除)

2011-12年度のRI理事会で、《ロータリアンの職業宣言》に代えて、8箇条からなる Rotary Club of Conduct(ロータリーの行動規範)が採択された。

その後、2013年5月に改定がなされ、5箇条からなる『ロータリアンの行動規範』が各地区に伝達された。特筆すべきは、第1項で、「職業」より範囲の広い「事業」という表現を使って改定されている点である。

更に、2014年10月の理事会において、第5項が削除されている。四つのテストに鑑みれば当然の措置である。

第1項と第2項が、職業人としての行動のありようを説いている。

それを受けて、職業人としてその精神を実践する中で、次代を担う若人への支援、更には、地域社会や世界への貢献をしていこう、というのが第3項である。

国際ロータリーは、職業奉仕をないがしろにしているどころか、優先的に職業奉仕を謳い、他の奉仕活動につなげることを示唆していると読むべきであろう。

後述する(3)で、『職業奉仕は、社会奉仕・国際奉仕と折り合いはつくのか?』で詳細に論じたいが、奉仕活動に思いが向くのは、職業(事業)がうまくいっているから出来ることである。

今年度は、思い切り泥臭く職業のあり方、職業奉仕のあり方を追究し、奉仕の種を探していきたい。自らが幸せでなくして、人の幸せ作りのお手伝いをする事は叶わないであろう。先ず足下から！

- (2) 「一歩でも前へ進もう！」

(地区職業奉仕委員会の立ち位置・考)

ロータリーに正解はない。

10人いれば10人の、100人いれば100人のロータリー観がある。

それを、どちらが正しいのかと議論しても、詮無いことである。

問答するならば、「昨日の自分」と「今日の自分」とであるがよい。堂々巡りをするならば、己が成長していない兆しととらえたい。

他人の意見に、謙虚に耳を傾け、自分のころの肥やしにするくらいの度量が欲しい。今ほど、自分磨きを疎んじる世相はないように思う。

ほんの少し前まで、人や社会に希望があったように、ロータリアンには、人格陶冶に意を配るロータリアンとしての矜持が、それぞれにあったような気がする。

かつて、賢人は、この矜持を『ノーブレスオブリージュ』と表現された。

これは、「高い地位にある者は、高い徳を備え、重い責務を果たす必要がある」という考え方をいい、「選ばれし者の責務」ともいわれる。

ここ数年、一人ひとりがロータリー観を磨き上げて欲しいという希望を抱いて、元気づけるための言動を心がけてきた。

なんとなく元気のないロータリアンに元気を取り戻して欲しい、その一念での愚挙であった。

京都南禅寺の近くに、琵琶湖疎水を引き込んだ東山別荘群がある。その庭の多くを手がけたのが、植治こと植木屋治兵衛、7代目小川治兵衛である。

彼は、弟子達に言い続けた。

「人格を磨け、人格以上の庭は出来ないのだから」

と。

学生時代、ネラン塾で議論しあった畏友・鈴木博之氏の『庭師小川治兵衛とその時代』(2013年上梓・

東京大学出版会)に詳しい。残念ながら、彼は、昨年 68 才で鬼籍に入る。

人格陶冶の手段として、ぜひ RLI (ロータリー・リーダーシップ研究会)にご参加を!

(3) 職業奉仕は、社会奉仕・国際奉仕と 折り合いはつくのか?

次年度の職業奉仕委員会は、地区リーダーシッププラン (DLP) に則り「奉仕プロジェクト委員会」の一角を担うことになった。

職業奉仕をロータリーの金看板と仰いできた方々は、面食らうかも知れない。職業奉仕委員会を設けない地区も出てきている昨今、私達職業人にとって、「職業奉仕とは何か」を真摯に考えてみる時期にさしかかっている。時すでに遅いのかも知れないが。

『道徳を忘れた経済は、罪悪である。経済を忘れた道徳は、寝言である。』江戸時代の二宮尊徳の言である。近年、似たフレーズを使った人がいる。『理念なき行動は、凶器であり、行動なき理念は、無価値である。』(本田宗一郎)、と。

現代社会では、職業人による経済犯罪がなんと多いことか。営々と日本の社会で培われてきた商人道も廃れたものである。こう考えたとき、閃いた。商人道を追究することで、分かりやすい職業奉仕のヒントが見つかるのではないかと。

商人精神の思想形成の嚆矢は、禅僧・鈴木正三(しょうさん)(1577-1655)であろうか。彼は、40 代半ばまで二代將軍秀忠の親衛隊の武士であった。彼は、金儲けは卑しいとされていた時代に、職業に貴賤はないと説き、士農工商の区分は身分の序列ではなく、社会貢献範囲の分類に過ぎないと喝破した。

その思想をうけて、日本永代蔵の井原西鶴(1642-1693)や、石門心学の石田梅岩(1685-1744)が、更には、二宮尊徳(1787-1856)が、さらには商人道を企業家精神に高めた福沢諭吉や渋沢栄一が、商業道徳のありようを説いている。

ここで忘れてならないのは、江戸時代の近江商人の「三方よし」(売り手よし、買い手よし、世間よし)の行動様式である。

近江国神崎郡石場寺の麻布商中村治兵衛の 1754 年の書き置きが残されている。訳すと、『たとえ他国へ行商に出かけても、自分の持ち下った衣装等を

その国のすべての顧客が気持ちよく着用できる様に心がけ、自分のことよりも先ずお客のことを思って計らい、一挙に高利を望まず、何事も天道の恵み次第であると謙虚に身を処し、ひたすら持ち下り先の地方の人々のことを大切に思って商売をしなければならない。』

天秤棒精神は、ただ汗水垂らして気張るだけではなく、社会の一員としての自覚を忘れず働くことが説かれている。まさに社会奉仕の精神である。

消費者への誠実、地域や世界への心配りが、職業奉仕の根幹にあるような気がする。職業奉仕は、商売をしっかりと繁盛させることが前提で、同時に周囲への心配りも忘れないことである。ご自身の心が豊かでなければ、人に善行は施せない。

表題に掲げた社会奉仕委員会と国際奉仕委員会と「いかに折り合いをつけるのか」という周囲の不安が杞憂に終わるように、皆さんとともに知恵を絞っていききたい。

理念中心に考えられてきた職業奉仕を、地に足の着いた実のあるものにするために!

※この項は、PETS(会長エレクトロ研修セミナー)用の原稿として書いたものである。クラブ会長と情報の共有を希望しての掲載である。

(4) 職業奉仕の実践は「4つのテスト」

(The Four-Way Test)の実践に他ならない。

どの場面でも 4 つのテストを確実に実践しようとするのは難しい。

公平に振る舞おうとしても、私情が入るとどうしてもぶれてくる。「嘘も方便」が必要な場面で、真実を伝えるべきかどうか、本当に悩ましい。

死期の迫った人に、もう持たないよって云うことが、本当に親切かどうか。分かっているけど好き嫌いが、適切な判断を狂わせてしまう事態は、日常茶飯事である。

大人の知恵と誤魔化してしまうことのなんと多いことか。

でも可能な限り、Of the things we think, say or do を心がけるべきであろう。

職業奉仕は難しくない。実践するのが、難しいだけである。

かつて、佐藤千壽さんは、国際ロータリー第

2790 地区・ロータリー生誕 100 周年記念祝賀会の記念講演で、『職業奉仕は、…(略)… 如何に生きるか、という生き方です。』と、喝破された。

けだし名言である。

(5) 今、ロータリーに求められるのは

会話と対話である。

「例会は人生道場」といわれていたのに、例会場で会話が弾まない。価値観の摺り合わせをしながら行う対話は、例会で殆ど見かけなくなった。

これでは、人生の先輩達に敬意を払い、教えを請おうとする若者を引きつけることは不可能である。会員減少に拍車がかかるだけである。

なんとかしなければと思えば、乍らも手をこまぬいていることは、茹で蛙が出来上がるのを待つに等しい。

なんとかしなければ、でも、今なら間に合う。

※職業奉仕委員会では、会話の切っ掛け作りのためにも卓話を積極的に受け付けたい。委員全員で、卓話の希望にあたりたいと考えている。

(文責：川原勝壽)

社会奉仕委員会

地区社会奉仕委員長 山下清俊(市川東RC)

活動方針

私たちロータリアンにとって一番身近で奉仕活動ができる機会、それはクラブの社会奉仕委員会で計画したプログラムを実行することではないでしょうか。そのお手伝いをさせていただきますのが、地区の社会奉仕委員会です。

本年度、地区社会奉仕委員会といたしましては、この各クラブの社会奉仕活動の計画～実行に対してどんなお手伝いができるのかを確かめながら、全力を挙げて取り組んで参ります。

これまでも、地区内各クラブ、国内更には世界まで目を広げてみますと、それぞれのクラブで多種多様な社会奉仕活動が行われていることがわかります。2014-15 年度の地区アンケート結果でも、回答をいただいた 74 クラブすべてで、何らかの社会奉仕活動がやられております。

その最終的な結果である「実行」に至るまでには、まず様々な動機やきっかけがあって、更に「どんな活動をしようか?」、「どこに話を持っていけばいいだろうか?」、「資金は?」、「人手は?」などいろいろな課題を解決してこられたことと思います。ある

いはその検討の中で、残念ながら実行に至らなかったプロジェクトもあったのではないかと思います。

そこで、私たちはそのプロセスに焦点をあて、探っていくことで、皆様各クラブの社会奉仕活動の実践に少しでもお役に立てればと考えております。

特に資金については、ロータリー財団の地区補助金を有効活用することが、社会奉仕活動のレベルアップに繋がることが期待できますので、この面でのお手伝いをして参ります。

これについては、補助金申請のスケジュールとの関係もあり、単年度でとらえるのではなく、むしろ次年度の計画を意識した中で取り組んで参ります。

活動計画

- ・年度開始早々に実施される IM で少しお時間をいただき、各分区のクラブ会員の皆様に直接、今年度の活動についてお伝えする。
- ・奉仕プロジェクトセミナーに先立ち、各クラブに対してアンケートを実施する。
- ・奉仕プロジェクトセミナーでは、アンケートの結果から社会奉仕活動のプロセスに焦点をあてて、各クラブの実践(計画～実行)の参考となる報告と討議を行う。
- ・各クラブからの社会奉仕に関する卓話要請や相談に対して、随時対応する。
- ・他の地区委員会との連携を図る。
- ・「ロータリー希望の風奨学金」に対する寄付を募る。



2015-2016年度
国際ロータリー第2790地区研修・協議会
奉仕プロジェクト部会

社会奉仕委員会の取組について

社会奉仕委員会委員長 山下 清俊(市川東RC)

1



地区社会奉仕委員会の役割

地区内84クラブの社会奉仕活動の
実践(計画～実行～結果～ステップアップ)
の支援

2



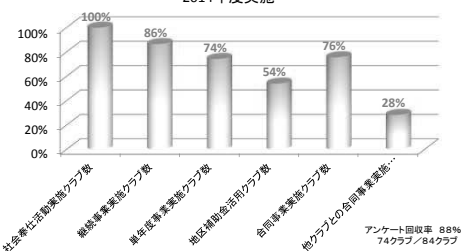
クラブの社会奉仕活動の課題

社会奉仕活動に関するアンケートより
(2014年度実施)

3



社会奉仕事業アンケート結果 2014年度実施



4



継続事業をやっているクラブは地区全
体の86%(ほとんどのクラブで実施)

<活動の振り返り>

- ・継続事業は地域の皆様のお役にたっているだろうか?
- ・皆様にロータリークラブを知っていただけているだろうか?
- ・会員は積極的に参加しているだろうか?
- ・単年度で新たな事業をスタートさせたい。
- ・内容をグレードアップした継続事業として次年度へ繋げたい。
等々

5



単年度の事業をやっているクラブも地
区全体の74%(3/4のクラブで実施)

<事業活動の振り返り>

- ・どんな「動機」や「きっかけ」があったか?
 - ・事業内容をどう思っていたか? また、その時期は?
 - ・資金、人手について、どう計画したか?
- #### <事業に至らなかった振り返り>
- ・残念ながら実行に至らなかったのはなぜか?

6



世界へのプレゼントになろう

地区補助金を活用したことがあるクラブは地区全体の54%（約半分のクラブ）半数近くのクラブがまだ利用したことがない。

他クラブとの合同事業を実施したことがあるクラブは28%と全体の約1/4

7



世界へのプレゼントになろう

継続事業

⇒ 事業のグレードアップを検討してみませんか？

⇒ 地区社会奉仕委員会として支援していきます

単年度事業

⇒ 地域に喜ばれる新たな社会奉仕プロジェクトを立ち上げてみませんか？

8



世界へのプレゼントになろう

地区補助金の活用

⇒ 2015-16年度は既に締切しました。2016-17年度に向けた活動開始へ。

⇒ 地区社会奉仕委員会として支援していきます

他クラブとの合同事業

⇒ 自クラブ単独では予算/人力的に難しい場合、検討の価値あり。

9



世界へのプレゼントになろう

社会奉仕活動の事例紹介

(1)「君たちの未来は輝いている」バスケットボール教室 船橋RC 栗林琢哉様

(2) 県立千葉盲学校の生徒・介助者を1泊2日で招待 勝浦RC 牧野利美様

10



世界へのプレゼントになろう

活動計画

- ① 年度開始早々に実施されるIMで各分区のクラブ会員の皆様に直接、今年度の活動(②~⑥)についてお伝えします。
- ② 各クラブに対してアンケート(社会奉仕活動のプロセス(計画~実行)に焦点をあてたアンケート)を実施し、奉仕プロジェクトセミナーで、アンケート結果から、各クラブにとってプロセスの実践の参考となる報告と討議を行います。
- ③ 特に地区補助金の活用は、次年度分に向けたPRをします。
- ④ 各クラブからの社会奉仕に関する卓話要請や相談に対して、随時対応します。
- ⑤ 他の地区委員会との連携を図ります。
- ⑥ 「ロータリー希望の風奨学金」に対する寄付を募ります。

11



世界へのプレゼントになろう

最後に

クラブの社会奉仕活動をよりグレードアップするために、地区補助金を上手に使いましょう。

それには、是非次年度の計画を早めに立てていくことをお勧めします。

12

地区補助金活用事例紹介

船橋ロータリークラブ 栗林琢哉

本日は ロータリー財団地区補助金 活用事例としてお話をさせていただきます。

当クラブでは地区補助金を利用した奉仕活動を毎年行うよう心がけ過去に数回補助金を利用させて頂いており、本日はそのうちのひとつをご紹介します。

当クラブには、千葉県に本拠地を置くプロバスケットボールチーム「千葉ジェッツ」のオーナーがご縁あって在籍しております。そのため当クラブの社会奉仕活動として、家庭環境の問題からやむなく避難している児童や母子ホームに住む児童など、養護施設の子供達（約100人）を対象に、バスケットボールの試合観戦の招待を毎年継続して行っております。

このプロジェクトで我々は、児童達と一緒に交流することで子供たちに愛情の補填と、チーム社会で生活することの重要性を子どもたちが認識することを念頭に参加しております。

目の前で子供たちの一生懸命応援する姿を見たり、一緒に応援したり、子供たちと多くのことを語り過ごします。開催後にはたくさんの児童から心のこもったお礼の手紙が届き、その中で「また連れて行ってください」とたいへん多くの嬉しい言葉を頂戴しています。

さて本題ですが、今回当クラブでは、このプロジェクトに関連して地区補助金の申請をさせて頂きました。

皆様もご存知の通り、クラブが毎年継続して行う活動に対しての地区補助金の申請は5年に1度の申請となっております。

5年に一度、我々ロータリアンの負担を軽くすることに補助金の申請を行うのではなく、補助金を利用してプラスαの何かが出来ないか？との観点から、試合観戦日に「プロバスケット選手の指導によるバスケット教室」を一緒に行うことを発案し申請に至ったわけでありませう。

養護施設の児童たちは身体に問題はありません。家庭環境の問題でありますので、普段は一般の子供たちと同じように学校の部活動で汗を流しスポーツをしている子供たちも多くいます。ですからプロの技術を直接学べる機会を作るといことは大変貴重な体験になり、またこの案は前回試合観戦を行ったときに我々の会員が、子供たちとコミュニケーション

ンをとっている中で直接聞いた生の声でもあります。

バスケット教室の補助金申請には、全員の試合観戦チケット代や我々ロータリアンの食事代などは含まず、バスケット教室の指導料、児童施設に対してバスケットゴールの寄贈代、児童へのプレゼント代（当日参加できなかった児童分も含む）、当日の子供たちの昼食代（計4つ）の合計金額から半額について補助金として申請させて頂き、結果、申請金額の満額が承認されました。

このプロジェクトを企画実施するうえで数々の問題点がありましたが、その中でも特に苦労した点をあげると次の2点となります。

1、試合前にプロ選手によるバスケット教室の開催。

こちらは主に千葉ジェッツ運営側との問題となります。

シーズン中の公式戦の試合会場で子供たちにバスケット教室を開催というのは、対戦相手チームの練習時間や会場セッティングの都合上、運営側も即座に回答は頂けませんでした。対戦相手チームへの打診も必要になることから、運営側スタッフと何度も打ち合わせを行い、最終的にはバスケット教室の開催時間を1時間とし、開催の日時を運営側に一任する形でまとまりました。

この形でまとめることが出来たのは、ロータリー財団地区補助金の申請が、実施期間を特定しなくても申請ができる点を利用したところからです。このため実施期間をシーズン期間中の7ヶ月間で申請し通っております。

2、補助金申請の締め切り期限の問題です。

皆様もこの問題には頭を悩ませているかと思えます。

来期のロータリー財団地区補助金の申請を当期の4月15日までに提出するという点です。お恥ずかしい話ですが、当クラブでは3月末頃になって、「補助金の申請が4月15日まで」と事務局から知らされ、それから急いで来期の社会奉仕委員長を決めておりました。正直2週間程度の日程で企画、見積の取得、補助金申請書の作成を仕上げるのはプロジェクトによっては難しい時があります。そのため補助金の申請が出来なかった年度もありまして、当クラブではこの経験から、補助金の申請は今期の社会奉仕委員で行うことにし、申請に携わった社会奉仕委員のひとりだけが、来期社会奉仕委員に加わるという2年任期制度

をとり、対応して解決いたしました。

以上のように2点の問題もクリアし実施に至ったわけでありませう。

まとめさせて頂くと、地域社会のニーズが高い子供たちの研究・学習に関するプログラムでも、我々ロータリアンがそれに深く関わっていけるプロジェクトであれば申請は通ります。そして補助金を活用できたおかげで、クラブが通年行っている活動にバスケット教室の開催が追加できました。この素晴らしい制度を是非活用し皆様の奉仕活動に役立てて頂ければと思います。

わかりづらい説明であったかとは存じますが、今お話をさせて頂いた内容で地区補助金を活用させて頂きました。皆様のご参考になれば幸いです。ご清聴ありがとうございました。

千葉県立千葉盲学校生（児童・生徒）保護者
「ロータリーデー招待」

勝浦ロータリークラブ

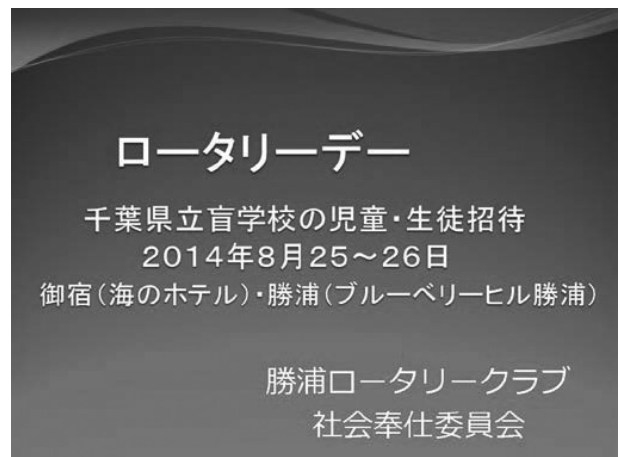
私たち勝浦ロータリークラブは、館山・鴨川、両ロータリークラブのスポンサーにより1963年に誕生いたしました。当クラブはクリーン運動など、地元地域の方々と社会奉仕活動に取り組んでまいりました。近年ではプロ野球選手（今年は巨人軍の選手）を迎えて、市内や近隣地域の中学生を対象にした「野球教室」を開催するなど、この52年間、常に活動的な奉仕活動をしております。

今回は、今年度最初の事業として昨年の8月25・26日に勝浦ロータリークラブが独自で行った「ロータリーデー」についてご紹介いたします。

2012年と2013年に東日本大震災の支援活動として、福島県盲学校の生徒さん達を勝浦に招くというプロジェクトを行いました。そのときに大変喜んでもらった経験を生かして、今回、千葉県立千葉盲学校の生徒さん達を勝浦に招待し、地域の方々の協力もいただいて「ロータリーデー」を開催いたしました。

皆さんも御存じのロータリー財団・地区補助金の申請手続きを、平成26年4月15日メ切に合わせて行いました。

今回の「ロータリーデー」の実施にはこの地区補助金を活用させていただきました。



早朝、四街道市を出発したチャーターバスをホテルにて出迎えます。



始めは怖がっていた海も、地元国際武道大学の水泳部・ライフセービング部の皆さんの協力のおかげで、安心して指導を受けていました。慣れない人には身を預けることをしないそうですが、優しいお兄さん達にすっかり安心して教わっている様子が印象的でした。勝浦ロータリークラブのメンバーは燈台守で見守り役。



望月ガバナー補佐からの挨拶。



翌朝 8月26日 御宿町「海のホテル」をあとにして、勝浦市内山側にある観光施設「ブルーベリーヒル勝浦」に到着。



勝浦アンサンブル同好会による「音楽の夕べ」
舞台中央でアコーディオンを演奏している人は勝浦ロータリークラブ幹事 渡邊ヒロ子君。



初体験の乗馬にみんな喜んでいました。



生徒さん、ご家族の皆さんから歌のプレゼントがありました。
勝浦アンサンブル同好会も一緒になって突然のコラボレーションが実現しました。
素直できれいな歌声に胸がジーンと熱くなりました。



乗馬体験に付き添っている人は、ブルーベリーヒル勝浦の社長で勝浦ロータリークラブの会長エレクト漆原 慎子君です。漆原会員には「ブルーベリーヒル勝浦」の施設を提供してもらい、職業奉仕を兼ねて感謝です。

国際奉仕委員会 委員長挨拶
まず一步踏み出そう！世界へ



国際奉仕委員会 委員長 石井 弘 (松戸西 RC)

2015-2016 年度の各クラブ国際奉仕委員長の皆様に、地区国際奉仕委員会より活動方針のご報告とお願いをさせていただきます。

国際奉仕の「関連書物・通信を通じて他国の人々を救済する事を目的としたクラブの全ての活動やプロジェクトに協力する事で、他国の人々と文化や習慣・功績・願い・問題に対する認識を養い国際理解、国際親善、国際平和を推進する為に会員が行う全ての活動からなるものである。」という定義を主軸とし、奉仕プロジェクトとしての連携も図りながら、クラブ単位で行う国際規模等のマクロ的国際奉仕活動から、各地域のクラブ単位で行うミクロ的国際奉仕活動までを『国際奉仕プロジェクト』の立案と実施を地区委員会としてサポートさせていただきます。

地区国際奉仕委員会によるアンケートの結果により、約35%のクラブが具体的な国際奉仕活動を休止または停止の状態であり、その要因として①自クラブ内での国際奉仕活動の企画化が困難である。②所属会員数の減少化③会員数減少等による資金不足などが挙げられました。2015-2016 年度は、櫻木ガバナーの運営方針により国際奉仕活動ゼロのクラブに対して積極的に喚起し、マクロ・ミクロ的国際奉仕の実例や提案を提供させて頂きながら、地区内各クラブの国際奉仕委員会との交流を大切に活動して行きます。

例えば、要因③の活動の企画に資金的不安のあるクラブには、ロータリー財団の「グローバル補助金」と「地区補助金」のシステムを活用して頂き、取り敢えず一步を踏み出してみして下さい。大所帯のクラブ・所帯の小さなクラブなりの国際奉仕は必ずある筈ですから。どうぞ、お願いします。躊躇する前に地区国際奉仕委員会へご相談ください。必ず良い結果を出す事が出来ると思います。

国際奉仕はクラブ単位のみ可能な事ではなく、ロータリアン個人単位でも出来る事は沢山あります。ロータリー活動を離れての国際奉仕活動もあるでしょう。困窮した人々への救済の手を差し伸べる事は、ロータリアン以外の人々でも出来る事です。ロータリアンにしか出来ない事があるとするれば、人種・国籍・宗教・政治に煩わされる事なく平等に同じ価値観を共有出来る組織人として、偏見なく最真なく交流が出来ることではないでしょうか？

「まとめ」としまして

- ①クラブ会員が一丸となって社会奉仕活動に参加した事。
- ②地元、国際武道大学が、ころよくロータリークラブの活動に協力してくれた事。
- ③職業奉仕活動にも繋がることですが、今年度、社会奉仕委員長 吉田理愛さんがマネージャーとして勤務していた、御宿の「海のホテル」の皆さんの協力。
- ④会長エレクトの漆原摂子さんの会社で勝浦の「ブルーベリーヒル勝浦」の皆さんの協力。
- ⑤今年度、幹事の渡邊ヒロ子さんが所属している「勝浦アンサンブル同好会」の皆さんの協力。

「ロータリーデー」に携わった多くの人達の細やかな配慮と気遣いに助けられ、素晴らしい体験が出来た「ロータリーデー」になりました。この感動はまた次の奉仕活動に繋がると思います。会員だけでなく地域の方々、たくさんの方との心の交流を持ちながら感動できる活動を考え、今後も続けていきたいと考えております。

最後になりますが、勝浦ロータリークラブでは、今年度また、地区補助金申請の手続きを行いました。「野球教室をとおした地域野球中学生の健全育成プロジェクト」を企画しております。

地区補助金制度活用による事業展開を進めていくにあたり、ロータリー活動の単年度制の会員組織図を十分に検討され、継続事業への取り組みの為に組織作りを考慮されても良いかと思えます。

第 2790 地区のロータリアンの皆様に実感して頂く為に、世界大会への参加を地区国際奉仕委員会よりご提案させて頂きます。2015-2016 年度の世界大会は隣国の韓国(ソウル市)です。成田空港から約 2 時間と近くて参加しやすい大会です。

世界大会に参加された経験を持つ会員の方々から、世界大会に参加しなければ経験出来ない感動と、国際ロータリーの規模の大きさと存在意義を感じ取る事が出来たとお聞きします。世界大会韓国開催をチャンスとして、是非多くのロータリアンに参加して頂き、第 2790 地区全てのクラブに参加して頂ければ国際奉仕活動ゼロのクラブが解消されると思います。国際親善・親睦・奉仕の輪を広げる為に全クラブのロータリアンに、参加の呼びかけをさせて頂きます。

最後となりますが、世界大会への参加、全てのロータリー活動に参加出来るのはロータリアンに与えられた平等な権利であり義務であると考えます。多くの活動や行事に参加する事によって貴重な経験と感動を得られると共に、多くの事を学び取る事が出来ます。個々のロータリアンの人格向上にも繋がるとも思っています。

2015-2016 年度国際奉仕委員長の皆様、小さな事から結構でございます。国際奉仕プロジェクトの立案・実施をお願い申し上げます。

追記

グローバル補助金とは？

補助金額 3 万ドル以上 40 万ドル未満。国際ロータリーが定める 6 つの重点項目に該当するプロジェクトに支給される補助金で、3 年間継続して支給される。

国際ロータリーの受付期間は、特に定めず随時受け付ける。

地区補助金とは？

補助金額 30 万円未満。国際奉仕活動内であれば特にプロジェクト内容に規定は無い。単年度のみ支給。地区補助金への申請期間は、次年度事業分は 4 月 15 日が締切り

地区国際奉仕委員会は各クラブの国際奉仕活動が一步世界へ踏み出せるように支援します。

地区国際奉仕委員会活動計画

1. 国際奉仕活動ゼロクラブへの支援
2. 卓話 随時受付実施
3. 「地区補助金」「グローバル補助金」周知推進
4. IM での国際奉仕活動 PR
5. 奉仕プロジェクトセミナーへの参加
6. 国際大会への参加呼びかけ
7. 報告書の作成

- 国際奉仕活動へ一步踏み出すことに迷われているクラブの方へ
 - ・企画立案、実施へのヒントを提供させて頂きます。
 - ・卓話へクラブが望む講師を派遣します。
- 金銭的に問題があると考えているクラブの方へ
 - ・ロータリー財団の「地区補助金」「グローバル補助金」の活用をお勧めします。まず一度担当者をクラブへ呼びましょう。派遣のお手伝いをします。一步進む糸口を探しましょう。
- IM での PR 活動
 - ・7 月～8 月に各地区で行われます IM で奉仕プロジェクトチームの PR の時間を頂くことに成りました。国際奉仕委員会の活動を第 2790 地区全会員へ PR 出来る最大のチャンスだと考え次の事項を PR させて頂きます。
 - ・国際奉仕活動を一步踏み出して頂けるよう、その魅力を伝えます。
 - ・ロータリー財団の「地区補助金」「グローバル補助金」を利用してさらに活動を広げて頂けるよう呼びかけます。
 - ・国際大会(韓国ソウル)参加への PR 国際奉仕活動の第一歩として捉えて頂き大会の素晴らしさを会員に伝え第 2790 地区全クラブが参加して頂けるように全会員に呼びかけます。
 - ・国際奉仕に関する卓話、質問を随時受け付けます。
- 10 月奉仕プロジェクトセミナー開催(国際奉仕実施ロータリークラブ、実施準備中ロータリークラブに発表の場を提供します。)
 - ・国際奉仕活動を実施されたロータリークラブには「やってきたぞ」と大きな声でその内容を発表して頂きます。
 - ・実施準備も整い「これから出発するぞ」と言うクラブの方にも大きな声でその内容を発表して

頂きます。

- ・活動を躊躇されているクラブは、ぜひ、活動内容を参考にして頂き来年に向けて計画立案のきっかけにして頂きたいと思っております。(来年度、地区補助金、グローバル補助金の準備も合わせて呼びかけます。)
- ・国際大会のPR 国際活動の第一歩として参加を呼びかけます。

○28年5月世界大会「韓国ソウル」

第2790地区の全クラブで参加しましょう。
大会の素晴らしさを味わいましょう。

国際奉仕活動に関するお問い合わせ
は最終ページに記載されています。
気軽にどんどんお尋ねください。
卓話もどしどし申し込んでください。

国際奉仕活動 事例紹介

今回の事例紹介は、一人の米山奨学生を受け入れたことがきっかけとなり、二つのロータリークラブがスリランカへの国際奉仕活動実施へと発展しクラブに大きな感動と活力を与え今燃えているクラブの方にお願ひしました。本日ご参加頂きました皆様のこれからの活動の参考になれば幸いです。

スリランカ図書室設置プロジェクト実施報告

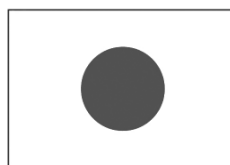
柏東ロータリークラブ 中村俊人様

スリランカ音楽プロジェクト実施報告

松戸西ロータリークラブ 山本 衛様 谷口義紀様

米山学友 サジーワニー様

元米山奨学生「千葉大学大学院卒業、文学博士」

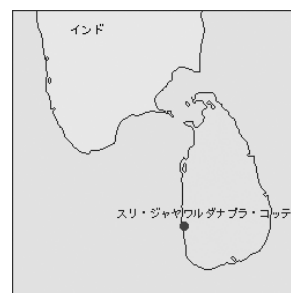


スリランカとは

スリランカ民主社会主義共和国(スリランカみんしゅしゃかいしゅぎきょうわこく)、通称スリランカは、南アジアのインド亜大陸の南東にポーク海峡を隔てて位置する共和制国家。首都はスリジャヤワルダナプラコッテ。

1948年2月4日、イギリスから自治領(英連邦王国)のセイロンとして独立。1972年にはスリランカ共和国に改称し、英連邦内の共和国となり、1978年から現在の国名となった。人口は約2027万(2012年)である。島国で、現在もこの国が占める主たる島をセイロン島と呼ぶ。国名をスリランカに改称したシリマヴォ・バンダラナイケは世界初の女性首相である。また、国民の7割が仏教徒(上座部仏教)である。1983年:シンハラ人とタミル人との大規模な民族対立が起こって、全土にわたって暴動が繰り返された。これ以後、2009年に至るまで長期にわたる事実上の内戦状態が継続した。

日本とスリランカの関係は、日本はコロンボに在スリランカ日本国大使館を置いている。また、スリランカは東京に在スリランカ大使館を置いている。日本とスリ



ランカは、スリランカがイギリスから正式に独立した1948年から4年後の1952年に正式な国交を樹立させた。また、国交樹立前の1951年に行われたサンフランシスコ講和会議にはセイロン代表としてジュニウス・リチャード・ジャヤワルダナ大統領が出席、「憎悪は憎悪によって止むことなく、愛によって止む(Hatred ceases not by hatred, but by love.)という仏陀の言葉を引用、対日賠償請求権の放棄を明ら

かにすると共に日本の国際社会復帰を求め、日本の国際社会復帰の道筋を作った。また、昭和天皇が英国領時代にスリランカを訪問した1921年から60年後の1981年には今上天皇（当時は皇太子）がスリランカを訪問している。

スリランカの貧困層の子供達へ

学習教材をおくる奉仕プロジェクト
「柏東ロータリークラブ文庫設置」 報告
2014 - 15年度 柏東ロータリークラブ
会長 中村俊人

年も明けてすぐ、昨年よりクラブにおいて準備してまいりました、「スリランカの貧困層の子供達へ贈る奉仕プロジェクト」の一環で ガンバハ地区へ訪問し、図書室設置をし、図書を貧困層の子供達のセンターとして努力されていますワルダナ寺院の僧侶アマラワンサ僧へお渡ししてくる事が出来ました。



この奉仕プロジェクト計画については昨年の8月10日に開催されました奉仕プロジェクトセミナーにおいて皆様に御報告させて頂きました。

昨年の1月に現地に訪問し、スリランカの子供達の様子をしっかりと把握したうえで、私たちロータリアンが今出来る事は何かを考えさせられました。その中で今年度に柏東ロータリークラブとして検討した結果、地区のロータリー財団のサポートを受けまた、クラブ会員の援助金や、特別寄付金を合わせまして 図書室設置をできました事を共に皆様に報告致します。この図書室設置するにあたり、スリランカの米山学友のサジーワニーさんご夫婦と地域の皆さまのサポートがあつての実現と考えています。この地域には図書室といった施設は無いと伺っています。

贈呈式当日の1月18日には、寺院の参道の門の前に、近隣の小学校の子供たちや地域の皆さんの歓迎と、古来の儀式的の舞により出迎えを受けました。とても大人数により境内はあふれんばかりでしたが、住職の先頭により境内へと迎えられ、まずは国旗の掲揚と国歌斉唱から歓迎式はスタート致しました。私達は、当日に行われました、スリランカ全土の優秀な子供たちで、貧困家庭の為に教育困難

な子供たちへの支援をされています、鈴木康夫氏が
行っていますコスモス奨学金授与式と共に 図書室
の贈呈式を行って頂きました。



この奉仕プロジェクトを実施したいと考えた思いは、私がお縁あって、地区の米山奨学委員会にて奨学生のサジーワニーさんと出会い、またその後に交流させて戴いた縁で始まり、千葉大にて勉強をしながら子育てと母国の貧困な子供達へ地への支援活動をされている事にも感銘を受け活動支援と致しまして、クラブの会員の仲間達と貧困な子供達への里親として支援活動を行うなかで共にスリランカへ訪問いたしましたことが始まりです。

また、サジーさんと共に大網ロータリークラブへ卓話に訪問した中で、大網ロータリークラブの皆様もサジーさんの活動に感銘を受け、共にスリランカへ訪問し貧しくとも優秀な子供達へ里親支援としてサポートしている仲間も多くいます。また、松戸西ロータリークラブへと輪が広がり、多くのロータリアンによる国際奉仕へと繋がっています。



この度の図書室設置による贈呈式は、図書室の銘板の除幕を会長の中村が行い、扉前のテープカットを新田国際奉仕委員長に執り行って頂きました。内部図書室に入り、二部屋のスペースを図書室として設けて頂きまして本棚を設置されていましたが、私達の贈呈した本が役2600冊ほど整理されていなかったことを確認できました。

参加して頂いた皆さまと共に寺院の僧侶の皆さまによるお祈りをして頂きました。



整理された本には、柏東ロータリークラブとしての印を押印されていることもしっかりと実施して戴いていました。壁にはクラブの皆さまによる集合写真とバナーが飾られています。

しかしながら、棚の中はまだ図書が少なく、「もう少し多く並べられたらもっと図書室らしくなるかな」と思えたのも事実ですね。でもそれは今後の課題であり、クラブの長期計画として立て、少しずつ増刊し、「子供たちの夢への実現」に向けてのサポートができるように努力したいと考えています。

そのオープンギンセレモニーの後、檀上にて管理頂くアマラワンサ僧へ目録としてお渡ししまして、式典のスタートを致しました。当日は、この寺院の近くであり、ポロンナルワ地域のロータリアンも駆けつけて頂き、とてもよかったと思います。

奨学金授与式に参加した子供達は、非常に貧しい家庭環境や厳しい環境ではありますが、各学校の中でも優秀で、学校長の推薦により成績優秀な子供たちへ、コスモス奨学金としてサポートする事がふさわしいか確認され、奨学生として、また里子として里親になった皆さまから奨学金授与式において学用品や食糧支援なども含めて授与式が執り行われました。

一日8時間以上も掛けて遠方より駆けつけた奨学生や里子と、ご家族の皆さんや、また、図書室を設置するために御協力して戴いた皆さんのうれしそうな表情はとても輝いていました。私達は、ここに参加し「柏東ロータリークラブ文庫としての図書」を贈ってよかったなと思っています。

会が終了し、こどもや家族との交流が始まっている中で、寺院内に於きまして、図書室の管理を依頼する内容や、今後の事も含めた説明をさせて頂き、ワルダナ寺院のアマラワンサ僧との確認・署名の交換を執り行いました。



今後のクラブとして、ベースの図書室は設置されましたので、今後の会長さんや会員の皆様への協力により図書の増刊が出来ましたら、柏東ロータリー文庫が、本当の図書室としてスリランカの子供達や、地域の皆さまに活用されるだろうと考えていますし、また願っています。

今後とも会員の皆にご協力頂き、「スリランカの貧

困の子共達の夢を実現するサポート」を続けていけたらと考えています。

米山学友のサジーさんから輪が広がり、世話クラブの松戸西ロータリークラブや大網ロータリークラブのロータリアンが共に現地訪問し、様々な奉仕活動としてサポートされている事も合わせてご報告いたします。是非皆さまも小さな事でも出来る奉仕をしてみても如何でしょうか。その活動の中ではロータリー財団の地区補助金はとても奉仕活動を行う為にはとても助かりました。

本日ここに 柏東ロータリークラブが今年度行った奉仕活動としてご報告させて頂きます。



コロンボ空港への出迎え



柏ロータリー文庫銘板掲示



柏東 RC 国際奉仕委員長のテープカット



バナー・会員写真掲示



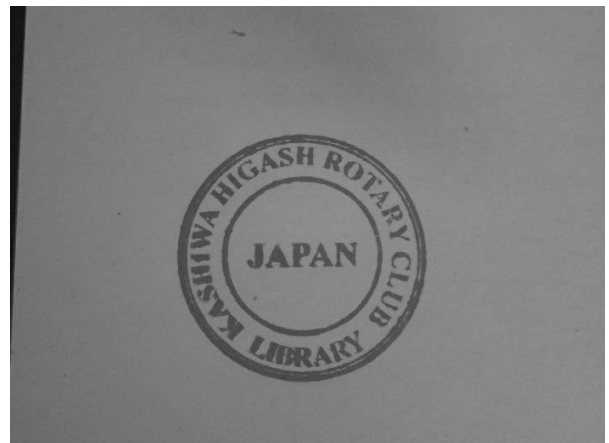
図書室 全景



図書室の開設後の子供達の利用状況と素晴らしい笑顔



新設された図書室 2階部分



クラブ名印 押印

地区補助金 国際奉仕活動
スリランカ日本音楽交流プロジェクトの報告
松戸西ロータリークラブ 山本 衛

【スリランカ支援までの道のり】2011年4月より、松戸西ロータリークラブでは、米山奨学生として、スリランカより、サジーワニー・ルツマル・W.D.・ディサーナーヤカ・ムディヤンセラゲーさん（以下サジーさん）をクラブで受入れた。サジーさんは優秀で、クラブでもよく卓話を依頼した。専攻は言語学で、スリランカと日本の間の言語について、サジーさんの専門知識を踏まえて、学んでいることをすこしずつ教えていただき、スリランカという国の知見を得ていった。特に、2009年まであった、内戦の様子は、とても悲惨で、銃弾跡ののこる学校で、小さな子供たちが勉強している姿には、日本の平和ボケを強く考えざるを得なかった。（参照 [1] 「ロータリーの友」2012年12月号 P21）クラブのほうでも、奨学生を受入れた後、意識の変化があった。米山奨学生をテーマにして、インターシティーミーティングを、当クラブ主催で開催した。（参照 [2] 2013年2月13日 IM 於 松戸商工会議所）その他にも、クリスマス例会時に、スリランカへ文具を寄贈。クラブの会員が結婚した際には、新婚旅行の工程で、スリランカへ立ち寄りを設け文房具を届けた。（参照 [3] 「ロータリーの友」2014年4月号 P47）他にも、個人的にキーボードや、その他の楽器を、スリランカへ寄付を、行なった。こうして、松戸西ロータリークラブとスリランカとは、個人とクラブを交え、支援と親交を続けることができた。（参照 [4] 「ロータリーの友」2014年11月号 P22-P23）

一方、サジーさんは自らの勉学の傍ら、母国スリランカのためにコスモス奨学会を、夫メルビン氏とともに運営をしてきた。この奨学金は、スリランカにて貧しくて教育の機会のない子供たちを、日本より支援する制度である。日本にて里親を募集し、一人あたり毎月1000円の支援で、貧困家庭であっても優秀であれば、奨学金により、高校卒業程度まで勉強することができる。サジーさん、メルビン氏は、毎年、日本より支援してくださる里親を、現地スリランカの優秀な生徒に引き合わせ続けてきた。（参照 [5] 「ハイライトよねやま 169」2014年4月11日発行）こうして、当クラブや、サジーさんによる、日本からスリランカへの支援・親交から発展したのがスリランカ日本音楽交流プロジェクトであった。スリランカでは行事の度に音楽隊が出動するのだが、肝心の楽器がない。楽器を購入したくても予算がない。

拠点となる学校に楽器があれば周辺の学校、住民も利用できる。日本とは言葉も文化も違うなか、音楽だけはスリランカに限らず世界人類共通して通じることができる。スリランカと日本の両国にて、音楽を通じた、青少年奉仕活動を行い、互いの文化を尊重し、将来への発展に導けるよう当クラブでは、地区補助金を申請した。

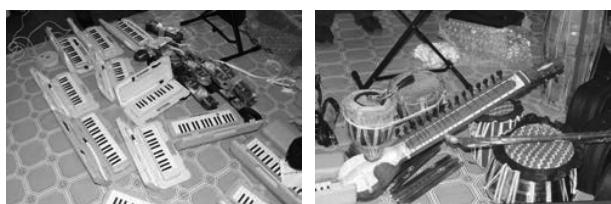
【贈呈に向けて】事前の調査では、コロンボ付近の学校は比較的恵まれており、音楽室も楽器にも不自由なく運営されていた。一方、スリランカの奥地には、楽器一つなく800名近くも勉強をしている貧しい地区の学校が有り、最も楽器贈呈の効果が高いと判断した。VEHERAGALA MAHA VIDYALAYA という学校は、コロンボ空港より車で5時間半の場所に有り、その学校に楽器を送ることで子供達の心の教育に大きな役割を果たせるのではないかと判断し、贈呈する学校を決定した。11月に視察隊を派遣し、5時間半の車輛移動が可能なのかどうか、また、安全面や水・食料事情を確認しながら、目的の学校を視察し、視察隊の5名により大筋の流れを決めた。また、贈呈式に向け少しでも多くの楽器が寄贈できるよう先発隊の手荷物を利用してキーボード、シンセサイザーを運搬した。そして、現地のロータリークラブ、Kandy Regency (Club ID 85773 District ID 3220) にメークアップし、現地の協力や、贈呈式の出席の確約を得ることができた。



日本では、会員を中心として、使われなくなった楽器収集を行った。会員の家族・会社・友人等の協力を仰ぎ、主にピアノ・キーボード・シンセサイザー等の使われなくなった楽器が集まった。

2月になり、集めたピアノの清掃・調整を行った。小学校で使われていたものが多く、シールの発貼やマジックによる記入が多かった。それぞれ、シール剥がし溶剤や、シンナー等を使い丁寧に清掃した。また、ピアノの口の部分のみ新品を用意した。

ピアノカもメーカーが3社あり、(YAMAHA・SUZUKI・KAWAI) それぞれに応じて口先も変えた。



音楽室に取付ける看板も、会員による手作りにより製作した。看板は、現地購入したほうがコスト的にも時間的にも有利だったのだが、あえて、手作業による制作を選択した。それは、今回のプロジェクトを通じ、会員の贈呈の気持ちを、現地の生徒に伝えたいからである。木屑により全身粉まみれになりながらも懸命に作業に没頭する会員の思いは、必ず伝わってくれるだろう。



【楽器寄贈式】 日本よりコロombo空港まで、9時間半のフライトを終え、直ぐにマイクロバスで約3時間かけて、深夜に宿泊ホテルに到着した。この時点でかなりの疲労感が有ったが、直ぐに就寝し、翌朝の出発に備えた。翌朝、出発前に地元のロータリークラブ (Kandy Regency Rotary Club) の会長ほか3名が、ホテルまでお迎えに来て下さった。もう少しバスが大きければ、同乗出来たが、学校に運ぶ楽器や看板ほかの荷物を積んでいたため、別々の車で学校まで向かう事となった。休憩をとらず、約2時間半のドライブで学校に到着した。学校に到着した時には、学生たちが日本とスリランカの国旗を振って出迎えて下さった。そして、校長先生、スリランカの大統領秘書官、文部科学省担当官、教育委員会担当者とご挨拶をし、子供たちに出迎えられながら音楽室まで歩んだ。まずは式典会場横で、両国旗掲揚・学校旗掲揚を行い、両国歌斉唱・校歌斉唱を行いその後音楽室に向かった。



そこで、音楽室のオープンテープカットを行い、今回送った楽器や看板を皆で箱から出して音楽室に並べ看板の取り付け位置を決めた。これは視察の際の音楽室予定場所が、変更になったためである。しかし、視察時の予定の場所より良い場所を確保して下さったので楽器の保管の面で良いと感じられた。その後、式典会場に向かい、いよいよ式典の開始である。生徒代表者が司会進行を行い、伝統行事のオイルランプ点灯の儀、校長先生の挨拶、歓迎の歌を日本語で歌って頂き、Kandy Regency Rotary Club 会長挨拶、松戸西ロータリークラブ会長挨拶と進み目録贈呈、バナー贈呈、お土産を渡し、Kandy Regency Rotary Club には、活動支援金を進呈する事が出来た。その後、歓迎の舞を見せて頂き、最後に大統領秘書官の感謝の挨拶を頂いて無事に式典は終了した。記念写真を撮り終えた時には、3時間の時間が経過していた。VEHERAGALA MAHA VIDYALAYA 学校の位置は、コロomboから車で5時間半以上かかる非常に遠い場所だが、スリランカの高速度道路が全て完成したら、コロomboより1~2時間で行ける事になる。

今回のプロジェクトをきっかけに、多くの子供たちが音楽に関わりを持つ機会が増えて情操教育の一つと成ってくれば、我々のプロジェクトは成功する事となるだろう。

VEHERAGALA MAHA VIDYALAYA 学校より音楽大学に進み、音楽家・音楽教師が、輩出される事を祈りたい。





文学博士（米山学友） サジーワニー ディサーナカ

皆様こんにちは。

今日は、地区研修・協議会、奉仕プロジェクト部会にてスピーチをする機会を作ってくだ

さった、石井 弘国際奉仕委員長（次年度）に、心から感謝申し上げます。

私とロータリーとの出会いは、米山奨学生として、世話クラブである松戸西ロータリークラブ（以下 R.C.）、千葉県他クラブの先生方にお会いした時にさかのぼります。ロータリーから頂いた奨学金は、大学での学費や研究のために、私にとっては大きな宝でした。この宝がなければ、私は博士課程の研究を続けることができなかつたと思います。ですから、私が博士課程を修了できたのは、ロータリーのお蔭なのです。私の子供のころは大変貧しい家庭で生まれて、苦しい生活をしながら勉強しました。家庭が経済的に大変貧しかったため、祖父母が隣の畑と田んぼで働き、私と姉に勉強させてもらいました。私は学校に行く時に着る服も履く靴もなくて大変困っておりました。当時学校の成績が優秀だったため、私に、日本の里親さんより教育ご支援をいただきました。里親さんのおかげで、スリランカの大学を卒業し、その後、もっと深く日本語を学ぶために、日本に留学するチャンスをいただきました。私は、千葉大学人文社会科学研究科で修士課程を卒業するまで奨学金をいただきませんでした。大学の修士課程を卒業し、博士課程の研究を続けたかったが、国の親も大変貧しいため、私の大学院での学費を払うことができない状況でした。スリランカから留学する学生には、奨学金が少ないため、私もスリランカに帰ろうと思っていたところ、大学の留学生センターでロータリー奨学金について知りました。他の奨学金と異なり、興味をもちました。一番気になったのが、採用されたら、ロータリアンの方々と一緒に直接接するチャンスがあることでした。私はロータリー奨学金を申請して、試験を受けました。私が信じている仏様と神様のおかげで、ロータリー奨学金を採用されました。

子供のころから苦しかった道がロータリー奨学金で明るくなりました。

大震災が終わってすぐ、2011年の5月から米山奨学金をいただき、大学院で勉強させていただきました。今年の3月25日に、博士課程を終了し、無事に大学を卒業しました。貧しい国から留学した、貧しい家庭の私にとってはロータリーの神様が見てくれました。ロータリークラブにはこのようなご親切

参考文献

- [1]（参照「ロータリーの友」2012年12月号 P21）
- [2]（IM 報告書 2013年2月13日 I M 於 松戸商工会議所）
- [3]（参照「ロータリーの友」2014年4月号 P47）
- [4]（参照「ロータリーの友」2014年11月号 P22-P23）
- [5]（参照「ハイライトよねやま169」2014年4月11日発行）

な方々がいらっしゃるのので、ロータリー奨学金に採用されて素晴らしい方々に恵まれて研究を続けることができました。素晴らしいロータリアンの先生方との交流を通して、日本の方々には経済的な豊かさだけではなく、真の豊かさがあるのだと感じました。私にとって、世話クラブ、地区委員の皆様、カウンセラーの先生が、神様のような存在です。今まで経済的に大変困っていたので大学の学費など払うことができなくてとても大変でした。ロータリー奨学金をいただいてから何も困ったことがなく、研究を続けられました。私の日本での留学生活ではこのような素晴らしい奨学金を頂きとても幸せでした。

私はいつかスリランカにおいて日本語教育と日本文化の教師となり、両国のための架け橋となる存在になりたいと思います。これからも、私のカウンセラーの先生、地域委員、ロータリークラブの皆様と、学友として一緒に活動をして行きたいと思っております。

世話クラブと他のロータリークラブは私の家族のような存在だと思い、クラブの様々な活動にも参加させていただきました。私が奨学生のころ、当時の中村米山記念奨学委員長の依頼で、大綱 R.C.・我孫子 R.C.・柏東 R.C. を訪問し、卓話の機会を頂きました。私の子供のころは大変貧しく、日本の奨学金のおかげで、現在留学していることなどについていろいろなクラブで話をしました。大綱 R.C.・柏東 R.C.・松戸西 R.C. は日本とスリランカの大きな架け橋になってくださいました。

私は子供のころ、日本の里親さんのおかげで、日本で勉強することができました。子供の頃からご支援をしてくださり、私の里親さんになってくださった、東金元校長の鈴木先生とスリランカの貧しい家庭の優秀な子供達に支援できるコスモス基金を立ち上げました。

現在、大綱 R.C. は、スリランカの貧しい家庭の大勢の子供たちに教育支援を、また、多くの家族に食料支援をいただいております。その上、大綱 R.C. の会員の方々は毎年スリランカを訪問してくださり、コスモス奨学金授与式にご参加くださり、子供達の家を訪問してくださっています。

それから、柏東 R.C. の皆様は、昨年スリランカにいらっしゃって、子供達の家を訪問し、実際の目で子供達の現状をご覧になり、里親さんになってくださいました。また、今年は地区補助金にて図書室を寄贈してくださいました。貧しい田舎の子供達に、どの科目でも勉強できるよう、様々な科目に分けて約 3000 冊、書籍、辞書、雑誌を寄付してください

ました。それは、幼稚園の幼児から大学生、大人まで勉強できる書籍です。この寄付は日本の皆様から考えると小さい寄付金と思われませんが、私達スリランカ人にとって大きな宝です。

また、私の世話クラブである松戸西 R.C. が、わざわざスリランカにいらして、長く内戦のあった、大変貧しい地域、貧しい家庭の子供達が通っている学校に、楽器を寄付してくださいました。小学生から高校生まで 800 人以上在籍している学校で、音楽の先生がおりますが、音楽を勉強するために一つの楽器もなかった学校です。嬉しいことに松戸西 R.C. の会員の方々のおかげで、大勢の子供達が勉強できる日本とスリランカの楽器を沢山頂きました。

これらの皆様方の善意は、スリランカ人にとって大きな力となっており、スリランカの大勢の人々は日本のロータリークラブに心から感謝しております。スリランカの大勢の子どもたちに教育支援を頂き、大変嬉しいです。ロータリアンの皆様には、感謝の言葉が言いきれないぐらいです。奨学生としての期間が終了してもロータリアンの皆様方と交流を深めていきたいと思っております。このような交流は、私の人生の中で強く心に残っています。

昨年からスリランカと松戸西 R.C.・柏東 R.C.・大綱 R.C. の間で交流ができたことは、これから日本とスリランカの架け橋になるためのきっかけだと考えております。ロータリーのこのような国際奉仕プロジェクトは、スリランカのような貧しい国の子供達のために大きな宝ではないかと思っております。いつか、国に帰っても、世話クラブの皆様、ロータリアンの皆様、米山奨学金のことを一生忘れません。博士課程を卒業してもロータリークラブの方々の関係を維持しながら日本とスリランカの架け橋になりたいと思っております。

その日から今までにいただいた先生方の優しいお心、親切なお言葉は、私がスリランカに帰っても忘れることができません。今まで大変お世話になりましたこと、クラブの先生方皆様とロータリアンの皆様にいつも心からお礼申し上げます。

現在学友として皆様方との交流を大切にしたいと思うとともに、また、どうかこれからもご支援をいただきますようお願い申し上げます。皆様のご多幸と仏様の御加護がありますように、ロータリアンの皆様、ご家族の皆様のご健康とご多幸を心より祈っております。

ロータリークラブのますますの発展を心より祈っております。

仏様のご加護がありますように心より祈っております。

国際奉仕、社会奉仕のロータリーとしての実践活動の発表、全て世界でよい事をしようとの皆様の熱意を強く取れる素晴らしい発表を感謝いたします。今世界の現状は、

- 1年に6千万人がなくなり1億4千万人が生まれ
- 毎日避けることができる原因で命を落とす子供の数は3万人を超え、
- 毎年1千万人の子供たちが5歳の誕生日を迎えることなく死に、
- 毎年900万人が餓死しています。
- 世界中で92%の人が食べ物に困り、
- 世界の8%（日本人を含む6億2000万人）の人だけが食が満ち足りています。
- 世界人口の1/6は読み書きができず、
- 飲み水の無い人が26億人いて
- 学校に行ったことのない子供が1億4千万人
- 毎年25万人の子供たちが武力戦争で亡くなり兵士として徴兵されています
- 毎年200万人以上の子供たちが売春の為、または奴隷として売られています。

1917年にアーチクラフ RI 会長が財団の前進「ロータリー基金」を提唱して以来、100年弱、ロータリー財団は着実に発展し、世界の人道奉仕団体の上位10傑へ名乗りを上げ、財団創立100周年（2017年）には10億ドル恒久基金の構築を達成し、ポリオ撲滅・エンドゲーム戦略でもゲイツ財団+ TRFのパートナーシップで約5.25億ドル規模、期間2013年～2017年度の5年間の計画でポリオゼロを達成しようとしています。そのような中で世界理解、親善、世界平和の達成に向け着実な歩みを進めています。

そして今、世界中の発展途上国で、ロータリーのプロジェクトが期待され、人道的な、医療に、教育に、ポリオ撲滅に、青少年奉仕プログラムへ、ロータリー財団の6つの重点分野へ、世界理解、親善、平和の促進へさまざまな分野で役に立ち世界でよい事を実行しているということを報告いたします。

今世界の人道的団体のランク付けする Charity Navigator によりますと RI 財団は運営費は一般年次寄付には手をつけず、恒久基金の運営利益から負担しています。割合は最高ランクの四ツ星。ちなみにライオンズは三ツ星、さまざまな団体がありますが、運営費が50%を超える団体があるのも事実です。

今我々ロータリアンは何をしなければいけないのか、小さい事からで良いのです。出来る限りのよい事を出来る範囲で実行することです。

国際奉仕、社会奉仕は身近なところに目を向けて、喜んで貰えばいい。

「人」、「金」、「人脈」、「情報」の中で、奉仕活動のパワーの源であるロータリー財団補助金は、皆がロータリー財団に払った「金」です。その基は職業奉仕です。職業奉仕は金が目的ではありません。あくまでも手段であり、結果としての皆様の善意のお裾わけができるのが我々であると自覚してください。

皆様のたゆみないご理解とご尽力に心から感謝申し上げますと共に、今後の世界平和の発展に向けて皆様のご協力と力添えをお願いいたします。

青少年奉仕部会



■ 青少年奉仕部会

リーダー	次期・青少年奉仕統括委員長	鷗沢 和広
サブリーダー	次期・ローターアクト委員長	櫻井 真人
サブリーダー	次期・インターアクト委員長	中澤 良夫
サブリーダー	次期・青少年交換委員長	佐藤 孝彦
サブリーダー	次期・RYLA委員長	黒岩 靖之
アドバイザー	次期・危機管理委員長 パストガバナー	鈴木 雅博

青少年奉仕統括委員長挨拶 青少年奉仕委員会について

皆様のクラブでは独自に色々な青少年奉仕関連の事業をされていると思います。それらの事業につきましてはこれからも活発に行って頂きたいと思っております。櫻木GEより「既存の事業の継承でも、ロータリーの青少年活動の意味合いと目的をしっかりと意識して欲しい」そして、「事業をこなすだけの委員会ではない」というメッセージがございますのでくれぐれも宜しくお願い致します。

皆様ご存じの通り地区の青少年奉仕委員会は四つの委員会で構成されております。四つの委員会はそれぞれのプログラムのもと、独自の委員会運営を行っております。青少年の健全育成は勿論のこと、若きロータリアンの卵を大切に育て、次世代のロータリアンの育成の一翼を担って行くことが出来ればと考えております。その為に、各委員会はお互いに連携を深めて同じゴールを目指して行きたいと思っております。

以下、櫻木GEより目標を提起して頂いております。ご承知のように、ロータリーの青少年奉仕は単なる

若者支援ではないし、単なる留学支援団体でもありません。ロータリーの青少年を対象とした活動の始まりは結構古いです。その当時は社会が安定していなかったため非行に走る若者が多かった。よって、青少年の健全育成が大きな目的でした。でも、その当時（1920年代）からロータリーの青少年活動はロータリーの精神を若者に伝える事でした。これが今に至ってもロータリーの青少年奉仕の原点だと思えます。

よって、具体的には

1. ロータリーの精神や考え方を青少年に伝える事（昔から）
2. 未来のロータリアンを育成するという意識を持つこと（最近特に強調される）
3. 青少年活動を通して委員会のメンバーがロータリーを学ぶこと

（則、青少年に教えるからには、或は、教える事を通してロータリアンがロータリーの精神を学ぶこと）

を強調して頂きたいと考えます。

それでは、各委員会の委員長より次年度への抱負と、事業予定を発表致します。

ローターアクト委員会 委員長 櫻井真人

2015-2016年度ローターアクト(略RAC)年間活動計画として平成27年7月より毎奇数月に会長幹事会を開催、8月に地区内合宿例会、9月に地区交流会、11月に地区学習会(社会福祉施設)、2月にリーダーシップフォーラム、3月に全国研修会、4月にRAC年次大会、5月に関東ブロック研修会及び地区研修会、6月に各クラブ最終例会、と予定されております。RACの活動を一年間見守りながら時には助言をして実り多い活動になるよう努めます。

インターアクト委員会 委員長 中澤良夫

インターアクト(略IAC)とは「インタナショナル」+「アクション」の造語であり、良いことを世界中で行おうとするプログラムです。

RIでは12歳~18歳の青少年のためのクラブとして位置付けており、学校や地域を基盤として提唱RCにより結成され地域奉仕や国際理解に励んでおります。

現在、2790地区では高校生を対象として16のIACがRIによる認定を受けて16の高校内に有り、約200名が活動しています。(2クラブ休部中)

各クラブは奉仕活動等を行ない自己を磨いています。

地区委員会では、顧問教師や提唱RCと協力して指導者講習会・合同会議をおこない、より良いIACを目指します。

大きな行事としてIAC年次大会、国外研修を実施いたします

青少年交換委員会 委員長 佐藤孝彦

15才~19才の高校生を対象とし、長期と短期の2つのプログラムがあります。

長期は最長1年間、派遣する生徒(OB=アウトバウンド)、受け入れる生徒(IB=インバウンド)は派遣先の高校に通い、受入国の文化を理解するため2軒以上のホストファミリーと生活を共にし、毎月のオリエンテーション、受け入れクラブの例会や地区の行事などロータリー活動に参加したりします。

短期はIBが先ず約1か月交換生宅にホームステイし、そのあとOB交換生がIBと一緒にOB宅に

行き約1か月間滞在します。

交換期間は約1年又は2か月ですが、実際には、毎月のオリエンテーションなど、はるか前から始まり、学生の帰国及び帰国報告をします。

RYLA委員会 委員長 黒岩靖之

ロータリーは110年を超える歴史の中で、弛むことなく青少年に対し大きな関心を持ち続けてきました。2015-16年度も将来の指導者と成り得る資質を持った青少年に対して、歩行ラリーを教材とした1泊2日のRYLA(ロータリー青少年指導者育成プログラム)セミナーを開催します。このセミナーを通じて、青少年が自己啓発し、指導力を養い、よき市民としての資質を伸ばせるようバックアップすることを目的とします。

第2790地区ローターアクトクラブ

【館山】

- ①クラブの名称 館山ローターアクトクラブ
- ②提唱クラブ 館山ロータリークラブ
- ③設立日 1969年12月
- ④現在の会員数 7名
- ⑤例会場 里見の湯
- ⑥活動内容 スポーツや卓話を中心に行っています。
- ⑦今後の活動計画 6月27日45周年式典兼最終例会
- ⑧現状をどう思うか
踏ん張り時!と同時に若い会員も増えたので、これから盛り返していきたい。
- ⑨今のクラブをどう思うか
会員の力が引き出せていない!もったいない!
- ⑩今後クラブをどうしたいか
館山に無くてはならない存在に!夢は大きく!

【習志野中央】

- ①クラブの名称 習志野中央ローターアクトクラブ
- ②提唱クラブ 習志野中央ロータリークラブ
- ③設立日 1992年4月19日
- ④現在の会員数 4名
- ⑤例会場
- ⑥活動内容
- ⑦今後の活動計画
- ⑧現状をどう思うか
- ⑨今のクラブをどう思うか
- ⑩今後クラブをどうしたいか

【茂原】

- ①クラブ名 茂原ローターアクトクラブ
クラブターゲット 『整』
- ②提唱クラブ 茂原ロータリークラブ
茂原中央ロータリークラブ
茂原東ロータリークラブ
- ③設立日 2007年2月10日
- ④会員数 8人
- ⑤例会場 卸売団地内事務所
- ⑥主な活動 『整』 清掃活動例会
8月9日 一宮海岸
9月21日 茂原公園
10月11日 茂原駅周辺
11月8日 茂原駅周辺
12月13日 玉前神社
1月24日 茂原アスモ周辺
2月14日 茂原市役所周辺
3月14日 新茂原駅周辺
7月22日 茂原七夕祭り飾り付け
8月30～31日 茂原・館山合同合宿例会
11月20日 館山合同例会（チャリ
ティーボーリング）
11月23日フリーマーケット例会
同日 市原合同例会（サバゲー）
11月30日 市原合同例会（ゴルフ）
12月25日 茂原忘年会
1月29日 茂原新年会
3月8日予定 勧誘 & 親睦例会（イ
チゴ狩）

⑦今後の活動計画
子供達やおじいちゃんおばあちゃんへの支援活動
計画

⑧現状をどう思うか
次年度卒業する人が多いため、その分会員増加を
する

⑨今のクラブをどう思うか
クラブはみんな楽しくいい雰囲気に活動している

⑩今後のクラブをどうしたいか
より一層活気づけるクラブを作るのと会員を増や
す事。

【千葉科学】

- ①クラブ名 千葉科学大学ローターアクトクラブ
- ②提唱クラブ 銚子ロータリークラブ
銚子東ロータリークラブ
旭ロータリークラブ
- ③設立日 2007年11月25日

- ④会員数 12名
- ⑤例会場 千葉科学大学マリーナキャンパス
- ⑥主な活動 清掃活動、文化祭での売店の実施など
- ⑦今後の活動計画
5月～6月 留学生交流会、
6月終わり 最終例会
- ⑧現状をどう思うか
まだやれること、できていないことなどいっぱい
あるなって感じです。
- ⑨今のクラブをどう思うか
今までの中でもいい雰囲気のある感じはしています。
- ⑩今後クラブをどうしたいか
組織立った活動や活動をしていくためのシステム
の構築をしっかりと行っていきたいと思います。

【市原中央】

- ①クラブの名称 市原中央ローターアクトクラブ
- ②提唱クラブ 市原中央ロータリークラブ
- ③設立日 2010年6月19日
- ④現在の会員数 11名
- ⑤例会場 権現堂公園
- ⑥活動内容 第2.4月曜日、権現堂公園清掃
- ⑦今後の活動計画
前期の活動計画の継続 一月に一回献血の呼びか
け、保育園訪問等のボランティア実施。
- ⑧現状をどう思うか アクターの人数が増えない
- ⑨今のクラブをどう思うか
もっと公園清掃以外の活動をしていきたい。
- ⑩今後クラブをどうしたいか
10 インターアクトとの交流、地元の市役所のか
たとの交流を通じてメンバーの勧誘を実施する。

インターアクト委員会 2015-2016年度 協議会資料

インターアクト

インターアクト・クラブとは12歳から18歳までの
青少年のための奉仕クラブであり、世界120以上
の国や地域、11,000以上のクラブに250,000人以上
の会員がおり、学校、あるいは地域社会を基盤とし
て結成されています。

インターアクトという名称は「インターナシヨナル
とアクション」という二つの語彙を複合して出来
た名称です。

インターアクト・クラブは社会奉仕や国際奉仕に
取組んでおり、特にアメリカ、ブラジル、インド、フィ
リピンでは活動が盛んです。

インターアクトのはじまり

1960年、ハロルド T トーマス RI 会長は世界中のロータリー・クラブに、青少年に奉仕を奨励する方法を見つけ出し、青少年がリーダーとして成長する機会を提供するよう呼びかけました。

その2年後、米国、フロリダ州メルボルンにあるメルボルン高校に23名が集まり最初のインターアクト・クラブを結成しました。

合同会議 各インターアクト顧問教師と各提唱 RC 担当者

- 日時 第1回 7月14日(火) 14時～16時
千葉市民会館
- 第2回 9月8日(火) 14時～16時
千葉市文化センター
- 第3回 1月19日(火) 14時～16時
千葉市文化センター

年次総会

- 日時 8月27日(木)
(仮)9時30分 受付～
10時 点鐘～
15時30分 閉会式～
16時30分 点鐘
- 場所 茂原樟陽高等学校
ホストクラブ
茂原樟陽高等学校インターアクト・クラブ

国外研修

- 日時 11月11日(火)～14日(土)を予定
- 渡航先 台湾
現地、青少年達との交流会を企画

指導者講習会

- 日時 5月を予定
- 場所 (仮)大原高等学校
ホストクラブ
大原高等学校インターアクト・クラブ

国際ロータリー第 2790 地区 インターアクトクラブ一覧 2015-2016 年度

学校名 学校所在地	創立年月日 提唱 RC	電話 (上) ファックス (下)	備考欄
成田高等学校	1963 年 11 月 28 日	0476-22-2131	
成田市成田 27	成田 RC	0476-23-0234	
木更津総合高等学校	1964 年 10 月 28 日	0438-30-5511	
木更津東太田 3-4-1	木更津東 RC	0438-30-5630	
千葉県立東金商業高等学校	1965 年 2 月 4 日	0475-52-2265	(休会中)
東金市松之郷字久我台 164-1	東金 RC	0475-53-0663	
千葉県立勝浦若潮高等学校	1965 年 6 月 18 日	0470-73-1133	(休会中)
勝浦市新宮 1380	勝浦 RC	0470-73-8966	
千葉県立千葉商業高等学校	1965 年 12 月 1 日	043-251-6335	
千葉市中央区松波 2-22-48	千葉西 RC	043-255-8580	
千葉県立大原高等学校	1966 年 2 月 12 日	0470-62-1171	
いすみ市大原 7985	大原 RC	0470-63-9772	
千葉県立茂原樟陽高等学校	1966 年 10 月 1 日	0475-22-3315	
茂原市上林 283	茂原 RC	0475-22-3999	
千葉県立館山総合高等学校	1967 年 9 月 30 日	0470-22-2242	
館山市北条 106	館山 RC	0470-23-1046	
千葉県立安房拓心高等学校	1969 年 4 月 6 日	0470-47-2551	
南房総市和田町海発 1604	千倉 RC	0470-47-4868	
千葉経済大学付属高等学校	1983 年 6 月 27 日	043-251-7221	
千葉市稲毛区轟町 4-3-30	新千葉 RC	043-284-0124	
愛国学園大学付属高等学校	1984 年 1 月 26 日	043-421-3533	
四街道市四街道 1532-16	四街道 RC	043-421-3534	
千葉黎明高等学校	1985 年 2 月 1 日	043-443-3221	
八街市八街ほ 625	八街 RC	043-443-3443	
文理開成高等学校	1994 年 4 月 26 日	0470-92-0267	(休会中)
鴨川市横渚 815	鴨川 RC	0470-92-0260	
聖徳大学付属女子高等学校	1995 年 4 月 22 日	047-392-8111	
松戸市秋山 600	松戸 RC	047-392-8116	
東海大学付属望洋高等学校	2002 年 12 月 17 日	0436-74-4721	
市原市能満 1531	市原中央 RC	0436-74-5266	
市原中央高等学校	2007 年 12 月 15 日	0436-36-7131	
市原市土字 1481-1	市原 RC	0436-36-7141	

青少年交換委員会

青少年交換の目的：

高校生が「親善大使」として、留学又は短期滞在することにより、国際理解、異文化圏の人々と分かち合いの精神を学ぶプログラム。
(語学研修ではありません)

青少年交換は2つのプログラムがあります。

長期交換プログラム：1学年間の留学（出発時15～17才）

短期交換プログラム：それぞれ1カ月程度の双方での滞在（15才～18才）

長期交換：

*派遣時期・期間：10カ月～1年間

*派遣先：北米、中南米、欧州など 3名以内

●重要なポイント：長期交換を希望する生徒にとって、必須条件は自分のスポンサークラブを確定することです。

長期交換を希望する生徒はスポンサーになってもらえるロータリークラブが無ければ試験を受ける資格がありません。

会員数が20名以下のクラブにとって、長期交換生のスポンサークラブになることは財政的に難しいと思われます。(地区からも年間少なくとも40万円程の補助金は支給されますが、スポンサークラブは100万円近くの予算を立てる必要があります)

●各クラブへお願い：長期交換生のスポンサーになって頂けるクラブがありましたら青少年交換委員会までご連絡頂きたく、よろしく願い申し上げます。

短期交換：

*手続きが簡素で、スポンサークラブの負担も少ない。

*派遣先：アメリカ・欧州など 10名以内

*派遣内容：相互交換となる家庭にホームステイし、お互いにその家庭の一員として1カ月近く生活を共にする。

交換期間はそれぞれ約1年間と約1カ月間ですが、毎月のオリエンテーションは、選抜試験後、派遣約1年前から始まり、ロータリー活動についての紹介から、人前での話し方、英語でのプレゼンテーションのノウハウ、日本文化の紹介等を勉強し、帰国後は帰国報告会を開催します。ROTEXという帰国

後の学生組織があり、派遣候補生の指導に当たりません。

青少年交換は青少年育成を通し、クラブを活性化する有用な手段となる。

長期交換はクラブ負担が大きいですが、ロータリーならではの成果、意義は絶大である。

短期交換はクラブが負担が少なく、小クラブでも実施可能である。

ガバナー、パストガバナーの皆様へお願い；

青少年交換は、実施において、相手国に対して責任が生じ、事務レベルの継続的で正確な管理を必要とします。交換実績から勘案して、専属の事務局設置は不可能と思われませんが、継続して対応して下さる事務担当の設置を強く希望します。必要によって、関東地区マルチ（東京、神奈川、埼玉、茨城、千葉）または、他地区との共同運営も有用と考えられます。以上

2015-16 青少年交換委員長 佐藤 孝彦

R Y L A委員会

R Y L Aとはロータリー青少年指導者育成プログラム (Rotary Youth Leadership Award) は、16歳から30歳までの将来の指導者になる資質を持った青少年たちにリーダーシップと人格の養成を目的にした研修プログラムです。

当地区は1978年から開催し、今回で39回目になります。

今年度のR Y L Aセミナーは昨年同様に歩行ラリーを教材に開催いたします。

歩行ラリーで何を学ぶのか？ですが、参加者全員に手渡されたコマ図を頼りに事実とは何か、真実とは何かを考えてゴールを目指しますが、これまでの生活で会得してきた知識や経験が、先入観、思い込み、既成概念となり参加者は多くの間違いを犯します。その間違いを訂正・確認して行く過程をペアおよびチーム全体で共有しながら「チームワークとは？ リーダーシップとは？・・・」を考え指導力を養って行くものです。

日程は11月14(土)15(日)の二日間で、場所は船橋市立一宮少年自然の家にて開催します。

国際理解が求められている現在の日本、R Y L Aセミナーには外国人留学生も多数参加します。留学生たちとの交流を深め、相互理解と親睦の場になることも期待します。

また、今回は歩行ラリー以外に外部講師の基調講演を予定していますので、多くの青少年の参加をお願いします。

皆さまのご理解ご協力を宜しくお願いいたします。

**国際ロータリー第2790地区
第39回RYLAセミナー実施要項
テーマ『チームワーク』**

日 時	平成27年11月14日(土)～15日(日)
登 録	11月14日 09:00
開 講 式	11月14日 10:00
閉 講 式	11月15日 16:30
場 所	船橋市立一宮少年自然の家 住所 千葉県長生郡一宮町浪見7493-2 電話 0475-42-5711
主 催	国際ロータリー第2790地区青少年奉仕RYLA委員会
参 加 者	国際ロータリー第2790地区の16歳～30歳までの青少年（高校生、大学生、一般）なら びに参加希望ロータリアン
セミナー内容	
第1日目	開講式およびオリエンテーション 歩行ラリーの検討 第1回歩行ラリーの実施 体験に基づく事実の再現と検査項目の研究発表 調査項目に基づいて現地調査、ラリー踏波対策研究
第2日目	第2回歩行ラリーの実施 歩行ラリーのまとめ 基調講演 講演者 河合 潤氏（前日鉄住金環境㈱社長） 成績発表 アワード授与 閉講式
登 録 料	参加者1名15,000円 (各ロータリークラブよりお振り込みください)
参加申込	別紙参加申込書に必要事項を記入の上、平成27年9月30日までにお申し込み下さ い（受付後確認書を送付）
交通方法	後日、参加申込者に地図を送付します
服 装	ロータリアンを含め、歩ける服装で参加して下さい
携 帯 品	運動靴 タオル 雨具 海中電灯 筆記用具 洗面用具等
グループ編成	生活は10名程度の小グループに分け自主的に行います
修了証書授与	参加青少年に修了証書(アワード)を授与します
留 意 点	本プログラムでは青少年指導者育成の手法として歩行ラリーを2回実施します 1回目の失敗の原因を反省、研究して2回目に再度挑戦しますので、成果を得るためにはどうし ても1泊2日の参加が必須になりますのでご理解ご協力をお願いします

国際ロータリー第2790地区
第39回RYLAセミナースケジュール概要
テーマ『チームワーク』

日 時 行 事 内 容

11月14日(土)

09:00～10:00 登録・受付 (玄関ロビー)
10:00～10:30 開講式 (工作室)
10:30～12:00 研修 歩行ラリーについての説明・研究・対策 (研修室)
12:00～12:45 昼食 (食堂)
12:45～13:00 歩行ラリーの注意事項説明 (体育館)
13:00～16:00 第1回歩行ラリー開始 (玄関ロビー)
16:00～17:30 研修 各ユニットごと、事実の再現と調査・検証項目の検討 (研修室)
17:30～20:00 夕食(食堂)および入浴
20:00～22:00 第1回成績発表および懇親会 (食堂)
22:00～ 就寝

11月15日(日)

06:30 起床
07:00～08:00 朝の集い(広場、雨天時体育館)
ラジオ体操、諸事連絡、清掃
08:00～08:45 朝食 (食堂)
09:00～12:00 第2回歩行ラリー (玄関ロビー)
12:00～12:45 昼食 (食堂)
12:45～13:45 研修体験のまとめ、壁新聞作成、アンケート作成とその取りまとめ (研修室)
14:00～15:00 基調講演 (工作室)
講演者 河合 潤 (日鉄住金環境㈱前社長)
15:00～15:30 第2回成績発表 (工作室)
15:30～16:30 閉講式 (工作室)
参加青少年の声
アワード授与式
記念撮影
解散

第39回 RYLA
テーマ: チームワーク

RYLA

21世紀リーダーシップセミナー

参加者募集



- 日 時 2015年11月14日(出)～15日(日)
- 場 所 一宮少年自然の家 千葉県長生郡一宮町東浪見7493-2
- 参加資格 国際ロータリー第2790地区(千葉県)各ロータリークラブ推薦の高校生、大学生、一般、ならびに参加希望ロータリアン
- 参加費 1人 15,000円(各クラブの規則に基づき推薦クラブよりお振り込みください)
- 連絡先 ガバナー事務所 TEL 043-242-0403
担当/RYLA委員長 黒岩靖之 y-kuroiwa@mokushin.co.jp



国際ロータリー第2790地区 RYLA委員会

ロータリー財団部会



■ロータリー財団部会

リーダー	次期・ロータリー財団委員長	ガバナー	宇佐見 透
サブリーダー	次期・グローバル補助金小委員長		大倉 崇
サブリーダー	次期・補助金小委員長		伊藤 正人
サブリーダー	次期・財団資金・推進管理小委員長		鈴木 桂三
サブリーダー	次期・ポリオ・プラス小委員長		石井 博
サブリーダー	次期・奨学金兼学友小委員長		小野塚 雄
サブリーダー	次期・R平和フェロウシップ小委員長		青木 忠茂
アドバイザー	パストガバナー		白鳥 政孝

新たなロータリー財団

ロータリー財団委員会
委員長 宇佐見透(千葉幕張 RC)

次年度財団委員長を務めることになりました宇佐見です。地区財団委員長は、パストガバナーが務めるのが望ましいとのR I (ロータリーインターナショナル) 方針で、任期は3年と決められています。一昨年、織田P Gが病に倒れられ、急遽山田P Gがその職務に就かれました。山田委員長は櫻木年度で研修リーダーを務められることから任期を1年残しての私へのバトン渡しとなりました。全力を挙げて取り組む所存です。会員皆様からのご意見など伺い、皆さんと共に歩もうと思います。

ご協力の程よろしく申し上げます。

ロータリー財団は1917年のアトランタ国際大会で、アーチC.クランフが「全世界的規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野でより良きことをするために基金を作ろう」と提案し、創設されてからまもなく、一世紀を迎えようとしています。時代の変化に対応しなければ、衰退したでしょうが、ロータ

リーは様々な意味で、時代の変化を採り入れ、その都度変わってきました。単年度制にしているのも強力な独裁的リーダーを求めず、みんなで考え、変化してきた結果だと思います。百年の間には、活動内容や目的が大きく変わりましたが、創設時の理念だけは変わりません。財団管理委員会は、ロータリー財団における奉仕活動がまもなく第2世紀目を迎えることから、昨年度より大きく舵を切り出しました。それがフューチャービジョン (Future Vision) 「未来の夢計画」と呼ばれるものです。あえて以前と言いますが、財団は多くのプログラム、例を挙げれば、国際親善奨学生制度、マッチンググラント (人道的プログラム)、G S E (研究グループ交換制度)、ボランティア奉仕活動補助金、3 H補助金 (保険、飢餓追放、及び人間性尊重補助金)、世界平和フェロウシップ、大学教員のための補助金、ポリオプラスプログラム、などなどその都度必要と思われるプログラムを実施してきました。余りにも多くのプログラムを抱え、また英語の略語を使うことから、複雑で解りにくいものになっていました。これらを一括整理し、時代にそぐわなくなったプログラムを見直し、

解り易く、皆さんに手の届く財団へ変わったとご理解下さい。未来の夢計画ではDDF(地区活動資金)による次の4プロジェクトにまとめられました。即ち①地区補助金プログラム、②グローバル補助金プログラム、③平和フェロプロジェクト、④ポリオプラスプロジェクトの4つです。

そこで次年度の財団委員会は

1. グローバル補助金小委員会
2. 補助金小委員会
3. 財団資金・推進管理小委員会
4. ポリオ・プラス小委員会
5. 奨学金小委員会兼学友小委員会
6. ロータリー平和フェロシップ小委員会

の6委員会で構成致します。それぞれの委員会は、未来の夢計画について既に5年にわたり研修、検討を重ね、全てについて理解しており、各委員会は必ず複数の委員により活動します。皆様からのご意見、ご質問に対し適切なアドバイスが出来ると思います。財団の利用について、もう一度見直しクラブの活性化に役立てて欲しいと思います。

今年度、地区はDLP(District Leadership Plan)を導入しました。奉仕プロジェクト委員会は、補助金を活用した奉仕プログラムを提案し、社会奉仕、国際奉仕の各分野共にクラブ単位でのプロジェクトが立ち上がり活性化してきました。更にはロータリーデーの開催などもあり地域の方々にもロータリー活動の一端が少しずつ理解され出し広報活動の一翼となりました。

地域の方々が開かれたロータリー活動に関心を持たれ理解されたの方々によるロータリーへの入会は今年度大きな成果となって現れています。これらの活動を資金的に支えるのがロータリー財団です。皆さんからの貴重な浄財である年次寄付金を管理し、最大限有効活用を模索し、更に私達の仲間を増やし、最初に申し上げた「より良き社会を作る」ことがロータリーの発展に繋がります。次年度櫻木ガバナーからは、財団エキスパートの養成をはじめ、財団への理解、寄付の意義と目的の周知、継続事業の円滑履行、活動申請の手続き支援、寄付ゼロクラブの消滅を要請されております。皆様のご協力をお願いします。

グローバル補助金にチャレンジ

グローバル補助金小委員会
委員長 大倉崇(市原中央RC)

グローバル補助金という言葉は、ロータリアンにとっては聞き慣れて来たと思われれます。2017年には国際ロータリーR財団創設100周年を迎えます、R財団管理委員会が奉仕の第2世紀に向けて「人道支援のロータリー」を強く打ち出し、2013-14年度から導入された未来の夢計画(Future Vision Plan)が2年目になろうとしています。

グローバル補助金は次のような活動に使用出来ます。

- ・人道的プロジェクト
- ・奨学金:大学院レベルの留学
- ・職業研修チーム

当2790地区も初年度からグローバル補助金の人道的プロジェクト4件と奨学金1件の申請が有りました。グローバル補助金のプログラムの主役は地区ではなく各クラブです。この地区研修協議会を通じて各クラブの活発な奉仕活動に役立つ事を期待しています。

グローバル補助金の使用にあたっては、活動が実施されるクラブ(地区)とそれ以外のクラブ(地区)がパートナーとなって協力することが求められます。また、双方が補助金を申請する前に参加資格の認定を受ける必要があります。要件として・ロータリーの6つの重点分野に該当すること。(平和と紛争予防/紛争解決・疾病予防と治療・水と衛生・母子の健康・基本的教育と識字率向上・経済と地域社会の発展)

- ・持続可能であり、補助金の資金が使い尽くされた後も活動成果が長期的に持続すること。
- ・成果が測定可能な目標を持っていること。
- ・地域社会のニーズに応えること。
- ・ロータリアンと地域社会の人々の両方が積極的に参加すること。

の5項目が挙げられています。グローバル補助金は年度を通じて随時申請することが出来ます。申請が受理された順に審査が行われますが3万ドル以上の活動が対象となります、内訳は地区財団活動資金(DDF)と同額の国際財団資金(WF)です。

グローバル補助金の奨学金制度も同じで、ロータリーの6つの重点分野で活動する未来のリーダーを

育成するためのものです。1～4年間の大学院レベルの学業または研究活動を支援しますが、派遣側と受入側の協力が必要で、申請前に参加資格の認定を受けることが必要であります。

グローバル補助金の申請はオンラインで行います。ロータリーのウェブサイト (Rotary.org) で「MyRotary」をクリックして行ってください。なお、グローバル補助金に関する詳細は www.rotary.org/ja/grants をご覧ください。

当 2790 地区のグローバル補助金の申請窓口は 2015～16 年度から地区国際奉仕委員会となります、地区 R 財団委員会としては年度の予算配分と管理を行います。各クラブの会長、幹事、R 財団委員長の皆様には特に地区国際奉仕委員会との連絡、連携をお願いします。

地区補助金を活用して地域・世界に貢献を！！

補助金小委員会

委員長 伊藤正人 (鴨川 RC)

ロータリー財団の「未来の夢計画」がスタートして 2 年がたち、(新) 地区補助金に対する理解も深まってきていると思います。地区補助金については、権限が地区に大幅に委譲されましたので、各クラブにとりましても使いやすくなりました。

ロータリー財団の資金はシェアシステムにより地区財団活動資金 (DDF) と国際財団活動資金 (WF) に配分されます。2790 地区では両者を合わせて、地区補助金、グローバル補助金、ポリオプラス、ロータリー平和センタへの寄贈を行ってきました。

地区補助金は、地元社会と海外において幅広い様々な人道的・教育的活動を支援するものです。クラブが実施する社会奉仕活動や国際奉仕活動に対する金銭的な支援です。

地区補助金の対象となる活動には、次のような条件があります。

- 財団の使命に当てはまる活動
- ロータリアンが積極的に関与する活動

2014 - 15 年度に 2790 地区で申請された補助金プロジェクトの件数は国内実施分 18 件、国外 9 件、合わせて 27 件、配分額は 53,649 ドル (約 547 万円) でした。プロジェクトの内容は、国内では環境関連や児童・青少年の保護・育成、交通安全など多岐にわたりますが、どれも各クラブが地元のニーズを掘

り起し、創意と工夫を凝らしてできることを実行するという印象を受けます。国外分については、対象国は東南アジア諸国が多く、教育や疾病予防の分野となっています。相手国との協議や調整など多くの困難があると思われそうですが、そのような条件下で 9 件ものプロジェクトを実施しようというロータリアンの人道性、積極性に敬服いたします。

地域社会などのニーズにこたえ、クラブ会員全員が参加して、社会奉仕活動や国際奉仕活動を実施することにより、地域社会に貢献するとともに、ロータリーの広報・PR にもなります。近年はロータリーでも“広報”の重要性がうたわれていますが、ロータリークラブは一体何をしているのか？ 地域社会ではまだまだ認知度が低いのではないのでしょうか。ロータリーが“よいこと”をやっているのだと、地域社会で知られるようになれば、一緒に地域社会、国際社会に貢献したいという人が増え、会員増強にもつながります。

2790 地区としては、各クラブにより多くの地区補助金を配分したいのですが、財源が DDF の 50% 以内という制約があるため、皆様の要望満額というわけにはいきません。2790 地区では、地区補助金の上限を事業費の半額かつ 30 万円以内と決めておりますので、ご了解ください。

地区補助金の申請は、地区が一括して 1 年度に 1 回のみ申請できますので、地区への申請書の提出締切は 4 月半ばごろとさせていただいております。提出された申請書をもとに適格性などを審査し、不正使用を防止するとともに、公平な配分を心掛けますので、この点についてもご了解願います。

ロータリー財団の使命

ロータリアンが健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること

年次寄付ゼロクラブをなくそう。

財団資金・推進管理小委員会

委員長 鈴木桂三 (柏西 RC)

当委員会はロータリアンの皆様に、ロータリー及びロータリー財団の奉仕活動を理解して頂き、ロータリー財団への今以上の御支援をお願いしていくことが主な役割です。ロータリーが奉仕活動をするためには、どうしても資金が必要です。その資金となるものは、全てロータリアンとその賛同者からの寄

せられた寄付金のみによって支えられております。そもそもロータリークラブとはなんでしょうか。資料によると「ロータリークラブとは、各人の個人生活・職業生活及び社会生活において奉仕の理想を実践の基盤とすることに同意した事業及び専門職務に携わる人々の集まりだ」とあります。要するにロータリークラブとは、毎日の生活において奉仕の理想を実践しようとする人々の集まりであります。それでは、奉仕の理想（最近では奉仕の理念と呼ばれておりますが）とは、どういうことでしょうか。ロータリークラブは今や世界の200国以上の国と地域に広がりその会員数は120万人、まさにグローバルな奉仕団体です。そこで私達も地域だけではなくグローバルな目で世界を見つめる必要があります。ロータリーの目標は世界親善、世界理解、世界平和の達成です。ロータリーでいう奉仕の理想（奉仕の理念）とはどういうことでしょうか。世界には不運にも苛酷な環境で暮らしている方がたくさんおります。私達ロータリアンは、そういう人々のことを思いやり、ただ思いやるだけでなくその方々に役に立つことをするというのが奉仕の理想（奉仕の理念）です。ロータリーの第一標語は超我の奉仕です。そしてロータリー財団の標語は世界で良いことをしようです。良いことをするにはやはり先立つ資金が必要です。

次にロータリー財団への寄付は大きく分けて3つあります。第一に年次寄付です。用途を決めない、一般的な寄付で、これは毎年する寄付です。あなたも毎年100ドルと言われているものです。2790地区では1人毎年130ドル以上をお願いしております。二番目に用途指定寄付です。これはポリオ撲滅への寄付に代表され、用途が決められている寄付です。ポリオについては、ポリオ・プラス小委員会から詳しく説明があります。そして三番目に恒久基金寄付です。元本はそのまま、その利息分だけをロータリーの奉仕活動に使用します。2017年までに10億ドルを目標にしております。最近一番問題になっているのが年次寄付ゼロクラブの存在です。2790地区でも数クラブあります。今年度も3月末で当地区は寄付ゼロクラブの数が全国でワースト2になっております。何とか年次寄付ゼロクラブを解消したいと考えております。

今日出席のロータリー財団委員会の方々には是非クラブで会員の皆様にロータリー財団とその奉仕活動に私達の寄付が如何に有益に無駄なく使われているかをお話し頂き、どうか当地区から年次寄付ゼロクラブがでないように御協力下さいますようお願いいたします。最近認証ポイント制度も変わりまして、恒

久基金寄付以外はすべての寄付に同額のポイントが付きます。年次寄付100ドルすると100ポイントつきます。1ポイント1ドル換算ですから有効にポイントを利用して年次寄付の増進に御利用頂きたいと思います。

ポリオ・プラス最終戦略

ポリオ・プラス小委員会

委員長 石井博（船橋南RC）

ポリオは日本では小児麻痺と呼ばれていましたので、ご存知の方も多いと思います。

日本では既に撲滅されておりますが、世界的には未だに発症例の報告があり、最終戦略が行われています。世界完全撲滅まであとわずか1%ですが予防接種が必要です。

2年前の8月における発症数は世界で6か国192例がありました。12-13年度通算では403例。昨年3月は5か国37例がありました。年間では359例。そのうち3カ国は常在国のパキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアです。今年の3月では2か国21例が報告されています。このように年々減少していますが、日本でもいまだに予防接種しているように、ポリオには予防接種が欠かせませんし予防接種には資金が必要です。財政資金の不足している国には、援助が必要です。

本日お配りした資料の中にあるように、寄付金はゲイツ財団が2倍を保証していますので、25ドルの寄付は75ドルとなり撲滅活動に使われますのでお願いいたします。この撲滅に必要な資金は一時7億ドルといわれていましたが皆様方のご寄付により昨年の8月には不足額は5.6億ドルとなりました。しかしまだ不足していることに変わりはありません。

皆さんはロータリーのプログラムにポリオ撲滅があるとご存知のことと思います。しかも特別プログラムとなっています。これは撲滅されるまでいかなるプログラムやプロジェクトより優先されるというものです。それにより世界では12月現在、寄付金総額の約15%がポリオに指定されていますが、日本では約10%、地区でも約10%となっています。それでも日本では昨年よりも増加し、ポリオへの関心が高まっています。

ポリオへの指定寄付は、WCSプログラムがなくなった今、国際奉仕プロジェクトの開発にご苦労されている多くのクラブにとり、絶好のチャンスと考えます。

またポリオに指定寄付すると、クラブで1500

ドル以上のクラブにはR Iより感謝状が贈呈されます。昨年度の14-15年度、地区では6クラブに贈呈されると本日発表がありました。15-16年度には現在のところ7クラブがあと少しで感謝状の対象となるクラブが数クラブあります。より多くのクラブが贈呈されるようにお願いします。

また地区内では事務局員がいないクラブも多々あると思います。寄付をしたくても寄付送金の仕方が分からなく寄付をしないクラブもあると思いますので、寄付送金明細書の記入方法と寄付金明細書を入れておきましたのでご利用ください。

グローバル補助金奨学生について

奨学金兼学友小委員会

委員長 小野塚雄 (松戸東 RC)

★グローバル補助金奨学生について

◎目的

他国の教育機関での勉学を通して、異なる国や地域の人々の間に理解と友好関係を推進するとともに、ロータリー財団「未来の夢計画」の目的である、世界の優先的な6つの重点分野(1.平和と紛争防止・紛争解決 2.基本教育と識字率向上 3.経済と地域社会の発展 4.疫病予防と治療 5.水と衛生設備 6.母子の健康)に取り組み、持続的かつ測定可能な成果を生む事にあります。奨学生は専門分野の研究を通して国際ロータリーの提唱する活動に協力し貢献する事が期待されています。

◎奨学金の種類

◎グローバル補助金の奨学生は、受け入れ国の語学に堪能であること。大学院レベルの教育プログラムで学ぶこと。海外に留学して学ぶこと。6つの重点分野に関する専攻課程で学ぶこと。

◎1~4学年間にわたって提供される。

◎奨学金は総額米貨\$40,000(旅費を含む)を支給。グローバル補助金を使用した奨学金では、DDFの拠出金にWFが同額上乘せされます。奨学金は\$20,000でWFからのグローバル補助金と合わせて\$40,000です。

◎応募条件

◎職歴不問

◎大学卒業以上

◎留学先の条件

海外の大学院レベルの教育機関で6つの重点分野

(1.平和と紛争防止・紛争解決 2.基本教育と識字率向上 3.経済と地域社会の発展 4.疫病予防と治療 5.水と衛生設備 6.母子の健康)に該当する専攻課程にすでに合格していること。

◎応募資格

*未婚・既婚を問わず18歳以上の男女

*優秀な学業成績を持つと共に、ロータリー国際親善使節としての素質を持っていること。

*指導力、独創性に富み、順応性、思慮分別を持ち、目的に対して誠実であること。

*留学先の言語に熟達し、講義を理解し、講演し、報告書を作成する事が出来ること。

*留学先の国情、国民性に関心と理解を持ち、日本の歴史、地理、文化、時事問題に明るいこと。

*申請時に国際ロータリー2790地区内に居住または本籍が有ること。

*申請時に国際ロータリー2790地区内に所在する大学または大学院に在学するか、或いは職場に勤務していること。

◎募集人数 1名

◎申請の資格なき者

◎ロータリアンまたは名誉ロータリアン、またはその実子、継子、孫、兄弟姉妹、配偶者及びその他扶養者。

◎奨学金有資格者に成る事を目的に退会した元ロータリアン。

◎申請時に留学先が確定していない者。

◎選考

◎奨学生候補者の地区推薦の選考

*地区内ロータリー・クラブにて推薦

*ロータリー財団本部による提案書審査

*ロータリー財団本部による申請書審査

◎2015~16年度ロータリー財団グローバル補助金奨学生募集スケジュール

ロータリー財団本部の承認後、2015年7月1日~2016年6月30日までの新学期から留学を開始できる方を対象とする。

*申請書受付後、地区内のクラブは随時選考を行う。

◎申請方法

◎応募者より条件を満たしているかを審査する。

◎クラブにおいてグローバル補助金奨学生プロジェクトを立ち上げ、代表連絡者を決定する。

- 留学先国の大学院の有る地域のロータリー・クラブとコンタクトをとり、実施国としての承諾を得る。
- 受け入れクラブにもグローバル補助金奨学生プロジェクトを立ち上げてもらい代表連絡者を決定してもらう。
- 援助国として、応募者を留学させるための提案書を作成し、ウェブサイトから申し込む。
- 応募者本人からウェブサイトで申請書を提出する。

以上がグローバル補助金奨学生制度のあらましです。

各クラブの会長はじめロータリー財団委員長は、グローバル補助金奨学生を見つけて推薦して下さい。

今回からのグローバル補助金奨学生制度は、非常に縛りがきつく、奨学生を送り出す事がかなり難しいと思います。地区内の各クラブにお願いする事は勿論、新世代奉仕や国際奉仕とのクロス・プロモーション（共同での活動）も必要と考えられます。

★地区補助金奨学生について

◎目的

国際ロータリー（RI）第2790地区は、ロータリーの理想に即した修学と奉仕を志す「地区補助金奨学生」を募集選抜し、奨学金の給付等を通じて国際理解と世界平和の促進を支援します。専攻分野は問いません。

◎＜応募資格＞

◎＜奨学金の条件＞

◎＜応募手順＞

◎＜提出書類＞

に関しましては、2015～16年度国際ロータリー第2790地区補助金奨学生募集要領をご覧ください。

ロータリー平和フェローシッププログラム

ロータリー平和フェローシップ小委員会
委員長 青木忠茂(船橋RC)

ロータリー平和フェローシップはロータリー財団の教育的プログラムのひとつです。グローバル補助金、地区補助金奨学生は、各地区で選考を行ないますが、ロータリー平和フェローはクラブ、地区の推薦を経て、世界を枠とする競争制によって全世界から毎年約60名(修士課程)が選ばれます。

ロータリー平和フェローシッププログラムはポール・ハリス没後50周年と財団の教育的プログラム創設50周年を記念して設立されました。それは、異なる地域の評価の高い8大学と提携して行なう、国際関係を研究するためのロータリー・ポール・ハリス・センター設立計画でした。2000年10月にこのプログラムは「紛争の解決と平和における国際問題研究のためのロータリー・センター」と名称を変えました。2005年2月の管理委員会の決定により、世界平和奨学金の名称を世界平和フェローシップに改正しました。そして、2009年10月にロータリー・センターの略称がロータリー平和センターに、世界平和フェローはロータリー平和フェローに改められました。

現在のロータリー平和センター・パートナー大学は国際基督教大学(東京三鷹)、ブラッドフォード大学(イギリス)、アメリカのデューク大学及びノースカロライナ大学チャペルヒル校、(この2校はひとつのロータリー平和センターを共有)、クイーンズランド大学(オーストラリア)、ウプサラ大学(スウェーデン)、チュラロンコン大学(タイ)の7大学です。以上の大学に国際関係を研究するためのロータリー平和センターがあります。そのうちチュラロンコン大学のロータリー平和センターでは、実務者のために年に25名ずつ3ヶ月の研究を2回行なう専門能力開発修了証プログラムが実施されています。その他のロータリー平和センターでは2年間の修士課程で国際問題、平和、紛争解決を研究するロータリー平和フェローの支援を行ないます。

ロータリー財団では、毎年7月1日を締め切り日として、全世界の地区から候補者の推薦を受け付けています。申請書類はwww.rotary.org/rotarycenters からダウンロードできます。

平和の担い手となる指導者を育成することを目的に進められている国際問題研究のためのロータリー平和フェローシッププログラムの充実は今現在のロータリーに課せられた大きな課題です。ロータリー平和フェローシッププログラムを発展させるためには、このプログラムの意義をみなさまにご理解いただきまして、候補者の発掘と推薦、財源確保のための寄付にご協力をお願いいたします。

米山記念奨学会部会



■米山記念奨学会部会

リーダー
アドバイザー

次期・米山記念奨学委員長
パストガバナー

堀口 路加
増田 豁

米山記念奨学会部会 アドバイザー挨拶

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
理事 増田 豁

皆様お忙しいのにきょうご参上くださいましてありがとうございます。

私は縁がありまして、昨年9月からロータリー米山記念奨学会の理事を仰せつかりました増田 豁と申します。千葉中央ロータリークラブに所属しております。ご存知のようにこの米山奨学会というのは設立されて約60年になります。豆辞典に詳しく書かれています。公益財団法人として認可されたのは2012年(平成24年)。日本国政府のお墨付きでございます。

こういうお役を受けてから慌てて勉強し直したのですが、米山記念奨学会というのはRI認定の多地区合同奉仕事業の一つであるということは知っていたのですが、これが3年に一度ずつ認可し直されるということを知ったのは私も初めてでございました。そのほか学友会というのがありまして、かれらは奨学期間が終わると学友会に所属してしまっていて、一番最後にはモンゴルの学友会が創立されておりますが、台湾、韓国、中国、タイ、ネパール、モンゴルの6つありまして、アジア地区で起きる反日運動に対し、彼らは非常に胸を痛めております。これを

よく理解するのは私たち以外にいとまで述べておりました、とても頼もしい限りであります。

きょうここで見渡しましたら、昔からいるベテラン会員がかなりおります。分区代理を経験された方も各委員長を経験された方もおります。こういうベテランの方の前で果たしてどの程度お話ができるかわかりませんが、新しい委員長が少しビビっているのではないかと思いますのでどうぞよろしく願います。とりとめのないご挨拶になりましたが、きょうほんの一時、よろしく願い致します。

2015学年度の重点課題

堀口路加委員長

2015-16年度第2790地区米山記念奨学委員会委員長を仰せつかりました成田RCの堀口路加でございます。よろしく願い致します。

本日この部会協議には地区内84クラブの米山記念奨学委員長および関係委員の方々にお集まりいただきました。この中には米山記念奨学事業について経験豊富で、多岐にわたって精通しておられる方や、米山委員長になられたこの機会に米山事業に対して本格的に取り組んでいこうと意気込んでおられる委員長さんもおられると思います。ベテランの諸先輩方には申し訳ございませんが本日はプログラム全体

を通して米山事業をおさらいする形で進めさせていただきますことご理解の程宜しくお願い申し上げます。

私は一昨年、1年間というお話で米山奨学生のカウンセラーをお引き受けしましたが、奨学生からの強い希望もあり、クラブ支援奨生として奨学期間を延長することになり、2年続けてのカウンセラーを務めながら、昨年、初めて地区のロータリー米山奨学委員の任を務めさせていただきました。委員会事業に携わることで、日本のロータリーが世界に誇る米山記念奨学事業の素晴らしさとその意義を改めて強く感じる事が出来た一人であります。

本日お配りしたロータリー米山記念奨学事業豆辞典3ページに奨学会のあゆみが掲載されています。1952年東京ロータリークラブが始めた「米山基金」は瞬く間に全国ロータリアンの共感を呼び63年を経た今日、「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」という日本のロータリー独自の「多地区合同奉仕活動」として国際ロータリーに承認され、2014年7月時点で、その出身国は123の国と地域、18,104人も外国人留学生に奨学金を支援し、世界に送り出しています(豆辞典6ページ)。豆辞典5ページに記されているように米山記念奨学事業の使命は「将来、日本と世界とを結ぶ『架け橋』となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成することです。これはロータリーの目指す“平和と国際理解の推進”そのものです。なぜ外国人留学生なのか、なぜ選考基準の重点が志の高さと優秀な人材なのかの答えがここにあります。

ロータリー活動の良き理解者に育てるために、世話クラブとカウンセラー制度が果たす役割は大きく、他のどの奨学金制度とも違う大きな特徴にもなっています。

さて、地区米山記念奨学委員会が1年間を通じ課せられた活動の主な内容は大きく分けて三つございます。

一つは米山記念奨学事業への理解促進と寄付増進。

二つには地区の奨学生採用方針の決定・選考・採用と世話クラブ選定作業。

三つには採用された奨学生や学友のフォローと地区学友会のサポートであります。

その中で特に各クラブに直接かかわって来るもの、一年間を通じクラブの米山委員長の皆さんに重

点的に行動していただく事が一つ目の「理解促進と寄付増進」であります。

地区内すべてのロータリアンに米山奨学事業をしっかりと理解して頂くには、奨学事業の成果をロータリアン一人ひとりにくまなく知って頂くことが一番の早道だと考えます。その為には地区委員や奨学生が出来る限り多くのクラブに訪問する卓話機会を設けて頂き、奨学事業の意義と成果を身近で感じてもらえる事が一番大切で必要な事と考えております。後ほど理解促進・寄付増進担当の委員からお願いがあると思いますが10月の米山月間に捉われることなく奨学生をクラブ卓話に招聘する例会プログラムを組み入れて頂き、米山記念奨学事業の理解促進に取り組んでいただきたいと思います。新年度に採用されました奨学生は継続奨学生を含め24名で、昨年の23名から採用人数が1名増になりました。本日、本会議で配布されました冊子「ロータリーを理解しよう」の44ページに「地区に割り当てられる米山奨学生はどのように決まるのでしょうか」という説明が書かれています。

- ①その年度の日本全体の寄付金収入予測に基づいて全体の採用数を決めます。2015学年度は720名でした。
- ②全体の採用数の50%を地区ごとの個人平均寄付額によって割り当てます。
- ③全体の採用数の40%を地区ごとの寄付金総額によって割り当てます。
- ④全体の採用数の10%を地区ごとで米山奨学金に応募資格のある留学生数によって割り当てます。

このようにして第2790地区には24名が割り当てられましたと説明されています。当地区と各クラブの寄付金の状況については後ほど寄付増進担当から説明させていただきますが、ロータリアンの皆様からの寄付は、このように地区に割り当てられる奨学生数にも大きく影響します。それだけにできるだけ多くのロータリアンの方々に、実際に奨学生の考えや志、将来の目標などをお聞きいただき、なるほど、こういう奨学生ならば寄付しようという納得感をお一人お一人実感していただくことが大切だと思います。きょうお集まりいただきました各クラブの米山委員長の皆様には米山記念奨学事業理解促進のため、クラブ会長と共に率先して米山奨学事業の理解促進と寄付金増進に向けご協力頂ける事を願ってやみません。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

3月のPETSの際に資料として配布したもので

すが、今年度の重点活動計画を配布させていただきました。お読みいただければと思いますが、3点のことについて重点的な課題として意識して委員会活動をしてまいりたいと思います。

(1)奨学生指導教員へのロータリー活動と米山記念奨学会の目的趣旨の周知

奨学生が中国・韓国に偏っていないかとの疑問、批判をお聞きすることがあります。2015-16 学年度の米山奨学生の応募書類から、指導教員の多くが推薦書に「経済的困窮」を理由に挙げており、奨学会本来の目的趣旨と異なる視点で留学生の多い中国・韓国に偏った学内選考が行われている印象があります。こうしたことから7月の奨学生・カウンセラーセミナーには指導教員の出席を求め、米山奨学金制度の目的が「将来母国と日本との架け橋となって国際親善と国際平和のためにつくす人材」を育てることにあり、経済的困窮を支援する他の奨学金制度と違うこと、全国のロータリアンの寄付金により成り立っていることを認識してもらい、ロータリー活動に奨学生が積極的に参加できるよう理解を求めます。

(2)米山奨学生へのロータリー活動と米山記念奨学金制度の目的趣旨の周知

2015-16 学年度の奨学生選考面接から、応募者もロータリー活動と奨学会本来の目的趣旨に関し、十分な理解をしているとは言えない状況が浮き彫りになりました。従来、4月オリエンテーション以降7月まで奨学生が一堂に会する機会がなかったことから、6月に奨学生研修会を設け、ロータリー活動と米山記念奨学金制度について改めて理解を深め、「将来母国と日本との架け橋となって国際親善と国際平和のためにつくす自覚」を醸成する機会としたい考えです。また、9月以降スタートする米山奨学生の卓話訪問を通じて、奨学生が受け取っている米山奨学金は、地区のロータリアンの方々からの寄付金が原資になっていることを実感させるとともに、ロータリアンの皆さんが奨学生の姿をみて、納得して寄付をしていただけるよう奨学生の意識を育ててまいります。

(3)米山奨学生と世話クラブ・学友会との継続的関わり

米山学友の社会での活動をより多くのロータリアンに知っていただくため、地区大会でホームカミングを実施したい考えです。同時にその機会を通じて地区米山学友会の交流の活性化を図ります。また、学友会フェイスブックページを立ち上げ、SNS上の交流も可能とし、奨学期間終了後も学友同士のみ

ならず世話クラブ、カウンセラー、ロータリアンの交流の場を提供したい考えです。さらにカウンセラーと奨学生の関わり、世話クラブと奨学生の関わり方についての具体的な方策について意見交換をする意味から、地区委員で分担して24の世話クラブを訪問したい考えです。

一年間どうぞよろしくお願い致します。

寄付・卓話担当 野口アキ子（千葉西）

地区米山記念奨学会寄付金を担当させて頂くことになりました千葉西 RC の野口と申します。

今日はお忙しいところ、皆様の貴重な時間を頂戴しありがとうございます。米山記念奨学会という、この素晴らしい事業のご理解を頂きたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

皆様のお手元の豆辞典5ページに「事業の使命」が記載されています。将来、日本と世界とを結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリーの目指す“平和と国際理解の推進”そのものです。平和を目的とした人材を育成していくのに米山記念奨学会が必要である事又、この事業は国際ロータリーではなく日本ロータリー独自のものであることが、この半世紀にわたり受け継がれてきている事業の内容です。

「日本のロータリーの創始者、故・米山梅吉翁の偉業を記念し、後世に残るような有益な事業を立ち上げたい」ということから、1952年東京ロータリークラブが発表したのは、海外から優秀な学生を日本に招き勉学を支援する奨学事業「米山基金」の構想でした。

そこには、二度と戦争の悲劇を繰り返さない為に国際親善と世界平和に寄与したい・・・という、当時のロータリアンたちの強い願いがあったのです。ということで、これを基点として50年以上の歴史を持つ、世界に類を見ない日本のロータリー独自の多地区合同奉仕活動であることを先ず認識し、更に日本のロータリアンの誇れる事業であることを委員長様に理解して頂き、クラブ会員にも説明し事業の発展のためご協力をお願い致します。そしてこの素晴らしい事業を委員長も一緒に行ってほしいと考えています。

そのために役立てていただきたいツールをご説明致します。

(1) DVD を活用して下さい。各クラブ最低一度は上映を行って下さい。その内容としては

- ①心つないで世界へ
- ②素晴らしい贈り物
- ③東京米山友愛 RC 加盟承認状伝達式
- ④中国米山学友会 2010 年度総会・懇親会 in 上海
- ⑤米山学友インタビュー第 18 代駐日韓国大使
(クオンチョルヒョン) 大使
- ⑥米山学友座談会 学友が語る母国の女性自立支援
これらの DVD を例会で放映し、米山学友の活躍を紹介する機会を設けて下さい。DVD は無料にてお届けできます。また、米山記念奨学会ホームページでも動画を閲覧できます。

(2) 広報のための活用ツール

① 豆辞典

米山月間に合わせ会員全員に配布されます。希望のクラブにはプレゼン用パワーポイントもお届けできます。

② 「ロータリーの友」よねやまだより

毎月の「友」に掲載されますことをクラブ会員にご周知ください。

③ ハイライトよねやま

米山記念奨学会のニュースレターです。ガバナ―事務所より、クラブオールのメールにて各クラブに配信されますので、プリントアウトしてお配り下さい。

④ 米山記念奨学会ホームページ

<http://www.rotay-yoneyama.or.jp/>
様々な情報を入手できます。クラブの皆さんのパソコンに「お気に入り」で登録してください。

(3) 奨学生・学友の卓話・・・積極的に行ってまいりますので、各クラブでも極力取り入れて頂きますようお願い致します。米山月間は 10 月ですが、一年を通じて卓話の受け付けも致しますのでクラブのプログラム作成の際、月間以外での卓話もご検討いただけますようお願いいたします。以上申し上げましたように DVD、広報、卓話などという形で米山記念奨学会を理解の上、活動して行きたいと思えます。

こうして、素晴らしい事業が展開されていくことに対し、その事業が皆様方の寄付によって成り立っているということで、寄付をして頂かなくてはなりません。そこで寄付基金がどのように使われているかについては「豆事典」の 7 ページに記載されています。

2013 年—14 年度の決算を見ますと、寄

付金合計 13 億 3,700 万円と過去 5 年間で最高額となりました。そして奨学金、補助費支出は 12 億 4,300 万円で前年度に比べて 1 億円以上減少しました。これは主に昨年 4 月から採用数を 800 人から 700 人へ縮減したことによるものです。事務費や人件費等の管理費支出は、資産の利子収入で補っていますので、頂いた寄付金、全て奨学生のために使っています。

また、8 ページには財政状況が載っています。参考にして下さい。このように、素晴らしい事業なので、なるべく奨学生を減らさないようにしていきたいと考えます。

続いて寄付金というものにはどのような種類があるかについては 9 ページに書かれています。普通寄付金は全ロータリアンからクラブを通じて定期的にいただく寄付。「普通寄付金は義務ですか?」ということについては義務ではありませんが、財団法人の認可を受けた経緯や他地区合同奉仕活動であることを理解し、なるべく寄付をしてほしいと思います。全クラブ未納のないようにしていただきたい。寄付額お一人 15,000 円以上を達成するために、クラブ内での寄付増進の工夫をお願いしているところです。

クラブ内寄付増進の工夫についてご説明させていただきます。

米山奨学会の寄付金についてはいろいろなアイデアがなされています。一番多いのは米山ランチで、月に一度、通常より 500 円～1,000 円安いランチにし、それを寄付金に回しています。これから実施される場合は、無理なく月に一度でなくても結構ですので 10 月の米山月間に行うような工夫もお願いします。

クリスマス会等でオークションなどを行い、収益金の一部を寄付金にする。又は、クラブ創設記念式典の記念に寄付をする等の工夫をし、寄付金の増進にご協力をお願いいたします。

税制上の優遇措置

豆辞典 11 ページに記載されていますように、財団法人ロータリー米山記念奨学会は「特定公益増進法人」として認定されているため、当会に対する寄付金は所得税(個人)、法人税(法人)の免税優遇が受けられます。

最後に米山記念奨学会への啓発運動に対する更なるご協力をお願い致します。併せて本日の研修へのご協力に感謝致しましてご説明とさせていただきます。ありがとうございました。

2015-16年度・地区研修協議会 奨学生クラブ卓話について

奨学生卓話担当 石田善一

私は、奨学生卓話に付きまして説明させていただきます。お配り致しました用紙は卓話依頼の用の用紙です。

10月、米山月間に奨学生をクラブへお呼び頂き奨学生が今、どの様な事を勉学・研究しているかをお聞き頂きたいと思えます。

一度に多くのクラブより、お声を掛けられますと月間月では耐用が出来ませんので、まず各クラブより応募をお願い致します。

実施期間につきましては、9月中旬より11月末を予定しております。奨学生の勉学に影響の無い様に、予定を地区委員会で組みますので、希望第一位・第二位をお願い致します。此方より、返事を致します。

卓話を通じ、奨学生がロータリークラブへの理解など話を頂き、クラブ会員の皆様が一層理解を示し、ロータリー米山記念奨学事業への協力をお願いしたいと思えます。

多くのクラブより、卓話依頼をお願い致します。宜しくお願い致します。

選考担当 山崎浩一

去る4月18日(土)、2015学年度の奨学生オリエンテーションが行われました。今年度は新規奨学生18名、継続奨学生6名、合計24名の奨学生を各世話クラブにお願いすることになりました。

我々、地区委員に毎年配布されるハンドブックの表紙にこんな言葉が書かれています。

「米山奨学事業の価値は、どんな奨学生を採用したかで決まります。」我々地区委員は、この重き言葉を胸に刻んで一年間仕事をして行く事を皆様方の前でお誓いし説明に移りたいと思えます。

先程、皆様方に堀口委員長から説明のあった委員会重点活動計画の第一項目に奨学生指導教員に対し米山記念奨学会の目的趣旨の周知というのがありました。

どうしても我々地区委員に対し一番多く届けられる声が米山の奨学生って中国・韓国に偏っていないかとの疑問・ご不満・ご批判でございます。

この問題の取組みとして考えたのがこの施策であります。確かに彼らは、日本語も堪能で大学の教員との距離感が近い事が、学内選考でも有利に働いてきた経緯があったかと思えます。

我々が選考基準の説明を行う際は大学の事務局の方が多く来ております。しかし奨学生の学内選考に

関わるのは指導教員が携わる事が殆どの為、ロータリークラブ・米山奨学事業への理解なしに選考されるという結果になっていると考え、この様な試みをする事にしました。

彼ら指導教員に対し我々が、国籍バランスを重んじている事、並びに奨学生へのロータリー活動への参加の後押しをもして頂ける様、確実にこの場で伝えようと考えた訳であります。

それと同時に皆様にご理解頂きたいのは、在日留学生約14万人といわれる約6割、8万6千人が中国の留学生であります。次いで韓国・台湾が続く、漢字圏の地域だけで全体の8割を占めてしまっている事もご理解ください。実際には日本を留学先に選ぶ学生の国籍数が増えなければならないという問題も含んでいる事になる訳であります。

それでは、選考の今後のスケジュールを説明致します。

先ず6月初旬に奨学会理事会にて地区別割り当て人数が決定します。

2015学年度の奨学生は、720名。2790地区には24名が割り当てられました。1名増になりましたのは皆様方からの御寄付が増えたという事です。本当にありがとうございました。

6月11日に指定校選定委員会を開催し、7月9日に大学説明会を行います。2015学年度は48名を被推薦者人数としました。この人数は、地区別割り当て人数の2倍の人数であります。選考に我々が当たって丁寧に面接する事が可能な人数として設定しているものであります。

10月中旬に応募が締め切られ地区ごとに書類審査に入ります

2015学年度は40名の応募がありました。そして翌1月9日に次年度の選考面接を予定しています。

「将来日本と世界を結ぶ架け橋として国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となり、平和と国際理解を推進する事の出来るもの」を選考基準として行います。

尚、2790地区の選考基準として、日本語で意思疎通の出来る学生及び努力が認められる学生。複数の被推薦者がいる場合は、1カ国の割合を50%以内とする等、4項目の基準をも考慮し選考してまいります。

そして翌日の1月10日判定会にて奨学生候補を決定します。

2月には、世話クラブを決定しカウンセラーの選任を皆様方をお願いすることになるかと思えます。

以上が今後のスケジュールであります。こうしたスケジュールを通して次年度の選考が進んで行く事をご承知頂きますよう宜しくお願い致します。

各クラブの会員の皆様方にご賛同を頂けるような奨学生を選考出来る様努力して参ります。

学友担当 小川 一

2015 学年度の米山記念奨学委員会の行事予定をお知らせいたします。

2015 年 4 月 18 日 (土) 14:00

奨学生・カウンセラーオリエンテーション (船橋グランドホテル)

2015 年 4 月 29 日 (水)

地区研修・協議会 (アパホテル&東京ベイ幕張ホール)

2015 年 6 月 6 日 (土) 14:00

奨学生研修会 (千葉市国際交流プラザ)

2015 年 7 月 9 日 (木)

2016 学年度米山記念奨学生大学説明会 (千葉市民会館)

2015 年 7 月 25 日 (土)

奨学生・指導教員・カウンセラー研修会・懇親会 (船橋グランドホテル)

2015 年 8 月 23 日 (日)

クラブ米山委員長セミナー (成田ビューホテル)

2015 年 9 月 5 日 (土)

バーベキュー大会 (東京情報大学)

2015 年 10 月 4 日 (日) - 5 日 (月)

米山梅吉記念館探訪研修旅行

2015 年 12 月 5 日 (土) 学友会忘年会 (場所未定)

2016 年 1 月 9 日 (土)

2016 学年度米山記念奨学生選考試験

2016 年 1 月 10 日 (日)

奨学生・カウンセラー懇談会・新年会 (場所未定)

2016 年 2 月 6 日 (土) - 7 日 (日)

地区大会、米山の集い (場所未定) 米山学友ホームカミングを計画中

2016 年 3 月 12 日 (土)

終了式・歓送会 (場所未定)

場所等未定のことについては決まり次第お知らせいたします。クラブ米山委員長の皆様には是非とも 8 月 23 日のセミナー、2 月 6 - 7 日の地区大会には是非ご出席いただきますようお願いいたします。

講評

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

理事 増田 豁

活発なご意見ありがとうございました。若潮ロータリークラブから出されました学友の掘り起こしの件でございます。私、先月、15年くらい前にお世話した学生を探し求めて探したらピタッと居場所はわかりました。しかしそこに住んでいるかどうかどうかはわからない。私は手紙を出しましたが返事は来ませんでした。その範囲での記録はあるということです。私もロータリーの会員になりまして30年以上になりますが、財団にしても米山の奨学会にしても、良いことをやっているというのははっきりしていると思います。そのためにいろいろな情報を入手すること、米山だよりとか、奨学生の卓話を頂戴するとか、委員の卓話を頂戴するとかあると思うんですが、要は「習うより、慣れる。」、世話クラブあるいはカウンセラーをお受けになって、学生を1年でも2年でもお世話する。実際にそういう若い学生に接してみますとやはり、彼らは試験を通過してきただけあって、あるいはよその国に来て勉強しようというだけあって、会ってみていつもとても清々しい気持ちになっております。とにかく「習うより、慣れる。」、時間と余裕があったらカウンセラーとか世話クラブをお受けしていただけたらと思うわけです。あとお昼ご飯の時に、宇佐見ガバナーが、ネパールで今回地震がありました、支援金を送りたい。ネパールにロータリークラブがあるかわからないなんて言っていましたら他の人にあるにきまつてるじゃないかと怒られていましたが、ネパールの留学生が3人ほど千葉県にいるということでしたから、私は宇佐見ガバナーにこの旨をお話して、この学生を通してでもいいからクラブを探して、地区として一人頭千円の支援金を集めさせていただきたいという話を私たちにしてくれておりました。これからも皆様どうぞお力添え、よろしくお願いしたいと思います。

2015 - 16 年度

委員長	堀口路加 (成田)
副委員長	山崎浩一 (佐原香取)
委員 寄付・卓話担当	石田善一 (市川南)、 野口アキ子 (千葉西)
学友担当	小川 一 (松戸) 上野 聡 (市原)

選考担当(学友担当兼任) 山崎浩一

ロータリアンの行動規範

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

1. 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
2. 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
3. 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
4. ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。

